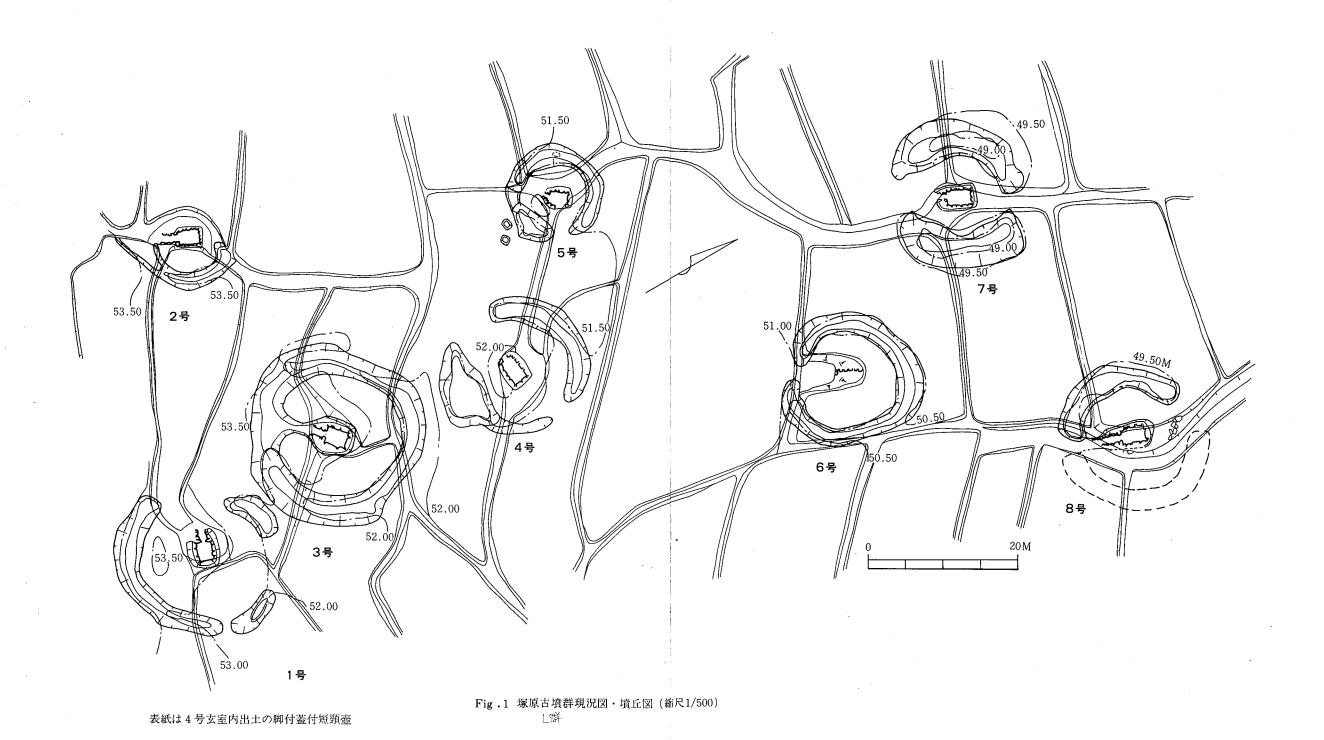
福岡市西区

吉武塚原古墳群

福岡市埋蔵文化財調査報告書第54集



福岡市教育委員会



J. C. L.



調査前と調査終了後の吉武塚原

吉武塚原古墳群

序文

本市の西南部一帯は、美しい碁盤目をなす田園風景が、条里施行時の姿をほぼとどめて広がっており、条里制の研究に重要な地域とされております。

近年この地域において、ほ場整備事業が行われ、このため に消滅する埋蔵文化財の調査の件数も増加の傾向にあります。

このたびのほ場整備事業は比較的小規模な事業でありましたが事業区域内に古墳8基が存在し、その大半が基幹道路にかかるため、教育委員会が調査主体となり発掘調査を 実施いたしました。

53年度の調査に当りましては、吉武天神土地改良事業施行組合のご理解により実施し、 54年度につきましては国庫補助事業により実施しました。

本書が市民各位の文化財保護思想育成に活用されるとともに,学術研究の分野において役立つことを願うものであります。

調査に際しましては、多くの方々のご協力をいただきましたことに、厚く謝意を表する次第であります。

昭和55年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 西津茂美

- 1 本書は福岡市西区吉武字塚原・天神地区のほ場整備事業に伴い一部原因者の負担と昭和54 年度国庫補助事業として福岡市教育委員会文化課が発掘調査を実施した吉武塚原古墳群の発 掘調査報告書である。
- 2 事業は福岡市教育委員会文化課が行なった。発掘調査は二宮忠司が担当し、事務は三宅安 吉・国武勝利・岡嶋洋一が担当した。調査補助員として渡辺和子・福尾正彦が参加した。
- 3 本書の執筆・実測・写真・トレース等は二宮と渡辺が行なった。また拓影は手嶋寿美子・ 深見まさ代の協力を得た。
- 4 遺跡の調査・遺物に関して森貞次郎・西谷正・小田富士雄諸先生ならびに武末純一・柳田 純孝・飛高憲雄・柳沢一男・力武卓治・塩屋勝利・宮内克己諸氏の助言・協力を得た。
- 5 本書は二宮・渡辺が編集した。
- 6 鉄滓の分析に関しては大澤正己氏に依頼し、紙面上夫婦塚古墳群(四箇周辺遺跡調査報告書)の中に収録した。

調査の組織と構成

1. 発掘調査の組織

調査委託者 吉武土地区画整理組合

調査主体 福岡市教育委員会

2. 発掘調査の構成

調查担当 福岡市教育委員会文化部文化課埋蔵文化財第二係

事務担当 三宅安吉・国武勝利・岡嶋洋一

発掘担当 二宮忠司・柳田純孝・ 補助員 渡辺和子・福尾正彦

資料整理 山崎由実子・隅田友子・原田順子・的場由利子・手嶋寿美子・花畑照子・岩永真 弓・亀井康子・高木正子・江田絹代・雪吉良子・水谷紀世・高木順子

調 査 牛尾準一・平田正義・古賀俊雄・白土義実・森邦雄・掘川亮二・青柳美智子・結協力者 城しず・柴田信子・白坂フサヨ・宮崎ほずえ・宮崎文子・惣慶富子・伊藤ミドリ 吉住ふさの・仁田原絹代・柴田勝子・柴田タツ子・石橋千恵・牛尾くめ・結城千 賀子 他

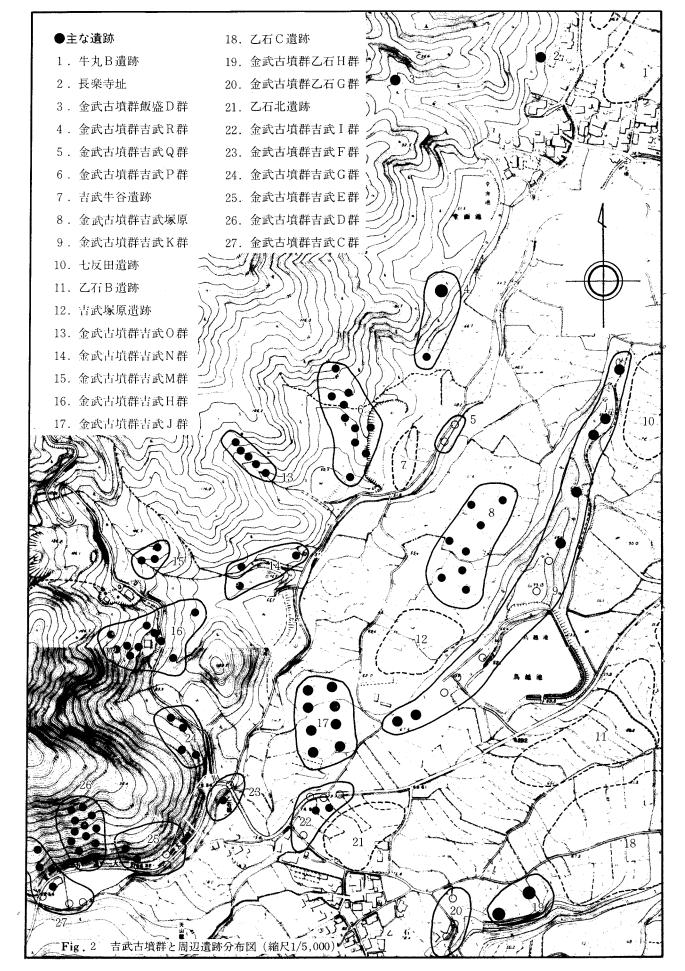
本 文 目 次

| 第1章 | 発掘調査の概要 | 2 |
|-----|---------------|----|
| 1 | 吉武塚原古墳群の位置と周辺 | 2 |
| 2 | 発掘調査に至るまで | 2 |
| 第2章 | 調査の記録 | 3 |
| | 第1号墳 | 6 |
| | 第2号墳 | 7 |
| | 第3号墳 | 13 |
| | 第 4 号墳····· | 17 |
| | 第 5 号墳 | 29 |
| | 第6号墳 | 35 |
| | 第 7 号墳····· | 37 |
| | 第8号墳 | 44 |
| 第3章 | 結語にかえて | 51 |

挿 図 目 次

| Fig. | 1 | 吉武塚原古墳群現況図・墳丘図 | (縮尺1/500) |
|------|----|---|----------------|
| Fig. | 2 | 吉武古墳群と周辺遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | (縮尺1/5,000)1 |
| Fig. | 3 | 土器分類図 | (縮尺1/6)4 |
| Fig. | 4 | 1 号墳現況図 | (縮尺1/200) 折り込み |
| Fig. | 5 | 墳丘図 | (縮尺1/100) " |
| Fig. | 6 | 土層図 | (縮尺1/60) " |
| Fig. | 7 | 石室実測図 | (縮尺1/40) " |
| Fig. | 8 | 土器実測図 | (縮尺1/3)" |
| Fig. | 9 | 鉄器実測図 ····· | (縮尺1/2)" |
| Fig. | 10 | 2 号墳現況図 | (縮尺1/200)" |
| Fig. | 11 | 墳丘図 | (縮尺1/100) |
| Fig. | 12 | 土層図 | (縮尺1/60) " |
| Fig. | 13 | 石室実測図 | (縮尺1/40) " |
| Fig. | 14 | 养道部閉塞状態実測図····· | (納尺1/40) " |
| Fig. | 15 | 土器実測図-1 | (縮尺1/3)9 |
| Fig. | 16 | 土器実測図-2 | (縮尺1/3)10 |
| Fig. | 17 | 土器実測図-3 | (縮尺1/4)11 |
| Fig. | 18 | 玉・鉄器実測図 | (縮尺1/2・1/3) 12 |
| Fig. | 19 | 3 号墳現況図 | (縮尺1/200) 折り込み |
| Fig. | 20 | 墳丘図 | (縮尺1/200)" |
| Fig. | 21 | 土層図 | (縮尺1/60)" |
| Fig. | 22 | 石室実測図 | (縮尺1/40)" |
| Fig. | 23 | 养道部閉塞状態実測図····· | (縮尺1/40) " |
| Fig. | 24 | 土器実測図-1 | (縮尺1/3・1/4) 15 |
| Fig. | 25 | 土器実測図-2 | (縮尺1/3・1/4) 16 |
| Fig. | 26 | 玉・鉄器実測図 | (縮尺1/2・1/1) 16 |
| Fig. | 27 | 4 号墳現況図 | (縮尺1/200) 折り込み |
| Fig. | 28 | 墳丘図 | (縮尺1/100)" |
| Fig. | 29 | 土層図 | (縮尺1/60) " |
| Fig. | 30 | 石室実測図 | (縮尺1/40)" |
| Fig. | 31 | 遺物出土状態実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | (縮尺1/30)" |
| Fig. | 32 | 土器実測図-1 | (縮尺1/3)19 |
| Fig. | 33 | 土器実測図ー2 | (縮尺1/3)20 |
| Fig. | 34 | 土器実測図-3 | (縮尺1/3)21 |
| Fig. | 35 | 土器実測図-4 | (縮尺1/3)22 |
| Fig. | 36 | 土器実測図ー5 | |
| Fig. | 37 | 土器実測図-6 | (縮尺1/3・1/4) 24 |
| Fig. | 38 | 土器実測図-7 | (縮尺1/3・1/4) 25 |
| E: ~ | 30 | 十架事測図 _ g | (統尺1/3・1/4) 26 |

| Fig. | 40 | 玉・鉄器実測図-1 | (縮尺1/2)27 |
|------|----|---|-----------|
| Fig. | 41 | 鉄器実測図ー2 | |
| Fig. | 42 | 5 号墳現況図 | |
| Fig. | 43 | 墳丘図 | |
| Fig. | 44 | 土層図 | |
| Fig. | 45 | 石室実測図・・・・・・ | |
| Fig. | 46 | 土器実測図~1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| Fig. | 47 | 土器実測図-2 | |
| Fig. | 48 | 土器実測図-3 | |
| Fig. | 49 | 土器実測図~4 | |
| Fig. | 50 | 玉・鉄器実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| Fig. | 51 | 6 号墳現況図 | |
| Fig. | 52 | 墳丘図 | |
| Fig. | 53 | 石室実測図 | |
| Fig. | 54 | 土層図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| Fig. | 55 | 土器実測図-1 | |
| Fig. | 56 | 土器実測図ー2 | |
| Fig. | 57 | 玉実測図 | |
| Fig. | 58 | 7 号墳現況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| Fig. | 59 | 墳丘図 | |
| Fig. | 60 | 土層図 | |
| Fig. | 61 | 石室実測図 | |
| Fig. | 62 | 土器実測図-1 | |
| Fig. | 63 | 土器実測図-2 | |
| Fig. | 64 | 土器実測図-3 | |
| Fig. | 65 | 土器実測図-4 | |
| Fig. | 66 | 鉄器実測図 | |
| Fig. | 67 | 玉実測図 | |
| Fig. | 68 | 8 号墳羨道部閉塞状態実測図 | |
| Fig. | 69 | 8 号墳現況図 | |
| Fig. | 70 | 墳丘図 | |
| Fig. | 71 | 土層図 | |
| Fig. | 72 | 石室実測図 | |
| Fig. | | 土器実測図-1 | |
| Fig. | 74 | 土器実測図-2 | |
| Fig. | 75 | 土器実測図-3 | |
| Fig. | 76 | 土器実測図-4 | |
| Fig. | 77 | 玉実測図 | |
| Fig. | | ヘラ記号図 | |
| Fig. | | 坏内面の同心円文タタキ | |



第1章 発掘調査の概要

1 吉武塚原古墳群の位置と周辺

背振山系から派生した山塊は、西山・飯盛山・叶岳から長垂の海岸まで続き、ここで糸島平野と早良平野を分断する。西山・飯盛山・叶岳・長垂山の東山麓は多くの低丘陵形成がみられ、これらの低丘陵上には10数基を単位とした群集墳が数多く存在し、「サワラ古墳群」中の拾六町支群・羽根戸・野方支群・長石・乙石・萩原支群に分けられている。また古代における怡土より早良郡方面へぬける重要な交通路でもあった日向峠も西へ2㎞の地点にあり、歴史的・政治的にも古くよりまとまりのある地域であった事が窺われる。

本古墳群は早良花崗岩を母岩とする飯盛山の東山麓に位置し、長石・乙石・萩原支群の中に包括されている。飯盛山に源を発した日向川は古墳群の西側山麓に沿って北流し、東側は西から北へとのびる舌状の低丘陵のために古墳群は東西を限られ南から北へ向かって、ゆるやかな傾斜をもつ標高49mから53mの間の一見盆地様相を示す平坦な水田に立地している。

当古墳群の周辺には先土器・繩文・弥生時代の遺跡として吉武塚原・吉武牛谷・牛丸 A・B 七反田・萩原・乙石北・乙石 A~C・乙石浦田の遺跡が確認されている。さらにこの周辺一帯には金武古墳群吉武B~K・M~Q群・金武乙石B~C・E~G群、飯盛古墳群D群が密集し形成されている。当古墳群もそれらの一部をなすことはいうまでもなく、その中で一番標高の低いところに立地している。東側の舌状の低丘陵上には装飾古墳(吉武 K群)がある。また「筑前国続風土記」の「……乙石の北二町斗に石窟二あり。共に口は南にむかえり」にみられる夫婦塚1・2号墳は南に所在する。この古墳は緊急調査が実施されており、五鈴鏡が出土した。また西側には、やはり調査の実施された乙石 C群1・2・3号墳、吉武 E群3・4・5号墳が所在し、調査の結果斜面に構築された小形の横穴式石室であることが明らかとなった。なお当古墳群は吉武 L群として報告されていたが、本書では吉武塚原古墳群とした。

2 発掘調査にいたるまで

昭和53年に吉武天神土地改良事業組合から水田利用再編対策事業としてほ場整備事業を実施するが地区内に古墳があるので調査してほしいとの依頼があった。分布調査により地区内に8基の円墳が存在し、再三の協議を重ねた結果、保存することは困難との結論に至り、発掘調査を実施することとした。調査は昭和54年3月から実施することとし、3月は組合から作業員等の動入をお願いし、昭和54年4月から国庫補助事業を受けて調査を実施することとなった。

第2章 調 査 の 記 録

各古墳の概要

調査記録の詳細は、各項で記載するのでここでは各古墳の特徴にふれてみたい。1号~8号墳まですべて周溝を持つ古墳群で、その周溝のあり方も5つのタイプに区別できる。石室開口方向はほぼ西側に1号と4号、南側は3号、ほぼ北側は2号、5~8号である。墳丘の形態・大きさは下記の表で示すごとく周溝まで含むと最大が45m、最小でも26mと規模が大きい。

出土遺物も残存状態から考えられない程の出土量である。1・3・6号墳は盗掘を受けて量的には少なかったが、他の2・4・5・7・8号墳の石室・周溝から多種多様の器種が検出された。特に4号玄室から出土した一括資料、1・8号墳から出土した陶質土器、5号墳から脚付六連杯・4号玄室の脚付有蓋壺・鋳造鉄斧を含む鉄器・玉類を検出した。

第1表 墳丘計測表 ※内径・外径・周溝(幅・深さ)は、玄室センターを中心に最大部分を 計測したものであり、細部のデータとは若干のくい違いがある。(株面高は標高を示す)

| | | 1 号墳 | 2 号墳 | 3 号墳 | 4 号墳 | 5 号墳 | 6 号墳 | 7 号墳 | 8 号墳 |
|---|------|---------------|---------------------|-------------|---------------------|------------|----------|------------------------------|-------------|
| 墳 | 形 | 不整円形 | 不整円形 | 円形 | 不整円形 | 円 形 | 不整円形 | 不整円形 | 不整円形 |
| 石 | 方 位 | N -16° -W | S -28° - W | S -41°-W | S -86°-W | S -38°-W | S -36°-W | S -27°-W | S -15° - W |
| | 玄室面積 | $4.75 m^2$ | 4.94 m ² | $6.09 m^2$ | 6.70 m ² | $4.14 m^2$ | | 6.20 m² | $6.60 m^2$ |
| 室 | 床面高 | 53.35 m | 53.34 m | 51.54m | 51.78m | 51.88 m | 50.86m | $\binom{50.17 m}{49.87 m}$ | 49.62 m |
| 内 | 径 | 29.7 m | 9.6m | 31.8m | 22.5 m | 15.7 m | 24.8m | 19.5m | 12.5 m |
| 外 | 径 | 40 <i>m</i> | 14 m | 45.4m | 41.5m | 26 m | 34.8 m | 39.2 <i>m</i> | 18.5 m |
| 周 | 幅 | 6.2m | 4.3m | 6.0m | 5.3m | 5.0m | 5.0m | 8.0m | 7.0m |
| 溝 | 深さ | 0.75 <i>m</i> | 0.25 m | 0.25 m | 0.25 m | 0.25 m | 0.25 m | 0.25 m | 0.35 m |

土器

1~8号墳の石室内・周溝内より数多くの須恵器・土師器が出土した。実測を行なった土器だけでも500点以上で、まだ実測可能な資料が数多くある。本報告書では、事実の報告という点から図面類を主に収録することにつとめた。このため紙面の都合上、土器等の説明を簡略しなければならなかった。このため多量にある須恵器の杯蓋・杯身・有蓋高杯・無蓋高杯・態等については説明を簡略にするためにあらかじめいくつかに類別しておきたい。

須恵器 杯身・蓋は5類に大別する。 I 類の蓋は体部と天井部との境に凹線があり、口縁内面には段をもつ。杯身では立上りが高く(1.3∞内外)やや内弯する形態をもつ。ヘラ削りは2/3~1/2程度。 II 類は口縁内面に弱い段をもつが天井部と体部の境には凹線は認められない。杯身は I 類より立上りは低く、1 ∞前後、I 類より内弯する。ヘラ削りは1/3程度。 III 類は、小型化が著しく、杯蓋では内面の沈線、体部と天井部との境もきえて先端部も丸くおさまる。 杯身は立

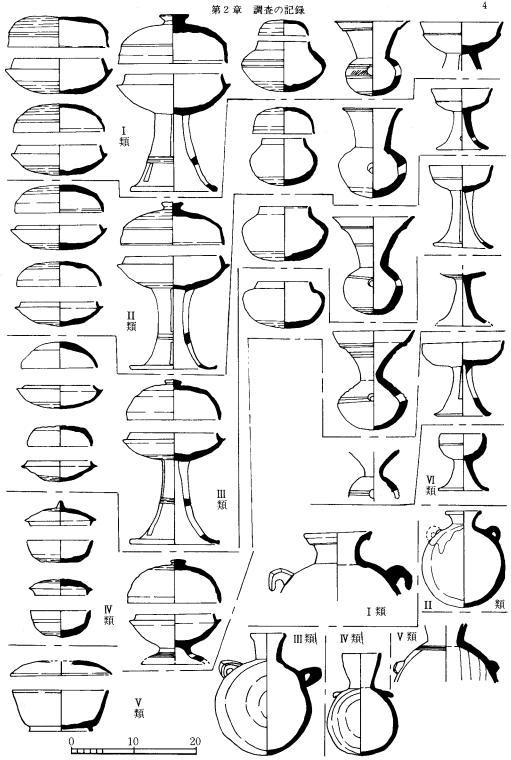


Fig. 3 土器分類図(縮尺1/6)

上りが一段と低くなり、強く内弯する。 **V類**は身と蓋とが逆転する形式で、内面かえりの先端が口縁端部より下方に出る蓋である。 **V類**はかえりが口縁端部より内側に入る蓋で,身は高台付。

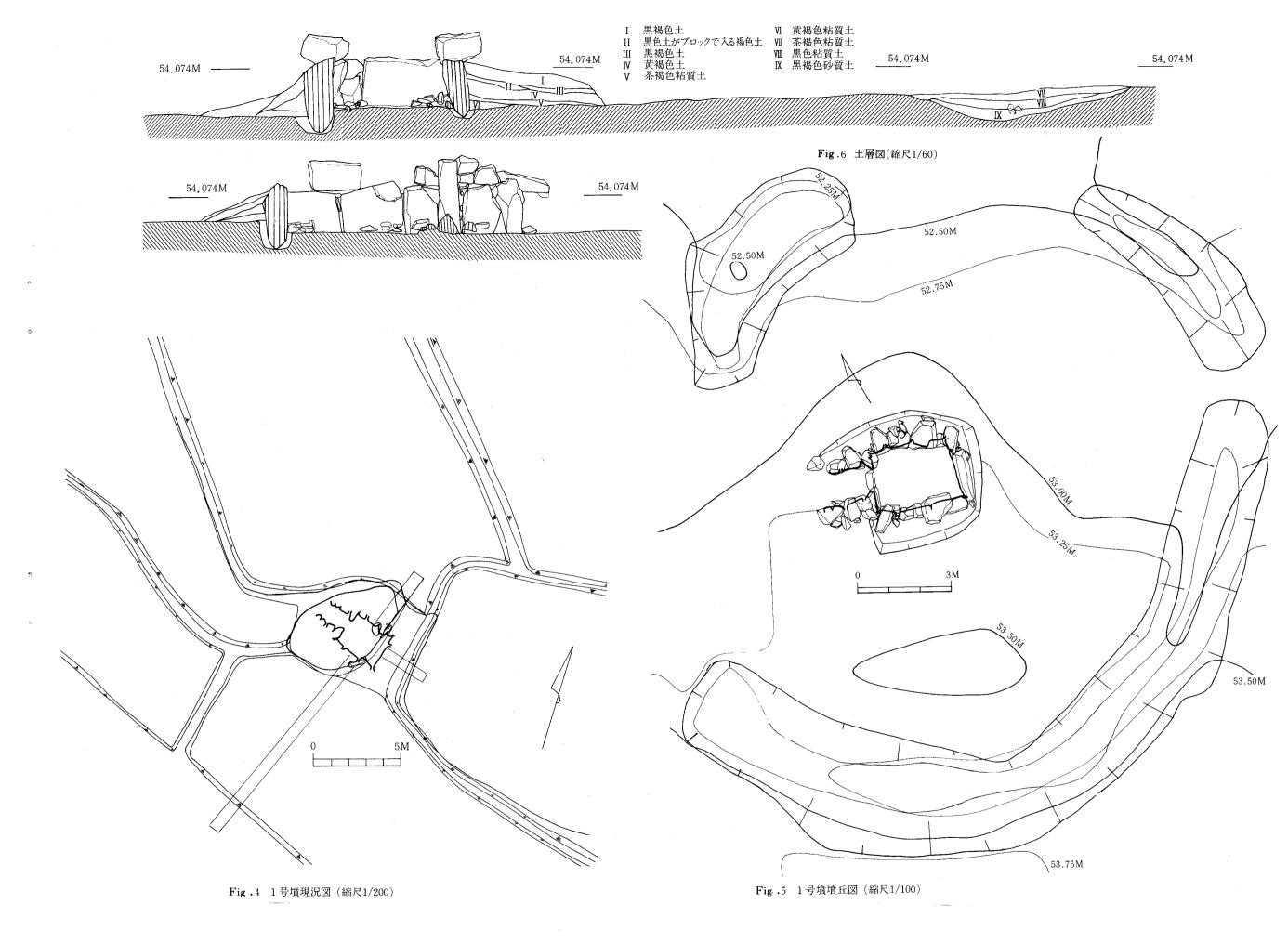
有蓋高杯は4類に大別した。 I類は受部の立上りが1.6cm前後と高く,全体にシャープな成形である。蓋は大型で天井部と体部との境に凹線を持ち,内面にも強い段を付す。ヘラ削りは2/3程度。 II類は, I類より大型となる。立上りは I類と同様であるがシャープさがなくなり、蓋も同様である。蓋の口唇部に烈点文を付す。ヘラ削り2/3程度。 III類は立上りが II類より内弯し受部自体大きくなる。蓋も同様に大型になる。天井部と体部との境・内面の段も消え,つまみも小さくなる。ヘラ削りは1/2程度。 IV類は短脚の高杯である。脚部は一段と低くなり,これに対して受部は体部から口縁部まで肩を張らずにのびる。蓋も III類と同様に段は消え,器高が高くなる。ヘラ削りは1/3程度である。

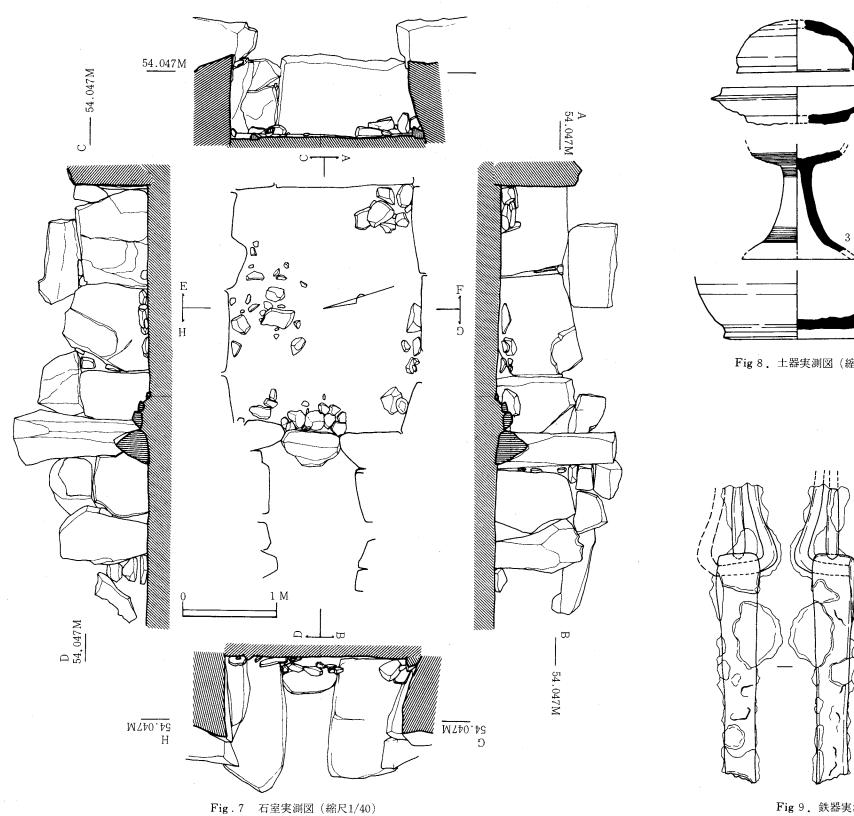
無**蓋高杯**は6類に大別した。Ⅰ類は体部と口縁部との境に段を付す。稜・口縁部も鋭くおさめる。Ⅱ類は,Ⅰ類よりは稜が鈍く,口縁部も丸みをもつ。Ⅲ類は口縁部と体部とを区別する稜がなくなり,1~2条の沈線にかわる。Ⅳ類はⅢ類同様稜がなくなりカキ目等を付す。口縁部はわずかに外反しながら垂直に立上る。Ⅴ類は杯蓋を反転して脚部に接合した形態を持つ。Ⅵ類は口縁部が丸みを持つ盌形の杯部に脚をつけたもので,杯部外面に1条の沈線がめぐる。

聴は5類に大別した。I類は頸部の径が大きく外反しながら口縁部との境で稜を持つ。そこから強く外反して口縁端をおさめる。II類は、I類と同形態であるが口縁部の稜から上部がない異形である。II類は頸部から口縁部の高さがI類より高く、頸部径は小さくしまってくる。IV類はII類よりさらに頸部がしまり口縁径も広がる。V類はIV類より頸部がさらにしまり小型。

短頸壺は4つに大別できる。 I 類は最大径が胴部中位に位置する。頸部で段を持ち、やや内弯しながら口唇部まで達する。口唇部内面に段を施す。 II 類の最大径は I 類と同様に胴部中位にある。 I 類ほど胴部は張らず、そのまま頸部・口縁部に達する。口縁内面には段を持つがやや丸みを持つ。 III 類の最大径は中位よりやや上部に位置する。口縁部はわずかに内弯する程度である。 IV 類の最大径は頸部下位に位置し、肩の張った感が強い。口縁部もIII 類より内弯し、口唇部も丸みを持つ。

提瓶は5類に大別できる。 I 類は、頸部からやや外反ぎみに口端部に達し、ここで端部は下へ折れ曲がる。両耳は下端に接しない。 II 類は、頸部から外反しながら口唇部で一段と外反し丸く仕上げる。扁平な体部の両肩に半環状の把手がつく。 III 類は頸部から外反しながら口唇部まで達するが口唇部で強く内弯して漏斗状をなす口縁部がつく。 体部の耳は下方でわずかに接する半環状的な把手がつく。 IV 類は、頸部からわずかに外反しながら中ほどでやや内弯ぎみとなり口唇部を丸くおさめる。小型で、体部の肩につく把手も退化している。 V 類は、口縁部が欠損しているが、頸部から外反しながら垂直に近く立ち上るものであろう。把手は乳頭状の粘土を貼りつけたものである。





10 CM 5 Fig 8. 土器実測図 (縮尺1/3)

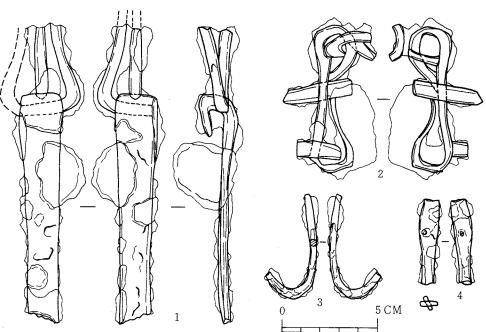


Fig 9. 鉄器実測図 (縮尺1/2)

第 1 号 墳

1. 墳丘 (Fig. 4 · 5 : PL. 1)

墳丘はすでに開墾されて築造時の詳細は知る事ができないが、墳丘形成のための盛土は東西及び南の溝に挟まれた整地面を基底として行なわれたものと推定される。石室掘り方は浅く壁石の裏込めも粗雑であり埋土もそれほどのしまりをもたない。古墳北側部分は巾3.0 m、深さ0.3~0.45 mのU字状の溝を等高線に直交して開削し溝にて区切る。溝の底は西側が低く南北がそれぞれ高くなり東西にブリッヂをもつ。東側部分にも巾2.6 m、深さ0.25 mのU字状の溝を等高線に直交して開削して区切る。この溝も東西が高く北側が低い、南北にブリッヂをもつ。南側部分は等高線上に平行に開削が行なわれ、東側が低く西はほぼ前庭部近くで浅くなり消滅する。この溝も東西にブリッヂをもつ。

2. 石室 (PL.2)

東西及び南の溝に挟まれた、やや北寄りの墳丘基底面に等高線にほぼ平行して構築されている。主軸はN-16°-Wにとる単室の両袖型横穴式石室である。天井部はすでになく、奥壁も腰石のみという状態であった。玄室は奥巾1.90m、前巾1.80m、左壁長2.4m、右壁長2.6mを計る。腰石には巨大な割石を用いているため、左壁の一部が歪むものの全体的には直線に近い壁線をなしている。玄門部には単純な両袖を設ける。袖石にも巨大な割石を用い垂直に立てる。その高さは床基底面より左1.2m、右1.1m、袖巾は左0.4m、右0.6mを計る。玄室床面は攪乱を受けてはいるが部分的に敷石があったことを窺わせる。袖石の高さまでに玄室内の壁面は、とり除かれているが、大きな割石はそのままである。現存の壁面での石積み方法はレンガ積みと重箱積みが併用されていて、下端より上端に行くにしたがって石室内面にせり出す様相を示す。壁面間には力石などの使用はみられない。各壁面隙間には転石を塡める。羨道部は、腰石には、やはり大きな割石を用い、この腰石の上にやや小ぶりの転石・割石を積みあげている。右袖石との隙間は小石が塡められて固定されている。

3. 遺物(Fig. 8・9)

(1)須恵器 (Fig.8) 2・3・6 は各々Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類に類別された。 1 は短頸壺の蓋と考えられる。 4 陶質土器で高台付長頸壺か広口壺であるが胴部上半部を失なった現況では明確にしがたい。台脚には透しが3ヶ所に配されて灰黒色堅緻な焼成で胎土も精良である。調整は全体に叩きを施し、その後外面はヘラ削り、ナデとを行い形を整えていて内面はナデで仕上げ叩きの痕が明瞭である。 5 は中型甕の口縁部破片で頸部からゆるやかに短く外反し、口縁端部は外下方に鈍く引き出される。内外ともにナデ調整。外表に部分的に自然釉がかかる。

(2)鉄器 (Fig.9)1 は厚さ 2 omの鉄板の一端を折りまげ刺金のついた鉸具と連結させている。 鐙金具の一部と考えられる。 $2\sim4$ も馬具の一部である。

第 2 号墳

1. 墳丘 (Fig.10. 11: PL.3)

すでに程んど封土は失なわれているために、その規模は知ることができなかった。畦として 残る僅かの墳丘に円墳であった事が窺われる。

地山整形 東斜面等高線に沿って南西に開口する。墳丘構築前の地山整形は,南から北東にかけて墳丘を区画するための溝の掘削とその内側の整地が認められる。石室、北から南西部の地山整形は未調査のため明らかでない。溝は羨道部から石室奥壁の方向へ不整形に半周する。溝巾は一定せず $2m \sim 1.5m$,深さは $0.3m \sim 0.25m$ を計る。周溝は北東部ほど浅くなり消滅する。羨道部付近では徐々に浅くなり平坦部をつくる。北西側の調査が行なわれていないので断定はできないが,羨道部と玄室延長上にブリッチのつく形態をもつ周溝であろうと推定される。

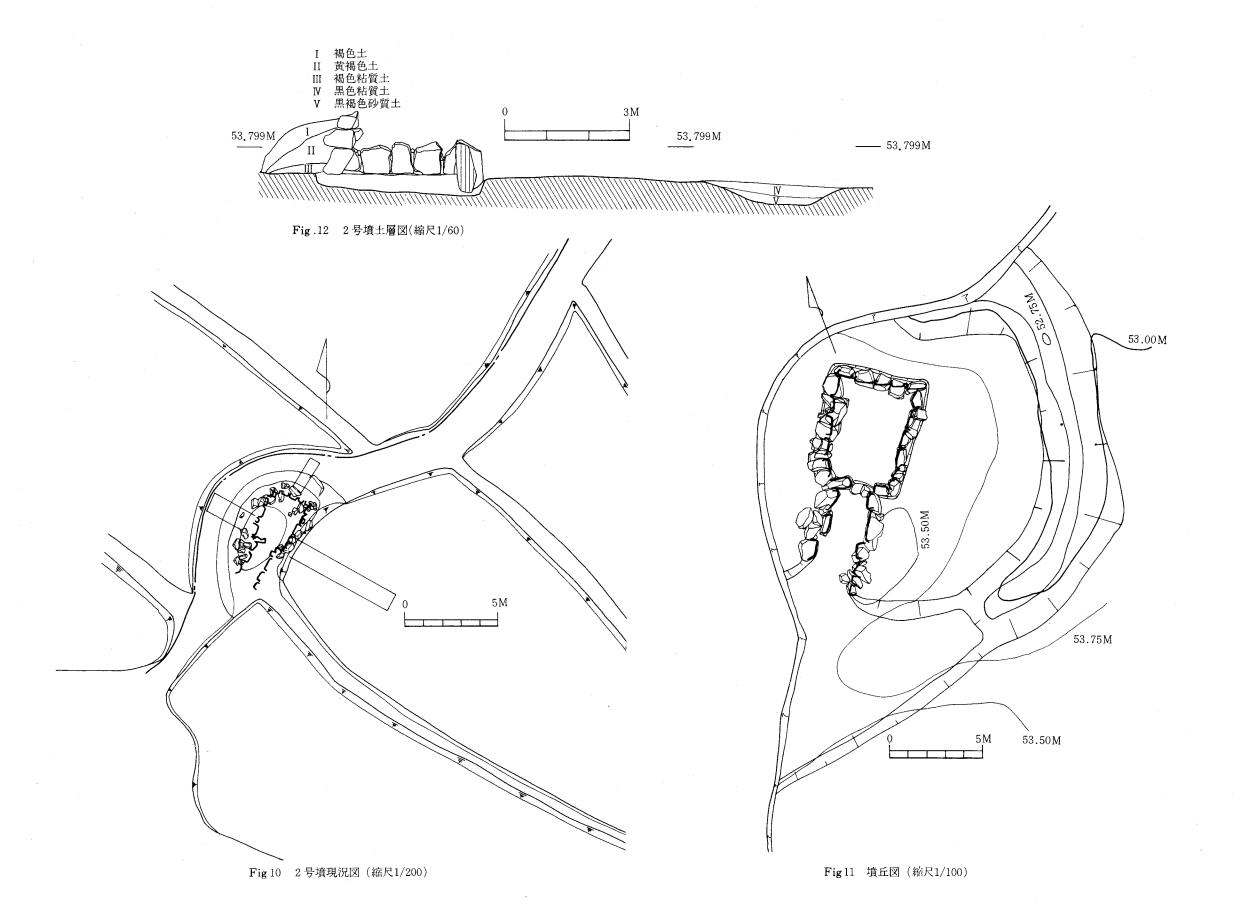
玄室 奥巾1.9m,前巾1.5m,左壁長2.5m,右壁長2.68mを計る。腰石は小ぶりの転石・割石を用いている。左壁面の石積み技法は原則的にはレンガ積みで一部に重箱積みもある。隙間にはやはり小石を詰めている。いずれの壁面も腰石から上段に行くにしたがい玄室内にせり出す。現存する最高所は左壁面で床基底面より1.0mを計る。玄門部には単純な両袖を設ける。袖石もやはり小ぶりの割石を用い垂直に立てている。その高さは床基底面より左0.7m,右0.8mで袖巾は左で0.55m,右で0.3mを計る。玄室内の床面は全面敷石であったと考えられるが攪乱のため明確でない。養道は前巾0.48m,奥巾1.1mで,入口がわずかに開く。羨道床面は玄室床面より一段高く左右壁面も玄室壁面とは構成に相異が認められる。左右両壁は小ぶりの転石・割石を貼石的に据えただけである。玄室と羨道比は1:1になり,石室の構築プランでは古い時期のものと考えられる。閉塞施設 閉塞は羨道から梱石を覆う長さ1.5mに羨道巾いっぱいに存在する。梱石を根石として比較的同じ大きさの転石・割石を積み上げて閉塞したもので現存高は0.5mであるが,元来は天井石との間が完全に密封されていたものと考えられる。石積みは雑然とした感じを受けるが,内面では面がそろえられ整然とした石組の状態で組み上げられている。

2. 石室 (Fig.13:PL.3)

主軸をS-28°-Wにとる単室の竪穴系横口式石室である。天井部はすでになく右壁は全て腰石のみであった。石室は浅く狭い掘り方が設けられ、しかも玄室のまわりにのみで直線的で方形になる。石室は東側に向って、ゆるやかに傾斜する等高線上にほぼ直交して構築されている。掘り方と腰石間には余裕はなく割合に接近し、奥壁部分では深さもなくなっている。

3. 遺物

石室内はすでに盗掘を受けていたにもかかわらず多くの遺物の出土を見た。これらは攪乱の ため原位置を保ってはいないが、2号墳築造時と追葬時の時期決定の資料となりうる。



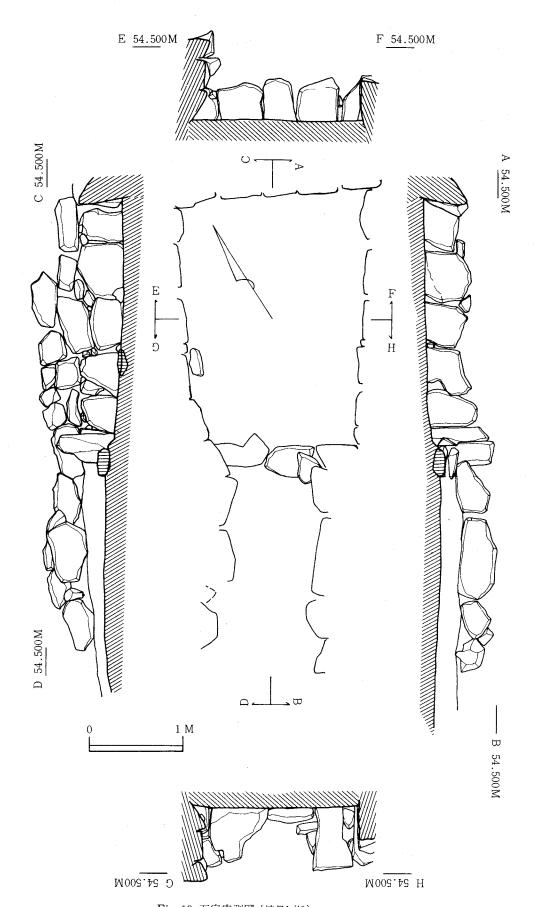


Fig.13 石室実測図 (縮尺1/40)

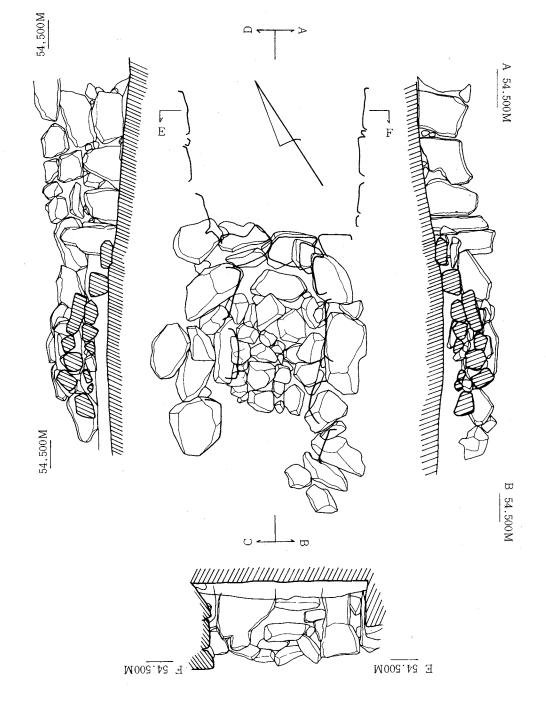


Fig.14 羨道部閉塞状態実測図(1/40)

1. 土 器 (Fig.15·16·17)

蓋杯(1~22)1~7はⅠ類に分類,体部と天井部との境にやや鈍い凹線が巡り,へラ削りが約2/3程度のもの,一層鋭い凹線が巡り口縁内部には段を付すものにわけられる。8~13はⅡ類で,体部と天井部との凹線がなくなるが,口縁内面には段がつくもの,口縁内面の段がなくなり僅かになごりをとどめるものに分れる。14~18はⅢ類。小型化し天井部のへラ削りが雑になり,ナデを加えたもの。19~22はⅣ類で,口縁内面のかえりは下方に鋭いもの,つまみのつくものにわかれる。杯身 23~31は口縁内面に段を付し,受部の直に立ちあがるもの,立ちあがりがやや内傾し,口縁内面の段がなくなるもの,立上りは垂直に近く内弯し外に張り出すものにわかれる。32~35はⅢ類。立上りは低く著しく内弯するもの,身と蓋とが反転する前のものにわけられる。

土師器(36)小形の手ずくね土器で口縁部・底部を欠失する。内面には粘土の貼りつけや指頭による調整が顕著である。

聰(37) 口縁部と底部を欠失する。体部中央に二条の凹線をめぐらし、その上方から頸部までにカキ目を加える。口頸端部は細く外反して伸びている。体部内面、口縁部内外面ともにナデ調整が行なわれている。

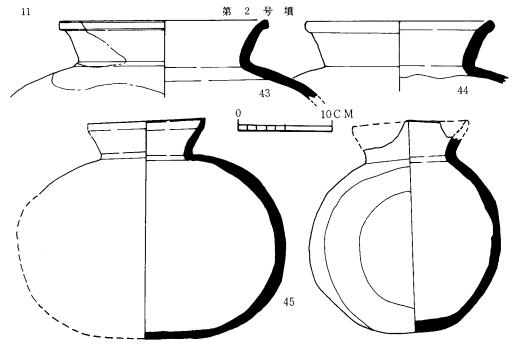
脚付長頸壺 (38)は肩部のやや張った球形に近い器体で垂直に立ちあがる口頸部がつき口端部とは一条の浅い凹線で分れる。最大径は中位にあり、肩部には二条の浅い凹線を二ヵ所に入れ、その間にへラによる斜め方向の刻み目を施して胴部と分ける。胴部と脚部とつながる破片はもたない。脚部には三方から三角形と台形の透しを2段配する。上巾の透しは二条の浅い凹線でわかれ、さらに中段透しの下にも浅い凹線をいれ脚裾部との境をなす。また脚端部近くにも一条の浅い凹線を配する。脚部はハの字の形に張り出し安定感をもつが、いびつである。胴部、脚部はナデ調整を施し、胴部の内面は同様にナデ調整。外面には自然釉がかかり、口縁部は欠失している。

甕 43・44は周溝より出土した中型の甕の破片である。ともに体部の破片があるが接続しない。43の口頸部は短く外反する。口端部は段をつくってほぼ垂直に立ち、外面・内面ともに丁寧なナデ調整を施している。頸部の外面は一部に自然釉がかかるが、平行叩きを施した後、ナデ調整を行い一部叩き目を消している。頸部内面は同心円の叩きの後ナデ調整を施している。44の口頸部も短く外反するが、端部は肥厚し段がつく。頸部の外面は平行叩き、内面は同心円叩きが施されている。端部内外面ともにナデによって調整されている。

横瓶 (45)口縁部は外反し、口縁部はやや尖る。口縁から肩部までの外面の叩き調整は丁寧に施されている。内面は円孤叩きで仕上げられているが、底部付近に行くほど叩きは雑で焼成時の粘土の膨張が底部付近に見られる。体部には自然釉がかかる。

白磁 (39~42)いずれも白磁の底部である。釉のかかりから玉縁の口縁をもつ器種であろう。

Fig.15 2号墳出土土器実測図-1 (縮尺1/3)



(2) 鉄器 (Fig.18)

Fig.17 2号墳出土土器実測図-3(縮尺1/4)

鋤先(1) 刃部は緩か曲線を呈する、やや大型のU字形鋤先である。耳部は両端ともに完存し、刃部巾15cm、全長12.7cmを計る。刃部は中央から耳部の境まで付けられ耳部外側には認められない。木柄挿入部は前・背二面に分かれ浅めである。

直刀 (2・7・9・11) 2は切先・茎は欠損していて全長は不明である。背は平造りで断面 二等辺三角形を呈する。7・9・11は一括して検出され1振分と思われるが、切先・茎部分を 欠き全長は不明で、背は平造りで断面は二等辺三角形を呈する。

刀子 (8) 周溝より出土したやや大型のもので、断面二等辺三角形を呈し、切先部分を欠失する。背は平造りで関は刃部部分につく。

鉄鏃($4\sim6$) 8 本分の出土をみたが、いずれも細片であり図示は3 点にとどめた。 $4\cdot5$ は茎部分で木質が残存する。6 は広根の斧箭式に属し、身は平造りで頭部、茎は欠失し不明。

馬具 (12・13) 共に銜の合せ部分で、両端に環をつくり引手、鏡板と鉸ませ連結させる。他 にも同一個体とみられるものが出土しているが現状では復元はできない。

管玉 (3) 濃緑色の碧玉製で、長さ2.6cm、身巾1.1cm前後を計る。孔は片側からの穿孔で、小さい孔の方の周囲は磨きが雑である。

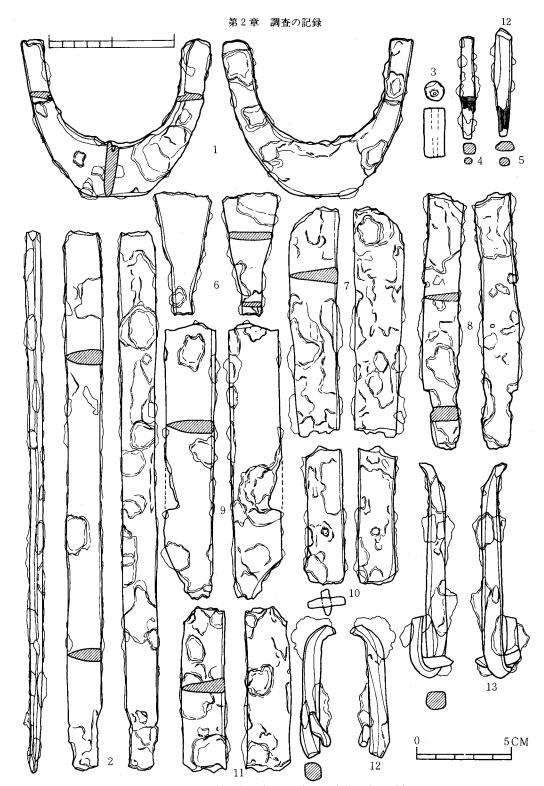


Fig.18 2号墳出土玉・鉄器実測図(縮尺1/2, 1/3)

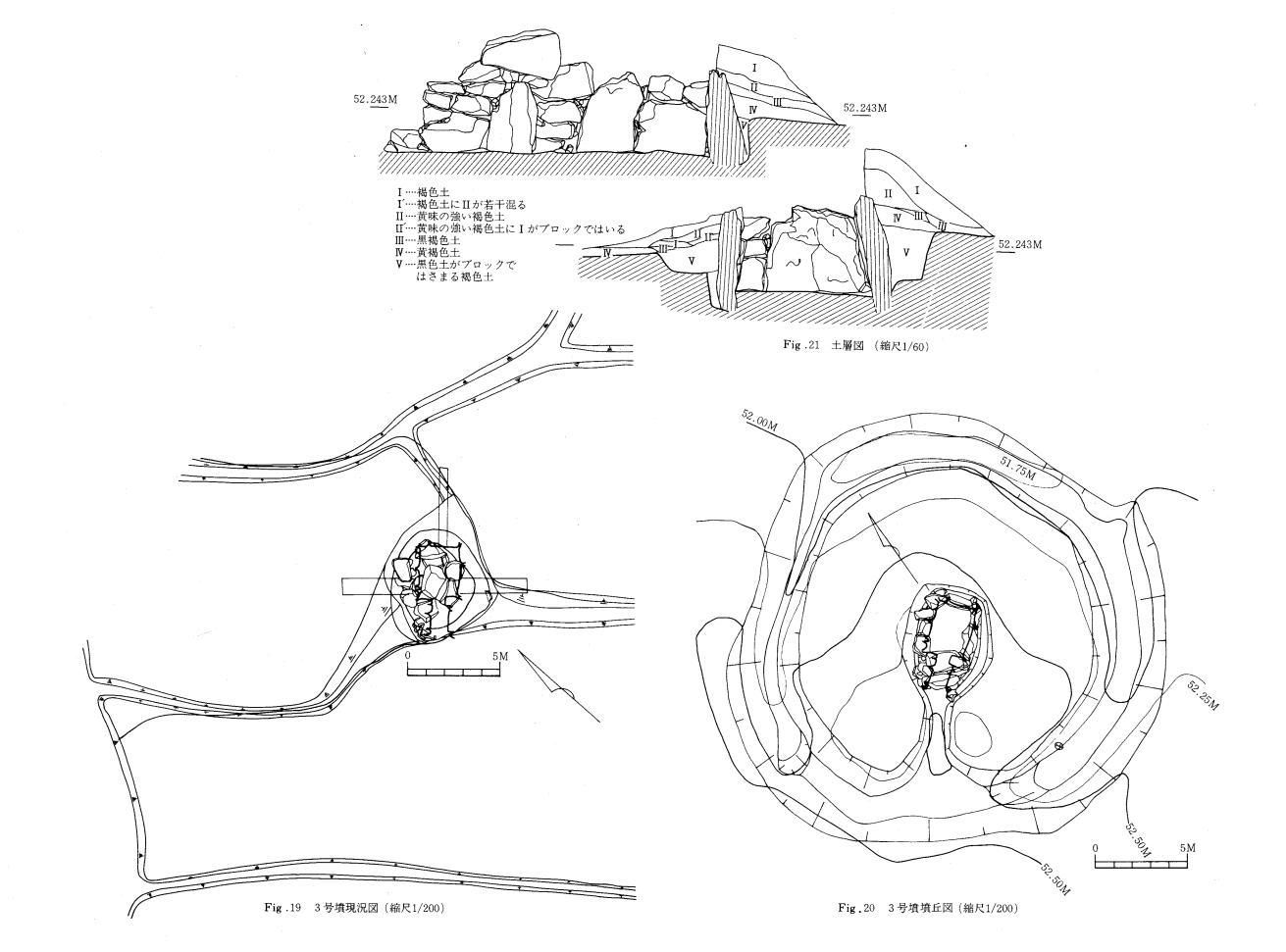
第 3 号 墳

(1)墳丘(Fig.19・20:PL.4)

3号墳は標高52.5 m~52 m に位置し、北東方向に延びる等高線上に直交する様に石室は構築されている。したがって古墳構築のための地山整形は石室を全周する溝の掘削によりなる。墳丘は開墾のために、すでに大半が失なわれており、玄室と推定される石が見えていて、畦部分に利用された墳丘が残るのみであった。溝の内側墳丘基底面は僅かに傾斜をもつものの、ほとんど自然地形を利用したと考えられる。溝は北東部が深く、前庭部付近は浅いU字状をなしている。東西の溝は若干のゆがみをもつものの、ほぼ円形に全周し、羨道部から墓道部へと続く。しかし周溝底面が北東部が深く、羨道から墓道部に延びる溝の底面は他の部分に比較して高くつくられている。そのために石室ならびに羨道・墓道部への水の流入を防ぐ様相を示している。墳丘の残りから盛土を推測すると、さほどの複雑さはみせない。石室の掘り方は、左右では腰石に巨石を使用しているためか、二段に深く掘って、腰石の安定をさらに増す様になされている。深い掘り方の層上は細くはないが、小石・粘土等を填てて比較的硬くしまっている。奥壁部は一段の掘り方だが深く、やはり粘土・小石等で充填し腰石の安定を図っている。盛土は石室掘り方が、ほぼ埋った段階から石室を裏込め、固定することを兼ねながら一気に盛土し、墳丘の形を整形したものと考えられる。

(2)石室 (Fig.22: PL.5 · 6)

東西の溝に挟まれた、墳丘基底面のほぼ中央に位置し、主軸をS-41°-Wにとる両袖の単式横穴式石室である。石室は南西方向に開口し、天井部を失なった玄室部と天井部を残したままの羨道部が存在する。玄室内は盗掘による攪乱が著しい。玄門部には閉塞に使用されていた割石や転石が無造作にあった。玄室床面は、基盤とする赤褐色粘土上に埋土をしその上に敷石を敷きつめていたと考えられるが、ごく一部にその名ごりを見せるだけであった。奥巾2.1m、前巾2.1m、左壁長2.8m、右壁長2.68mを計る。残存する最高所は玄門付近の四段であるが、石積みは目路のとおった重箱積みを用いて下端より上端に行くにしたがって石室内面にせり出す様相を呈している。腰石は奥壁・側壁に巨大な転石を用いて巨石墳の様相を示している。羨道部は比較的良好な状態で残っていた。玄室の石材に対しやや小さめの石を使用している。 補石には大きな石を一石ずつ垂直に配し、天井との間隙に小ぶりの転石、割石を埴めて天井を固定している。 羨道部から墓道部にかけては、閉塞が存在する。閉塞は梱石を根石として元来は天井部まで積まれていたと考えられるが攪乱のため現存高は0.5mである。その閉塞施設のために羨道部床石は、きれいに残っていた。 羨道部は玄門部がわずかに開く様相を呈する。 側壁の遺存状況から、もう少し墓道部へ続く側壁が存在したものと考えられるが現状では明らかでない。 羨道部は攪乱をうけた転石が積まれていることから、あるいは副室的要素を兼ねていたかも知



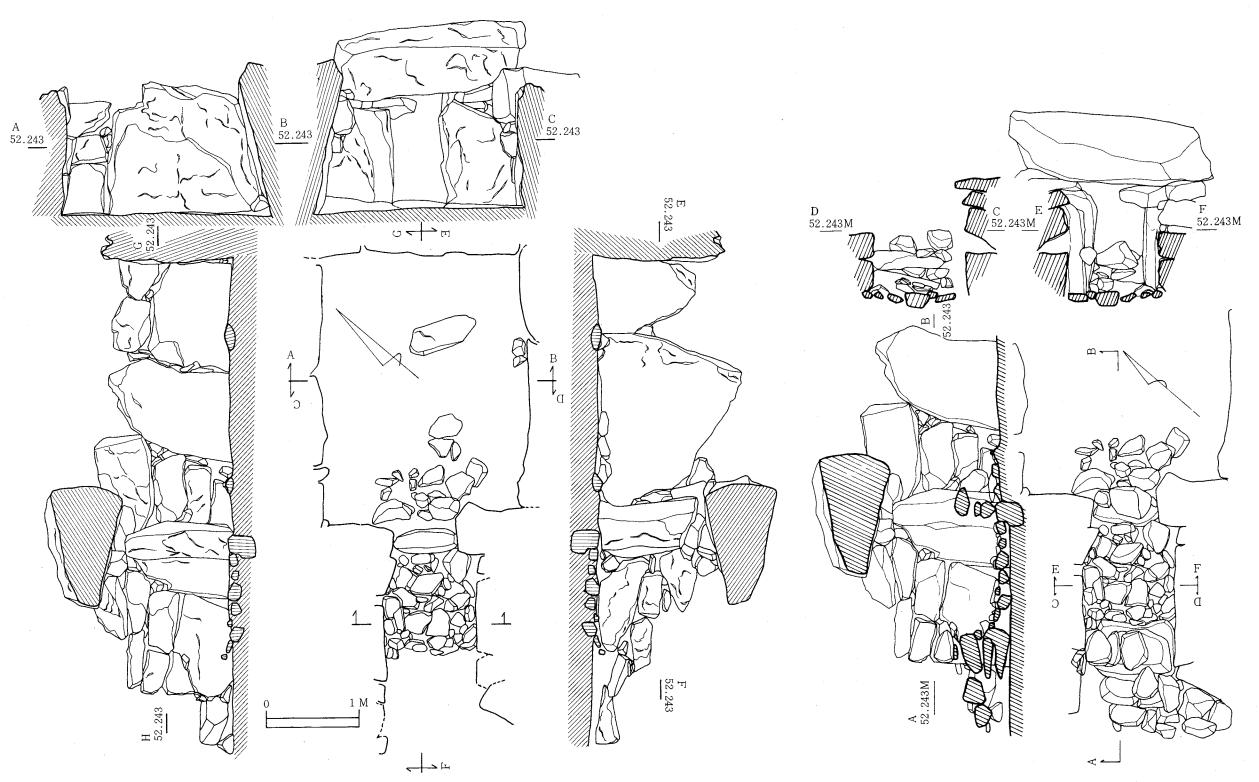


Fig.22 石室実測図 (縮尺1/100)

Fig.23 羨道部閉塞状態図(縮尺1/40)

れない。閉塞は羨道端部では第2梱石と考えられる石を根石として積まれていて雑然とした感じをうけるが、内面は面がそろえられ整然とした石組の状態で仕上げられていたと考えられる。 羨道部の天井石も残っていたが,間隙の石がとれていたために落ちる危険性があり除去した。羨 道部は小ぶりの転石を四段に配し下段より上段に行くにしたがい羨道内面にはりだしている。

3. 遺物 (Fig.24・25・26)

玄室内はすでに盗掘を受けていて原位置をたもったものの出土はみられなかったが、攪乱土 や周溝内より出土した。

(1) 土器 (Fig.24·25)

蓋杯(1~4)1~3はII類で、体部と天井部の凹線がなくなるが、口縁内面には段がつくもの、体部の張りがなくなり口縁部も内傾したものに分けられる。4は立上りが低く、著しく内弯するものである。**杯身**(5~10)II類にはいる。体部の張りがなくなり、口縁部の立上りも内傾する。ヘラ削りは1/2~1/3になるものに該当する。

短頸壺 (11) 閉塞部より出土した,底部付近を欠失する破片である。口端部は短く垂直に立ちあがる。頸部に一条の凹線をめぐらし口縁部との境をなす。体部中位にも一条の凹線をいれ胴部とわける。内外面ともにナデ調整が丁寧に施されている。

聴 (12・13) 12は体部上位に二条の凹線をめぐらし、その間をヘラによる斜め方向の刻み目を配する。口頸端部は細く外反して伸びる。体部下位は不定方向のヘラ削りを施し口頸端部から口縁にかけてナデ調整で、内面はシボリ痕が顕著である。13の口頸端部は12よりやや太めで外反して伸び一条の浅い凹線により口縁部との境をなす。口縁部付近には細い波状文がある。体部上位には一条の凹線をめぐらし、その下方にはカキ目を配している。凹線下の刻み目はカキ目の後に加えている。体部下位はヘラ削り、中位から口頸部はナデ調整を施している。

甕 (14~17・21) 14は口端・体部を欠失する。口頸部は二条の凹線をめぐらし,その間に細い波状文を配し,胴部と分れる。胴部の外面は平行叩きに自然釉がかかる。内面は同心円・円孤叩きの併用。口頸部はナデ調整。15~16・21はいずれも中型の甕である。15の口頸部は強く外反し,口縁端部は外下方に鋭く引き出され端面下に凹線をめぐらす。体部外面は平行叩き,内面は叩きの後ナデ調整。16の口縁は短く,やや外反する。口縁部は丸く肥厚して外に突出する。縁部は内外面ともにナデ調整を施す。肩部外面は平行叩きの後カキ目を加える。内面は同心円叩きにて調整。17の口縁部は短く外反する。端部はさらに鋭く外反し,内面に段がつく。内外面の調整は16と同様である。21口縁部を欠失する。口頸部は肩部より,ゆるやかに外反する。最大径は上位にあり,外面の調整は平行叩きの上にカキ目を加える。体部中位から底部の内面は平行叩きの上にさらに同心円叩きにて調整。

土師器 (18~20) 18の口縁部は頸部のくびれからやや外反し端部は、丸くおさめる。椀の外面は不定方向のヘラ削り、内面はナデによる調整。19はほとんど屈曲しない尖り気味の端部を

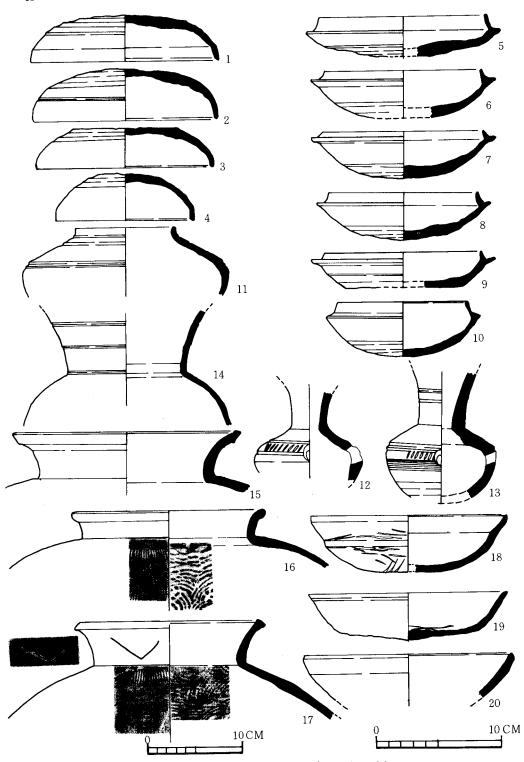
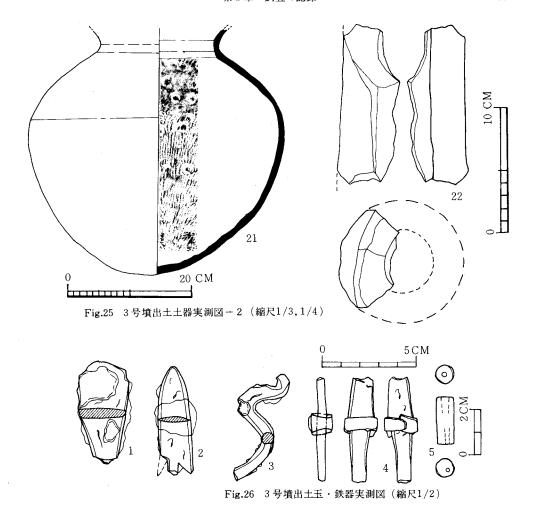


Fig.24 3号墳出土土器実測図-1 (縮尺1/3, 1/4)



外上方につまみ出し内外面ナデ調整を施している。20は底部を欠失する。口縁部はやや内側に傾き、外反し端部は尖る。内外面ともヘラ磨きで調整している。

鞴羽口(22)墳丘より出土したもので、胎土にはスサが混り、形態は円筒状をなすものと考えられる。外面はヘラによる粗雑な調整を施している。

鉄鏃 $(1 \cdot 2)$ 1 は広根の斧箭式に属し、身は平丸造りで頭部・茎は欠失し不明。 2 は腸抉をもつ両丸造りで、柳葉形をなす。 茎部は失われ不明。

馬具(3)径0.6cmの鉄棒を折りまげてつくったもので、左右対称の型になるものと考えられるが現存部からは全容を復元するのは不可能である。

刀子(4)小片のため全長等は不明。関部に鉄製の鎺がついている。

管玉(5) 羨道部床面より検出。濃緑色をした碧玉製品で孔は一方よりあけられる。ていねいな磨きがなされ長2.1cm, 径0.8cmを計る。

第 4 号 墳

1. 墳 丘 (Fig.27·28: PL.7)

墳丘は、水田の畦として利用されており、墳丘内には周辺の小石が積上げられた状態であった。また水田耕作のため周辺部の墳丘が削平されていた。墳丘はほぼ平坦面を基本的に基底とし、その基底面が周溝上段につづく部分から盛土を行なったと考えられる。土層上面図から墳丘形成過程をみると、約3段階に分けることができる。第1段階は、掘り方ならびに削平時に出たと思われる赤褐色粘質土を利用した盛土、第2段階は削平面、第1段階を平坦面にする褐色土の盛土、第3段階は石室の石材を積み重ねるのと併行してその裏込めを行なうが、石材が小さいため、層全体に複雑さは認められない。周溝は、形態的に特異であり、羨道部・奥壁をむすぶ線上にはなく両側面に深さ300m、幅3~5.3mの半円状に形成されている。この周溝内からも多量の土器が検出でき、特に墓道の左右に集中していた。

2.石室(Fig.30:PL.8·9)

石室の主軸はS-86°-Wにとり、両側に開口する単室で羨道部はハの字に開く竪穴系横口式石室のタイプである。天井部はすでになく、両側壁、奥壁とも腰石から2~3段までという状態であった。石積の方法は小ぶりの石材を利用したレンガ積技法を持ちいている。

玄室は、奥幅2 m, 前幅1.8 m, 左壁長3.4 m, 右壁長3.3 mを計る。腰石には小ぶりの石材を利用しているため凸凹はなく、ほぼ長軸と短軸の比が約1.76:1 の割合で形成されている。石室左壁前の部分にFig.30で見られるごとく一括した土器群があつめられており、これに対して奥壁部右側には多数の破片の検出が認められた。

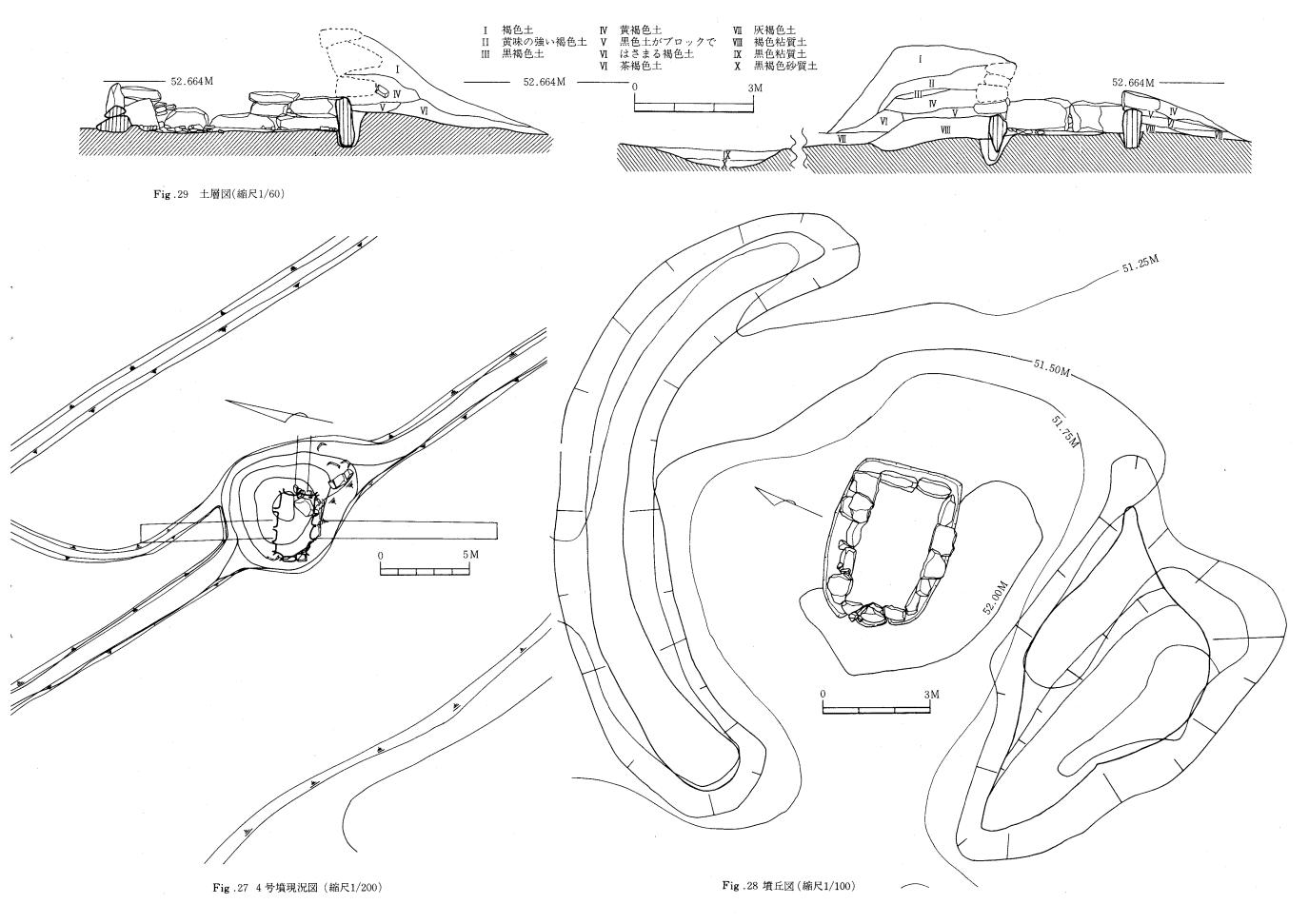
羨道部は、ハの字に開く形態をしたもので両袖に1枚づつの石材が基底面にはなく浮いた状態で検出された。石材はほとんど早良花崗岩と考えられる。

3. 遺物

玄室内の一括資料ならびに周溝内より多量の土器・鉄器が検出された。 Fig. 31の遺物出土状態の番号と土器番号は同一である。

(1) 須惠器 (Fig. 32~39)

直口臺(49)は頸部からやや外反しながら口縁部につづくが、口唇部でわずかに内傾して丸



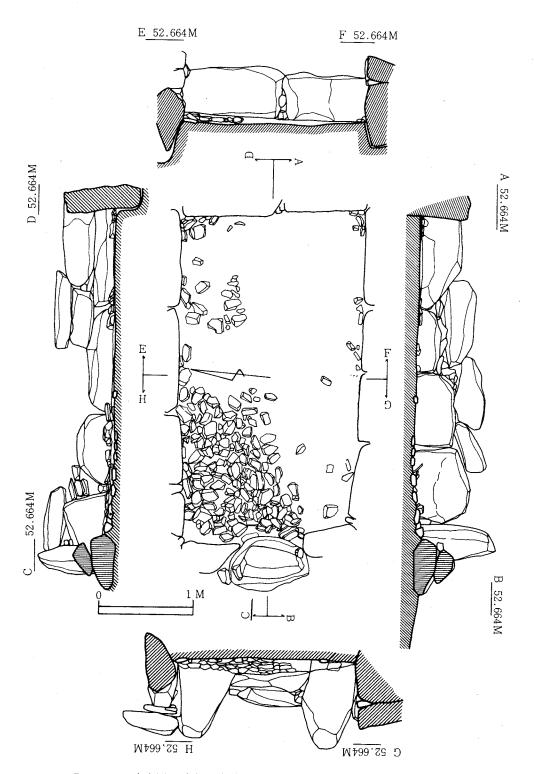


Fig.30 石室実測図 (縮尺1/40)

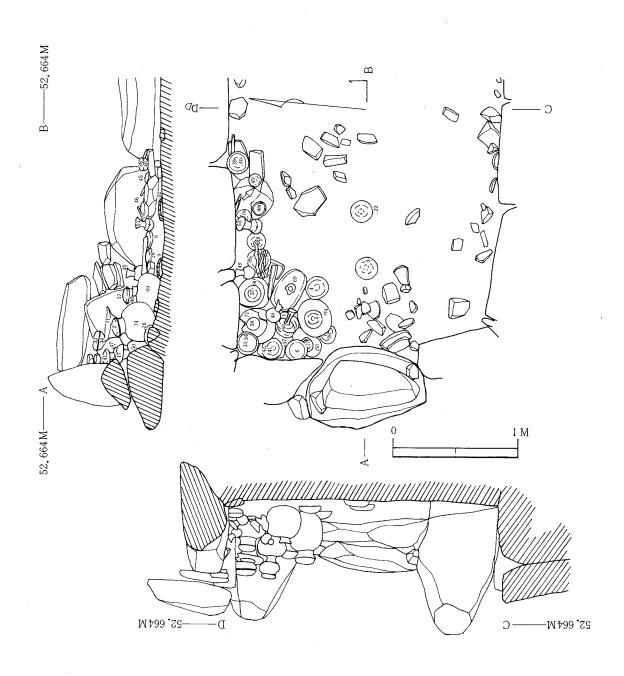


Fig.31 遺物出土状態実測図(縮尺1/30)

くおさめる。口縁部上端に一条の沈線を巡らす。胴部中央に最大径を持ち、胴部はナデにより 成形している。底部は平底で、手持のヘラ削りを行ないこの面に丁のヘラ記号を施す。

短頸壺 (50) の口頸部は短く外反し、端部を丸みをもっておさめる。最大径を胴部中位に持ち、ゆるやかに外反しながら口頸部へとつづく。口頸部及び内面はナデによる。胴部から底部にかけてカキ目を施すがその後部分的にヘラナデを加えている。底部は平底で、一部にカキ目を施す。川のヘラ記号を施す。格子目文のタタキのある甕 (51) は、接合不可能であったが明らかに格子目文のタタキで、平行叩きではない。3点は同一個体である。

脚付有蓋壺(56・57)の脚部は2条の沈線により竹節状の段(4段)に区切られて上3段には長方形の透孔,下段には正角形の透孔を四方に配す。全体にカキ目を施したのち2条の櫛描波状文を加える。壺部の口縁部はやや内傾し、端部内面に沈線が入る。頸部はやや外反しながら口縁部との境では短く強く外反する。体部の肩はあまり張らず胴部中央に2条の沈線が入る。これを境にして上はカキ目、下は平行叩き目文である。頸部には櫛描波状文、体部上面には櫛描列点文を配する。蓋は体部と天井部の境に段を持ち、天井部はカキ目を施したのち櫛描列点文を配す。口縁内面に沈線が入り、端部は鋭い。

横瓶(69)は口縁部を欠く。口縁部は頸部からやや外反しながら立ち上り先端部で内弯する。 胴部外面は平行叩き目文で、内面は同心円文の叩き、口縁部はナデによる成形である。

広口壺 (70・71) は、朝顔花形に開く口縁部と球形の胴部から成る。71の頸部は2本の沈線で3段に区切り各段に櫛描波状文を付す。胴部外面は平行叩き目文、内面は同心円文である。70は、71より小型である。頸部から外反しながら口縁部に達し、口唇部はさらに外反して丸くおさめる。胴部外面は平行叩き目文、内面は同心円である。

甕 (72~74) の内72・73は口縁部のみで大型の甕である。72の内面には指で押した痕跡が認められる。胴部から頸部にかけては張らず、最大径は胴部中央に位置するものであろう。73は頸部からほぼ直角に近く張り出すことから最大径は胴部中央に位置するであろう。74の肩はあまり張らず最大径は胴部上半にある。口縁部と頸部との境はゆるやかな段をなし、口縁部は短く外反する。頸部・口縁部はナデによる調整、体部上半から中位は叩き目の後カキ目、下位は平行タタキ目を施す。内面は同心円文とナデによる調整、頸部にヘラ記号有。

土師器 (Fig. 38・39, 75~91)

椀 (75~80) は3類に区別できる。75・76・78は半球形をなし、3点とも放射線状の暗文を施す。77は口縁部が内傾し、口縁はやや丸みを持っておさめる。79・80は、手ずくね土器である。高杯は脚部の形態で2類に区別できる。82は杯部内面に暗文を施し、脚部は下端で段を持つ。81・83~86は同一器形の杯と脚部。甕 (87~91) は2類に区分できる。87・88・91は口縁部が外反しながら丸くおさめ、90はなお強く外反する。89は高台付杯で底部の境に高台がつき、口端部は丸みを持つ。

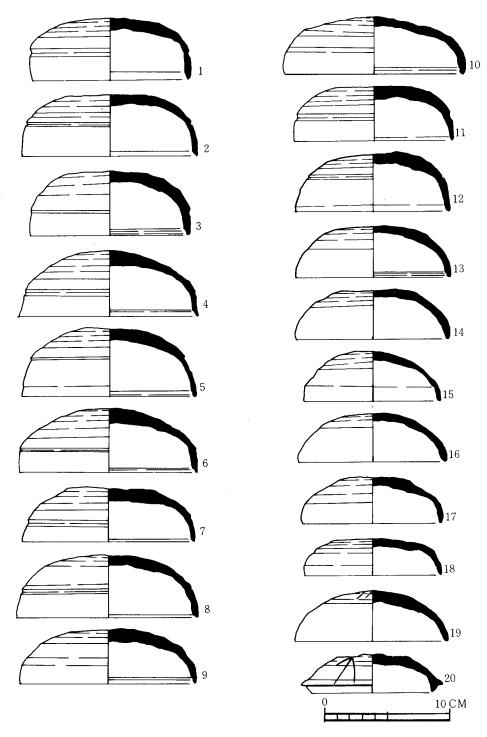
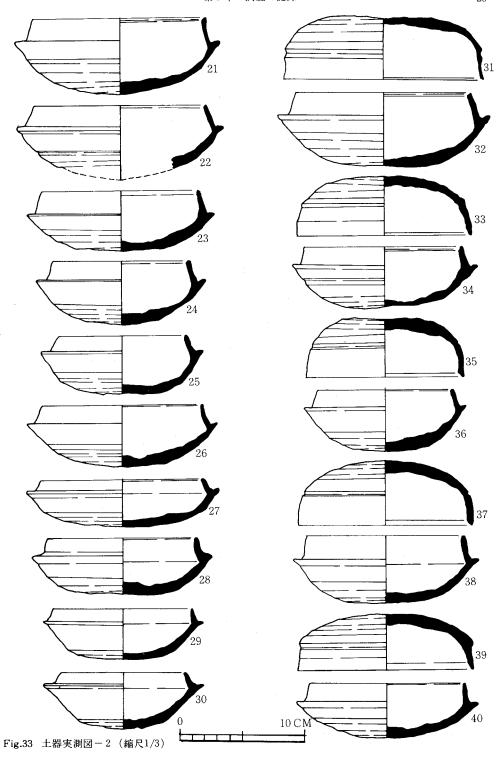


Fig.32 土器実測図-1 (縮尺1/3)



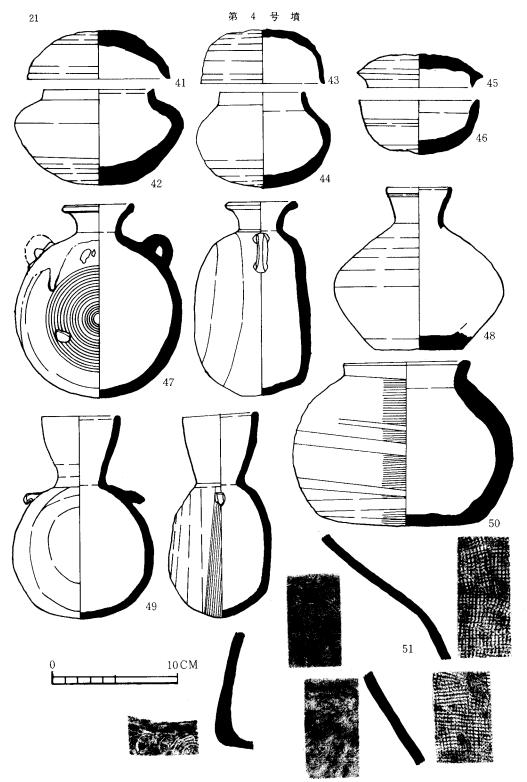
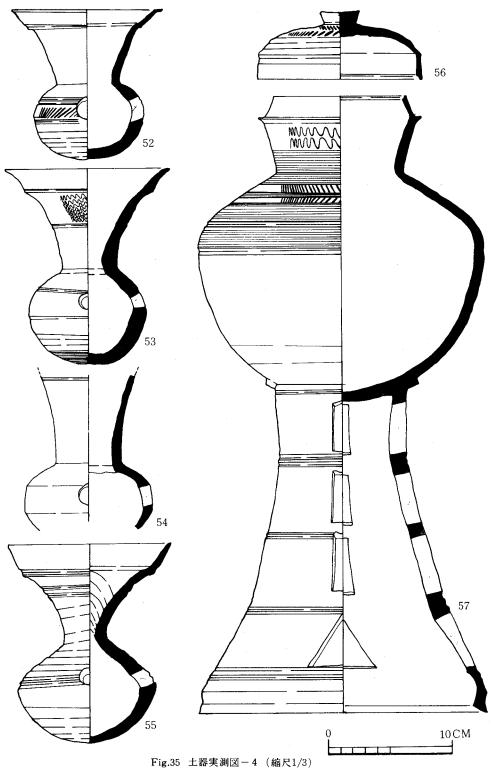


Fig.34 土器実測図-3 (縮尺1/3)



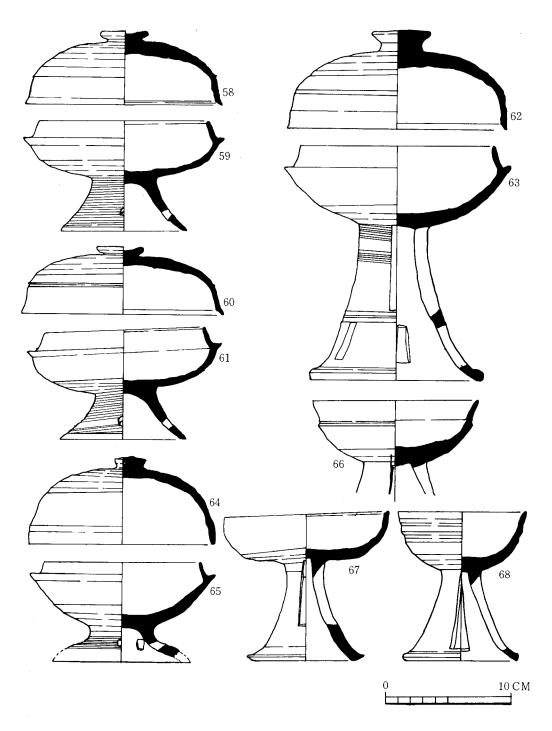


Fig.36 土器実測図-5 (縮尺1/3)

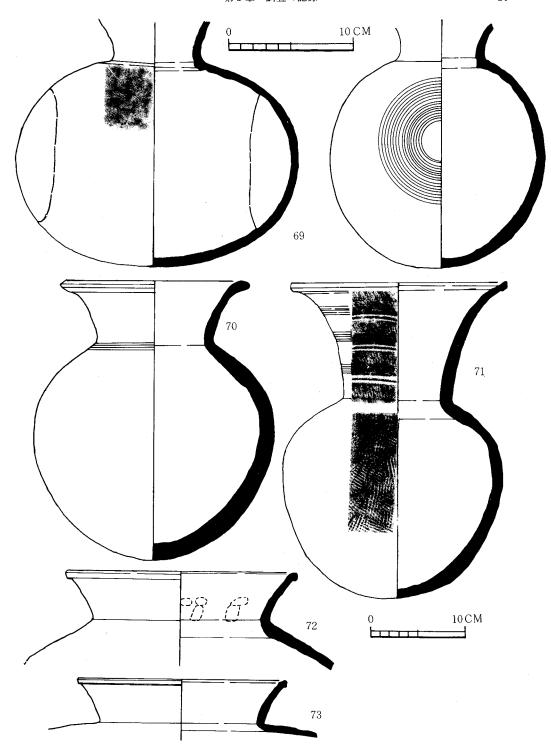


Fig.37 土器実測図-6 (縮尺1/3, 1/4)

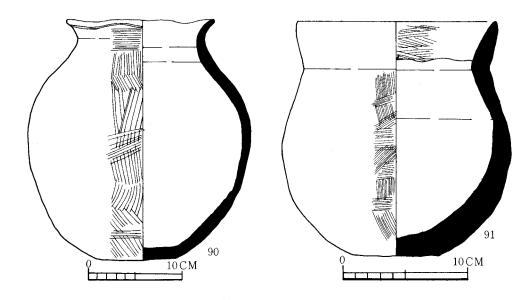


Fig.39 土器実測図-8 (縮尺1/3,1/4)

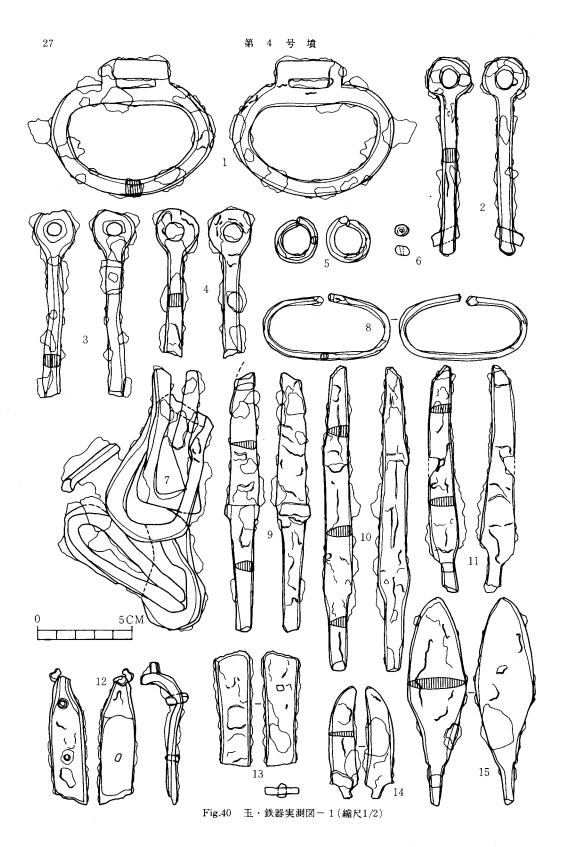
(2) 鉄器・装身具 (Fig.40・41)

馬具 (Fig. 39-1~4・7・8・12・13, Fig. 40-8・9) 1 は断面長方形を呈する鏡板で側面には1.4omの立耳がつく。2~4 は銜である。7 は兵庫鎖で, $12 \cdot 13$ は飾金具。これらは一括して出土。一つのセットをなす轡と考えられる。 $8 \cdot 9$ は周溝より出土した兵庫鎖で,やや小型の二重環を連結したものである。

武具(Fig. 39-15, Fig. 40-7,10~12)15は広根式で身は両丸造りを呈し、茎部分は断面方形、柳葉形をなし関をもち刃部へと続く。7は石突と考えられ先端部を欠く、袋部は断面やや楕円形を呈し木質を残している。端部の形状は不明。10~12は直刀である。10は刃巾4.8cm、重ね0.6cm、11は刃巾4.0cm、重ね0.8cm、12は刃巾2.5cm、重ね0.8cmを計り、いずれも背は平造りで断面は二等辺三角形をなす。いずれも断片で全長は不明。

農工具 Fig. $39-9\sim11\cdot14$ は刀子で、いずれも背は平造りで断面は二等辺三角形を呈する。 Fig. 40-2は手鎌で横に細長い鉄板を左右から折り返して袋部を作り、下縁に刃をつけたものである。 図示しなかったが手鎌のミニチュアと考えられる破片も出土している。 Fig. $40-1\sim6$ は 鉄斧で、1は中型の実用品であろう。袋部は木質は認められず楕円形を呈す。 4は小型の有肩のもので袋部は左右を折り返し中央部で合せたもの。 6は小型で刃部は弧状をなし袋部の折り返しは手鎌に似る。 $3\cdot5$ は鋳造鉄斧と考えられるものである。

装身具(Fig.39-5・6)5は金環で径2.3*om*,銅芯に金泊を貼ったもので部分的に剝落していて突き合せは接近する。6はガラス製の丸玉で監色を呈し,両端部は平坦で胴部がやや球形に張り出し,穿孔は一方よりなされている。





第 5 号 墳

1. 墳丘 (Fig.42~43: PL.10)

5号墳も4号墳と同様に水田の畦として利用されており、また水田耕作のため大部分が削平され現況では側壁の一部が露出していた。地山は、西側が高く北・東側は地山を削平している。東側側壁の石材一部が抜かれておりここまでが水田として利用されていたために大部分が削平されていると考えられ、本来は西・南側の様に地山を切りこんで石室を形成したと判断できる。

盛土に関しては推定するしかないが、西側断面から見ると周溝より約1 m程度の部分から盛土が始まったと考えられる。現存する土層から墳丘形成過程を観察すると2段階に分けられよう。第1段階は、西側の掘り方部分から出たと思われる赤褐色粘質土を腰石の後方に再度かためた状態。第2段階は褐色土による石室の石材を積重ねるのと併行してその裏込め等を行なった盛土と考えられる。

5号墳の周溝は他の周溝とは異なり、石室右壁部の部分には周溝は認められない。また羨道部からつづく部分にはわずかながら凹みが認められ、ここから左右の周溝へ下る形態を持つ。この周溝から多量の土器群が検出された。このほかに周溝の外、墓道の右側に径1 mのピットが2 つ並んでいる。この中からはカメとともに多量の鉄滓、炭化物がつまった状態で検出されている。

2. 石室(Fig.45:PL.11)

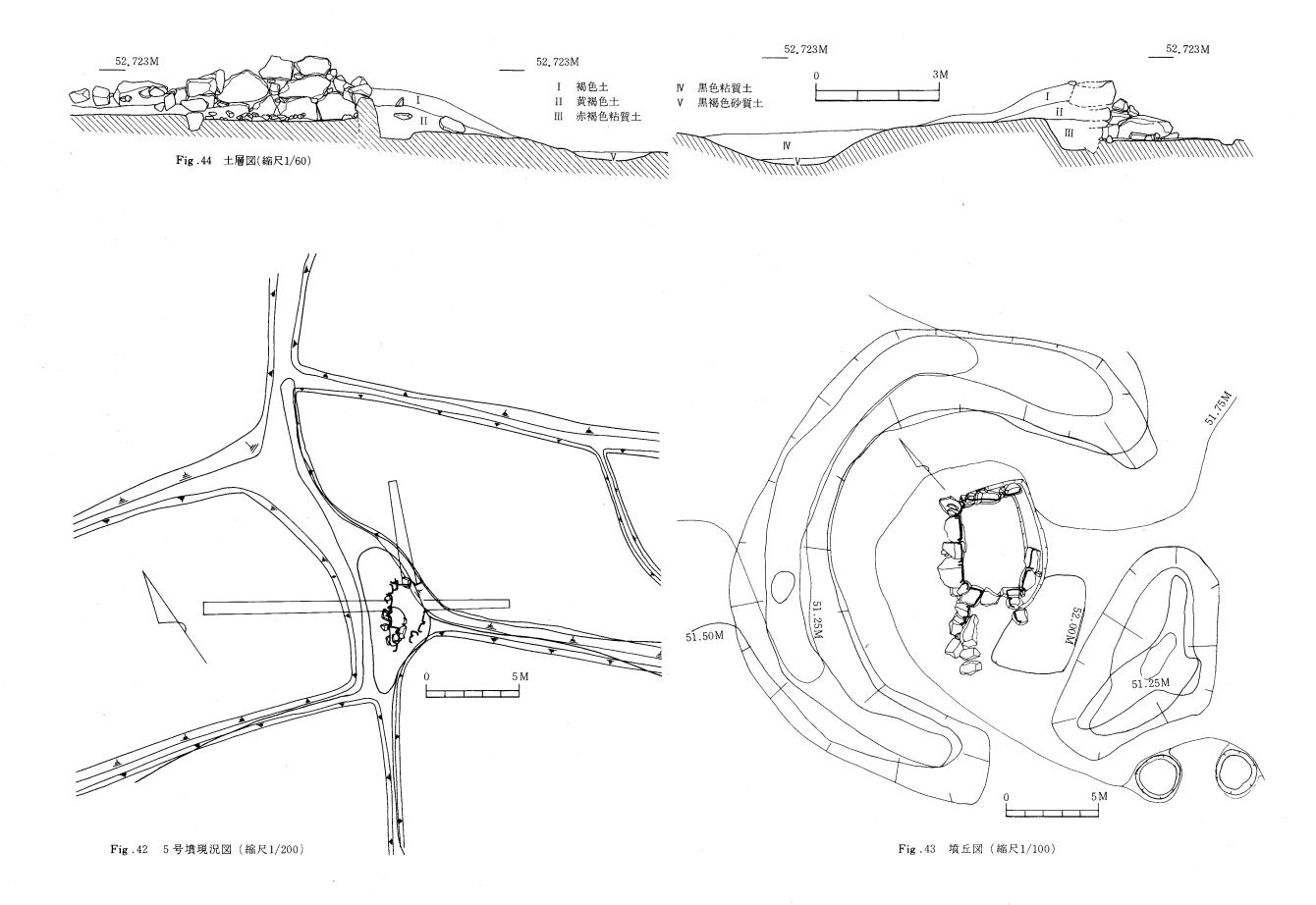
本古墳の石室の主軸は、S-38°-Wにとり、南西に開口する単室で羨道部はわずかに開く竪穴系横口式石室の構造である。しかしこの羨道部も2号・4号・7号と同様に石材が基底面より上部に位置し浮いた状態である。玄室は奥幅1.8m、前幅1.5m、左壁長2.4m、右壁長2.5mを計り、多少丸みを持つ玄室である。羨道部は左壁長2.4m、右壁長0.9m、巾は0.5mを計る。玄室の右壁の一部が抜きとられた状態である。これに高して左壁は3段目まで現存しており、その形態技法はレンガ積技法で、小ぶりの石材(花崗岩が主)を使用している。

3. 遺物 (Fig.46~49: PL.24·25)

5号墳からは周溝内から多量の遺物が出土した。特に北側の周溝と東側の周溝内より子持器 台、高杯等の出土が多く、また鉄器もほとんどが周溝内より出土している。

(1) 須恵器 (Fig45~49)

杯には I 類の蓋と I・IV類の身がある。 I 類の蓋(1~4)の内,1・2は口径15cm内外と小型の3・4がある。身の I 類(5~6)の内6の口縁部は内湾するものではなく外反している。IV 類(10)は小型で口縁内面に鈍い段を持つ。11・12・13は有蓋高杯の蓋である。3点とも有蓋高杯のII 類の蓋で体部と天井部との境の稜は鈍い。12・13の口唇部に烈点文を施す。14・15はFig49-44の脚付六連杯の蓋である。先端部は鋭利である。天井部にカキ目を加える。15も14と



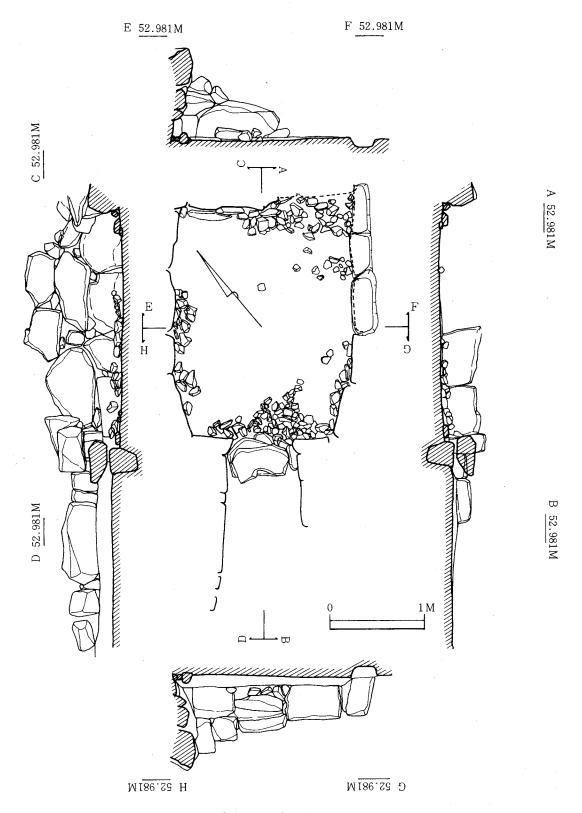


Fig.45 石室実測図(縮尺1/40)

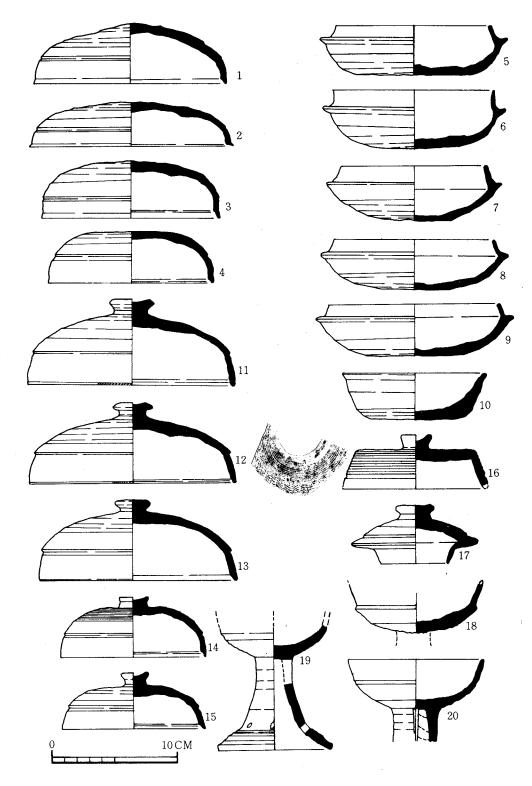


Fig.46 5号墳出土土器実測図-1 (縮尺1/3)

器形は同様でへう削りは約2/3程度。16は、つまみ部分の内面が中に入るもので天井部が平坦面を持つため体部との境に明確なる段を有し、口縁部に一条の凹線を施す。天井部にはカキ目と 櫛描波状文を付す。内面は指ナデによる整形を行う。この蓋は、色調的にも形態的にも従来認められる須恵器とは異なる成形技法を持つ。17は長頸壺の蓋であろう。内面のかえりが高く、へう削りも2/3程度である。無蓋高杯(18~20)は、分類から18が Ⅰ類、19が Ⅱ類、20がⅢ類となる。有蓋高杯(21~27)も分類から21・23~27までⅡ類に区分でき、22はⅢ類に区分できる。26・27の高杯は、杯部の割合からみると脚部が大きく、むしろ26はⅢ類に区分できるものかもしれない。29・30は短頸壺で28は蓋である。28・29はセットではない。 分類によれば29がⅢ類、30が Ⅰ類に区分できる。

18 (31・32) は分類によれば31がⅡ類、32が**V**類に区分できる。このⅡ類の形態は特異で口縁部が開かずにこの部分で終了するが、本来は段を持ち口縁部が広がる形態となると思われる。 **提瓶** (33・34) は分類によれば33がⅢ類、34が**V**類に区分できる。42は**甕**の口縁部である。 接合すると考えられる同一個体の破片が多量に出土しているが接合はできなかった。2条の凹線により3段に区別し、上二段は櫛描波状文、下段はカキ目を施す。

43の**器台**は、器高が30.2cm、杯部の口径25.8cm、脚部高22.5cm、脚裾径は17.2cmである。脚部は2条の沈線により竹節状の段(6段)に区切られ、上方2段には長方形の透孔を下方に三角形の透孔を3方に配す。全体にカキ目を施したのち2段の櫛描波状文の装飾を加える。杯部は脚部との接合面で段を持ち、外反しながら口縁部にいたる。体部中位に2条の凹線を持つ。口唇部はさらに外反して平坦面を持つ。

44は、**脚付六連杯**である。Fig.48-44の左図は上面からの復元図である。器台は五角形でこの上面に5個の蓋付杯、1個の有蓋高杯を付着させたものであろう。器台の脚裾径は23.20m、器高170mである。脚部下端に2条の凹線を配しその上部に長方形の透孔を4方に配す。脚部下端から内湾しながら中間部でしまり、屈曲して強く外反して杯をのせる口縁部に達する。杯をのせる部分の脚部上端には粘土張付けを行っている。蓋はFig.45~14・15が考えられる。

土師器 (Fig.48-35~40)

35・36は甕である。35は口縁部のみであるが器形的に36と同様であろう。36の口縁部は胴部からやや内湾しながら頸部で立ち上り、口縁部に向って外反しながら口唇部に達し丸くおさめる。外面はハケ目調整、口縁部内面はナデ・ヘラ削り調整を行なう。

37~39は高台付の椀である。高台の付け方で区別するならば、底部内に高台の付く37・38がある。しかし37は38より底部の内側に入ると思われる。体部と底部の境に高台を付ける39は高台の高さも37・38より高く、体部も37がやや外反しながら立上って行くのに対して、39は外反する角度が大きい。40は内面に放射状暗文のある盤である。口径21cm、器高3.8cmを計る。

Fig.47 土器実測図-2 (縮尺1/3)

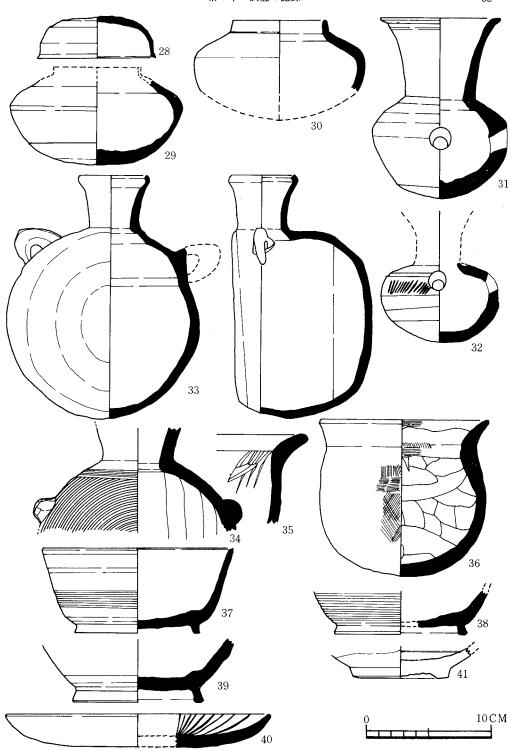


Fig.48 土器実測図-3 (縮尺1/3)

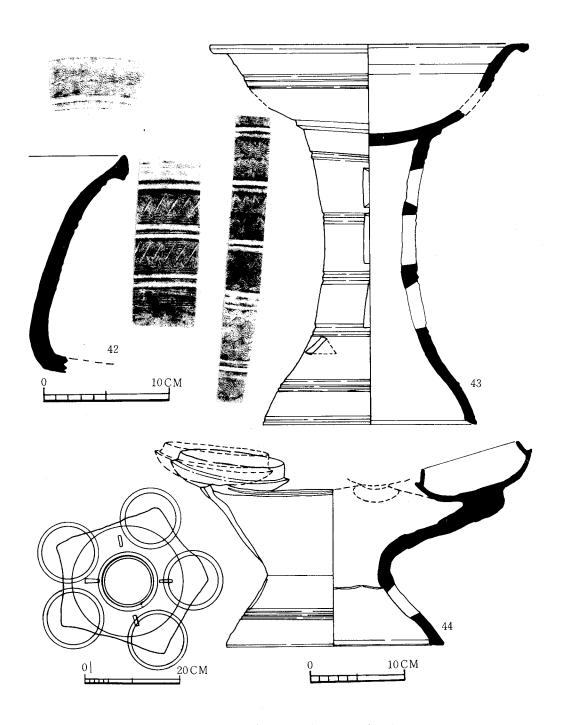


Fig.49 土器実測図-4 (縮尺1/3・1/4・1/8)

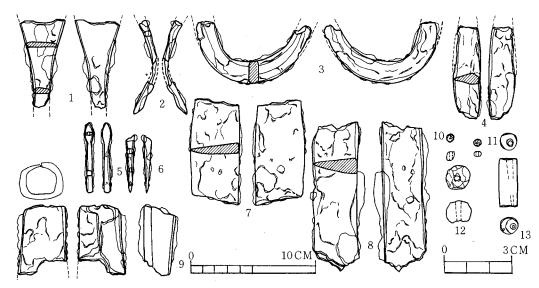


Fig.50 玉・鉄器実測図 (縮尺1/1,1/2)

41は、**白磁**の底部である。底部の低さ、釉のかかり具合から玉縁の口縁部を持つ器種であろう。8号等にも出土している。

(2) 鉄器・装身具 (Fig.50)

鉄鏃(1・5・6)1は広根の斧箭式に属するもので、身は断面平造りで茎は、いく分か丸 みをおびた方形を呈する。5は尖根式に属し、身は柳葉状のもので両丸造りであり、関をつく り茎へと続く。6は茎端部のみで、形態は明確でない。

釘(2)断面は方形を呈す。上端部はくの字に彎曲して、下端は銹化が著しいが、鋭かったと思われる。図示しなかったが、釘の下端部のみ出土もあった。

馬具(3)輪鐙の残片と考えられる。 1×0.3 omの扁平な形状をもつ。

刀子 (4) 刃巾1.0cm, 重ね0.5cmを計り、両側に鎬をつけている。

直刀 (7・8) 2振り分の出土をみた。7は刃巾2.2cm, 重ね0.5cm, 8は刃巾2cm, 重ね0.7 cmを計り、ともに平造りで、断面は二等辺三角形を呈する。

鉄斧 (9) 小形のもので刃部を欠失する。袋部は厚さ0.3*om*の鉄板を曲げて,両端を中央部で合せている。袋部には木質は認められず斧頭のみを副葬したものであろうと考えられる。

小玉 (10・11) 10は胴部の張り出しは少く孔端部も丸く仕上げられている。11は胴部が張り出し両端は平坦で扁平である。ともにガラス製で、孔は一方より穿られたものである。

丸玉 (12) めのう製で橙色をなす。径が1.20m, 高さ0.90mを計り、仕上げは粗雑で、面にはかなりの凹凸がみられる。孔は一方より穿られたものである。

管玉 (13) 濃緑色を呈する碧玉製で、長径2.10m、短径0.80mを計る。側面は丁寧な研磨で仕上げられているが、孔両端は粗けずりのままである。穿孔は片側から行う。

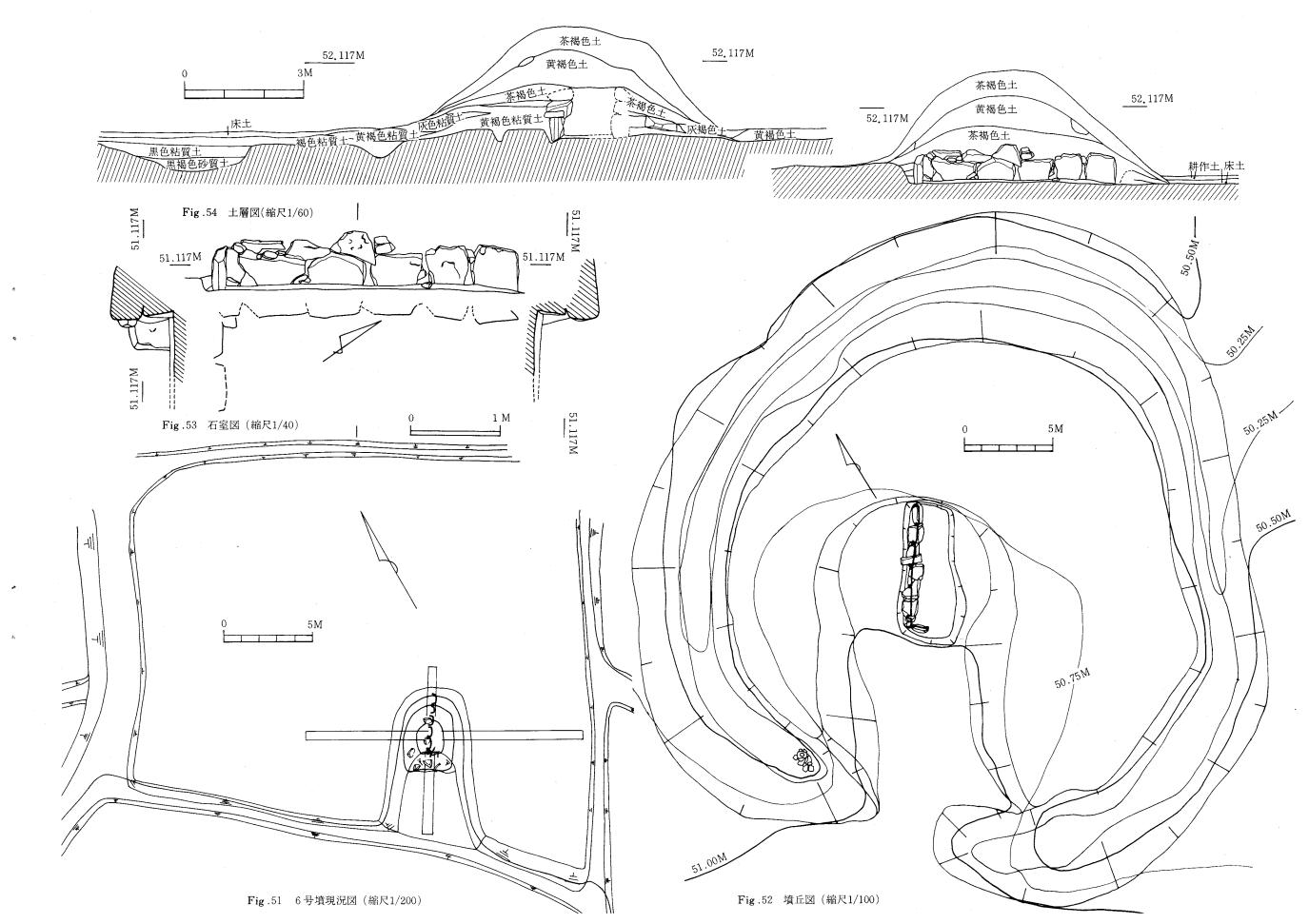
第 6 号 墳

1. 墳丘 (Fig.51: PL.12)

8号墳の西南、標高 $51\,m\sim50,500\,m$ に位置し調査前に直径 $4.8\,m$ 、高 $21.9\,m$ の高まりを見せていた。当初、墳丘の遺存状態が良いと考えられたが、調査途上、築造時の墳丘部は僅かしかなく残りは開墾時の削減による攪乱土であることが明らかになった。墳丘は東西の溝に挟まれた赤褐色粘土の整地面を基底として形成されたと考えられる。墳丘基底面にあたる部分は、東西に僅かの傾斜をもち中央部がやや高くテラス状に張り出し整地されている。したがって墳丘は南側からは高く北側からは低く観察できるものであったろう。東側周溝は等高線にほぼ平行に開削して巾 $1.9\,m\sim2.7\,m$ 、深 $20.25\,m\sim0.4\,m$ の U字状をなす。西側周溝は等高線に直交して巾 $2.7\,m\sim3.0\,m$ 、深 $20.25\,m\sim0.4\,m$ のやはり U字状をなす。この東西の溝は前庭部で消滅し、前庭部左側の周溝部分に Fig.256-16の甕が1個体分検出された。墳丘の遺存状態から盛土を推測すると、さほどの複雑さはなく、またさほどのしまりももたない。石室の掘り方も浅く、石室掘り方がほば埋った段階から石室を裏込め、固定することを兼ねた盛土が行なわれている。

2. 石室 (Fig.53: PL.13)

石室は東西の溝に挾まれたやや東よりに構築されて、主軸を S - 36° - Wにとる。天井部、北側壁、西側壁及び南側壁の一部の石はすでになく、また左壁は腰石のみという状態であった。地主の話では、昔この古墳を発掘(盗掘かもしれない)したという。本来右壁の腰石が並んでいた所と前庭部の側壁部の一部が攪乱をうけ、赤褐色粘土の下層のシルト層にまで達していた。また、腰石と考えられる割石や転石が積みあげてあった。左壁部には、小ぶりの扁平な転石を立てて腰石としている。さらに腰石と腰石の間には小石を充填した部分もある。現存では左壁長3.3 m・前巾0.4 mである。南小口部分には細長い転石を置き、左壁部との巾の足りない間は小石を填てている。また左壁部で現存するのは二段目までであるが、南小口部分は二石の腰石を配していたと考えられる。上段が若干石室内にせり出す。石室は掘り方の中から構築されている。また床面は石室掘り方底面より上に12 mほどの埋土をし、その上に小さな転石を敷きつめていたと考えられる。敷石と考えられる転石は南小口寄にり僅かにその名残りを残すのみである。破壊された奥壁、右側壁部がどのような形状をとったか明らかにしえないが、地山整形・掘り方・残っている南壁の腰石からすれば羨道部を連接する横穴式石室とはみなしがたく、依然として古いタイプの墓葬である竪穴式石室が用いられた古墳であると考えられる。



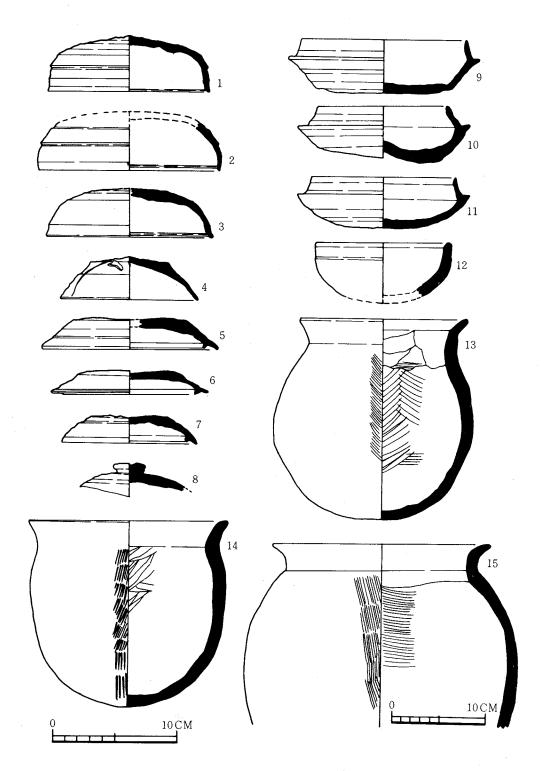


Fig.55 6号墳土器実測図 (縮尺1/3·1/4)

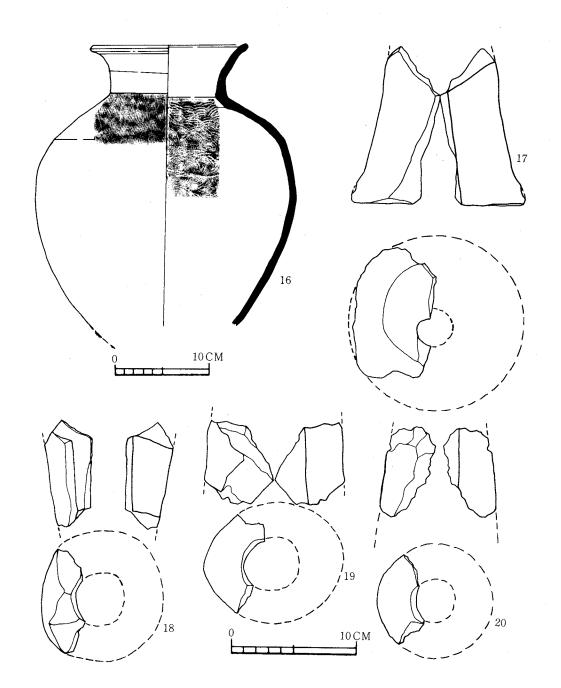


Fig.56 土器実測図-2 (縮尺1/3·1/4)

3. 遺物

(1) 土器 (Fig. 55~56)

杯蓋(1~8)1・2 は体部と天井部との境に凹線をめぐらし、口縁内面に段をもつもので I 類に分類される。3 口縁端部は丸みをもってくるが、内面には段がつくもので II 類に該当する。4 小型化し天井部にはナデ調整が加わり、平坦に近くなったもので II 類に分類される。5~7 口縁内面のかえりは、口端より下方に長く鋭く突出するもので IV 類に分類。8 は平坦なつまみを付し、天井部はヘラ削りがあり V 類に分類。杯身(9~12)9~11はヘラ削りが2/3程度あり立上りは高く、やや内傾するものと立上りがまだ高いが内傾したもので I 類に分類。12は小型で、体部は底部からゆるく内傾気味に外反するもので IV 類に分類される。

土飾器 (13~15) 13は口縁部は短く外反し、底部は丸くなる。体部外面は刷毛目調整し、内面はヘラ削りにより仕上げている。口縁部は内外面ともにナデ調整。14は全体的に器壁の厚いもので、口縁は短く外反する。口縁部は内外面ともにナデ調整。体部内面はヘラ削り、底部は指による調整をし、外面は刷毛目で仕上げている。15は底部を欠失する。口縁部は短く、やや強く外反する。口縁部は内外面ともにナデ調整。体部外面は粗い木目のものでナデ調整、内面も木目の粗いもので調整し仕上げている。

甕(16) 西側前庭部近くの周溝底より一括して出土した中型甕である。口頸部からやや直線的に外開し、端部はさらに外反する。体部外面は平行叩き、内面は同心円叩きにて調整を施している。底部は穿孔されている。

精羽口(17~20)すべて墳丘より出土したものである。17は基部に近いもので、胎土は多くの砂粒を含み良質とは言い難い。18は先端に近い破片であろうか、高熱のため胎土が変色している。19は多量の砂を含む質の悪いもので、外面はヘラによる面とりが窺われる。20は先端部で胎土にスサを含み、鉄滓の附着が認められる。すべて円筒状をなすものと考えられる。

(2) 鉄器・装身具 (Fig. 57)

鉄器類は、刀子・小直刀・鉄鏃が、周溝より出土したが細片で図示しなかった。管玉は耕作土からの出土である。

刀子 切先部近くの破片で、背は平造り・刃巾は1.4を計る。断面は 二等辺三角形を呈する。

小直刀 2振り分出土。1振りは刃幅3.1cm, 重ね0.6cmを計る。他方は刃巾2.5cm, 重ね0.4cmで, 共に背は平造り, 断面は二等辺三角形を呈する。

鉄鏃 尖根式に属するもので、鏃身部のみ残存し、身は片丸造りである。他は茎部分の破片で、全容を知ることができない。

管玉 碧玉製で、濃緑色を呈する。長径2.7cm、短径1.0cmを計り仕上げは丁寧である。穿孔は片側から行なっている。

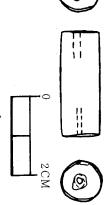


Fig.57 玉実測図(1/1)

第 7 号 墳

1. 墳丘(Fig.58~59:PL.14)

7号墳の現況は、ほとんど水田面と同一レベルで1本の古いハゼの木が立っており、一部に石がかたまってある状態であった。墳丘はわずかに石室側壁にその一部が認められるにすぎなかった。

墳丘の基底面は他の古墳と同様に赤褐色粘土である。 7 号墳も平坦面を基本的に基底とし、石室もこの基底面をわずかに掘り下げて形成している。墳丘の規模等は不明であるが盛土の範囲としては周溝から1 m程度はなれていると考えられよう。現存する盛土から考えて墳丘形成過程をみると、掘り方によって出た赤褐色粘土を腰石部分に再度入れこむ過程を第1段階、次に石室の石材を積み重ねるのと併行して行なう段階を第2段階とすることができよう。第3段階は、天井石の上部に形成される盛土であろう。この盛土も他の古墳と同様に石室の石材が小ぶりのため盛土自体は複雑ではなく単純である。

周溝はセンター部にはなく左右にいの字形に形成されている。吉武塚原古墳群で最も主流を しめる周溝の形態である。この7号墳も他の古墳と同様に周溝から多量の土器等が検出されて いる。5号墳では、大型の甕等はあまり出土していないが7号墳からは他の土器と混じって 大型の甕小型の甕等が右側周溝中央部から6個体出土しており、墓道左の周溝には他の土器群 が検出された。

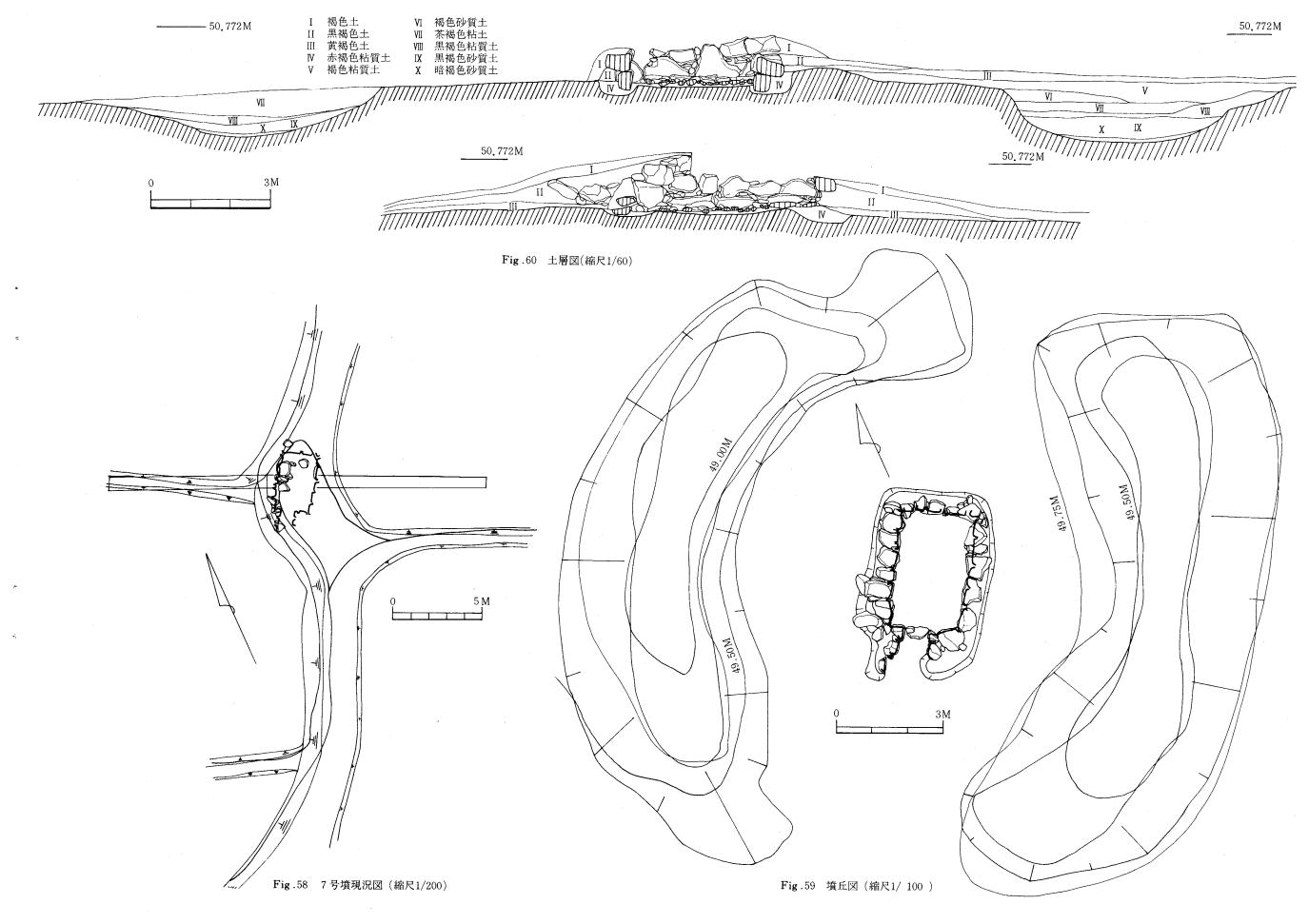
2. 石室(Fig.61:PL.15·16)

本古墳の石室の主軸は、S-27°-Wにとり、ほぼ南西に開口する単室で羨道部がハの字に開く竪穴系横口式石室の構造と考えてよいであろう。この構造は本古墳群では4号と7号とに認められる。現存する側壁は腰石を含めて3段までであり石材も小ぶりな花崗岩を使用しており、石積の方法からみるならばいわゆるレンガ積技法と称せられるものであろう。玄室は、奥巾2m、前巾1.8m、左壁長3.1m、右壁長3.2mを計る。その比は1:1.65の比である。

羨道部は、石材が基底面に達せず浮いた状態で検出された。これは2・4・5・8号墳と同様の形態を持つ羨道部で8号を除いた2・4・5号墳は、羨道の短い形態で、特に4号墳との類似点を多く指示できる。

本古墳は、床石の状態で明らかに追葬が行なわれたことを物語っている。小石を敷きつめた あと扁平な花崗岩の敷石を敷いており、玉類の出土も上下の床石部から多量に出土している。 築造時の床石を追葬の時期に一部取り除いた形跡があり、粘土をはった上に小石を敷きつめ扁 平な石材をおくが、この石材は築造時の床石とも考えられる。

石室の掘り方は、一応羨道部まではあるが、実際には羨道部はうめられている。石室内部に は排水施設と考えられるものはない。



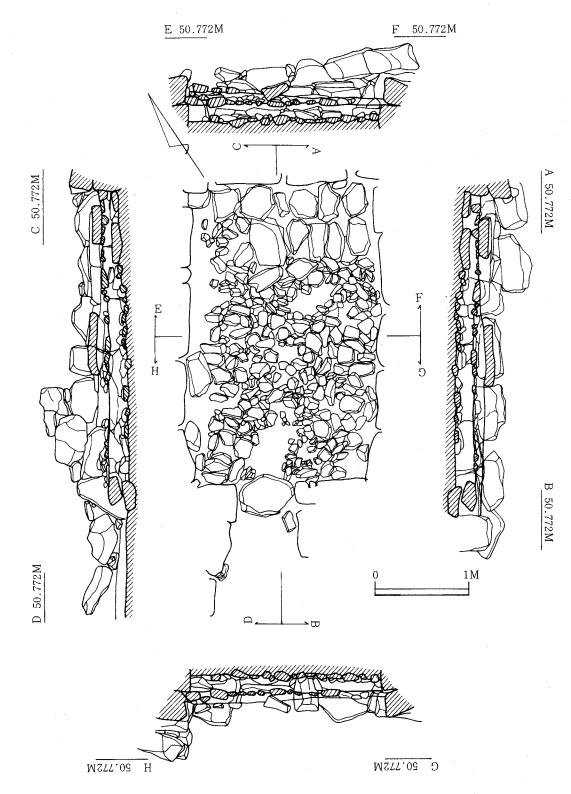


Fig.61 石室図(縮尺1/40)

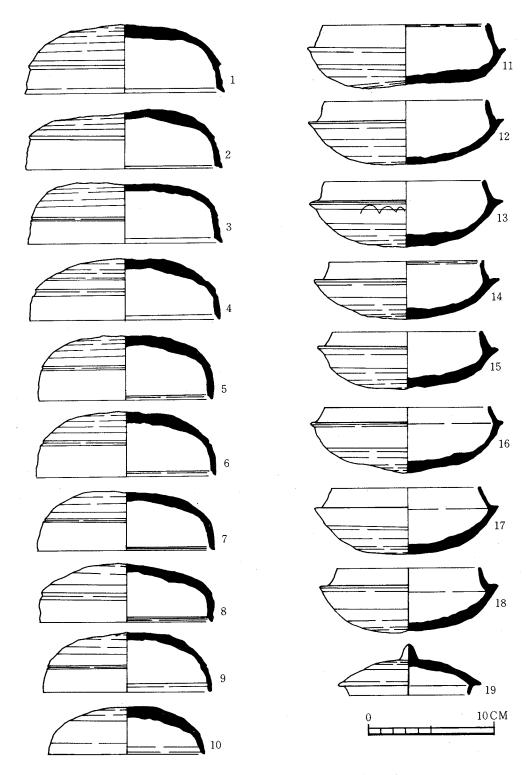


Fig.62 7号墳出土土器実測図-1 (縮尺1/3)

3. 遺物 (Fig. 62~67)

7号墳からは、石室内、周溝内より土器・鉄器・玉類が出土している。鉄器・玉類はほとんどが石室からであるが、Fig.65-1の銀環は左側の周溝内より土器と共に出土している。

(1) 須恵器 (Fig.62~65)

杯には I・II・IVの蓋と I 類の身がある。 I 類の蓋(1~9)と II 類(10), IV類(19)の蓋がある。 杯身は I 類(11~18)しか出土していない。蓋は I 類の中でも 2~3 種に区別できる。体部と天井部の境をなす稜,段によって,またへラ削りによっても区別できる。また身も同様に区分できるが一応大きな区分の範中で I 類としている。20・21は無蓋高杯である。20は II 類で,杯の部分が 2 条の凹線を施す。 脚部は先端部から下端まで長い方形の透孔を 3 方向に施す。21は IV類に区分できる。22は短頸壺の IV類に分類できる。 肩の張る形態である。

26~28の**聴**には、II類(27)Ⅲ類(26)Ⅳ類(28)の3種がある。II類の27は頸部がしまらず、やや外反しながら口縁部に達する形態である。26のⅢ類は27より頸部がしまる形態であるが、26・27には装飾らしいものは認められない。28は26よりさらに頸部がしまる形態を示す。

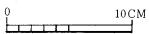
提瓶の29は I 類に分類できる。23の平瓶は小型である。口縁部がくびれから外反しそのまま立上り口縁端部に一条の沈線を持ち、端は丸くおさめる。体部の後面は膨らず、前面の張りは大きい。底部は平底で底面から体部中位までカキ目を施す。24の広口臺も器高が14.50mの小型である。最大径は胴部上位にあり、口頸部は外反し、端部附近は稜を持ち、端部を丸くおさめる。底部は丸底である。口縁部から胴部中位までナデの成形、中位から底部まで平行叩き目文である。25は長頸臺の口縁部である。口頸部はやや外反しながら口端部で内弯し、丸くおさめる。口頸部中位に一条の沈線を施す。32の横瓶は大型である。口縁部は欠損している。体部は両側面とも膨り出し丸みを持ちながら底部へ達する。両側面は接合する形態をとり、内面にその形跡を残している。外面は平行叩き目文、内面は同心円文である。非常に薄く仕上げている。

33から38は**甕**である。大きさから3つに区別すると、小型の甕が35・36、中型が33・34、大型が37・38である。35は口頸部の外反が強く、口端部附近で稜を1段持ち、丸く口唇部をおさめる。最大径は胴部中位にある。36は口縁部が欠損している。胴部は35より丸みがなく最大径は胴部上位にある。両方とも外面は平行叩きの後にカキ目で一部を消す。内面は同心円文。

33は最大径が胴部中位に位置し、口頸部は、垂直に立上り口端部附近で強く外反する。34はやや外反して口頸部は、一条の沈線よりさらに強く外反して丸くおさめる。37は大型で口頸部は一部垂直に立ち一条の沈線部分から外反し口唇部に稜を持ち、鋭くおさめる。口頸部外面は3段に沈線、稜によって区切られ上二段に逆転した波状文を配す。38は肩の張った胴部中位に最大径がある。口頸部は外反しながら端は鋭くおさめる。外面に3条の沈線がありへう描の波状文を配す。33・34・37・38の外面は平行タタキ目、内面は同心円文。

土師器 (Fig. 63-30·31)30は高杯の脚部である。外面には縦にヘラ削りを施す。脚裾径10.2

Fig.63 土器実測図-2 (縮尺1/3)



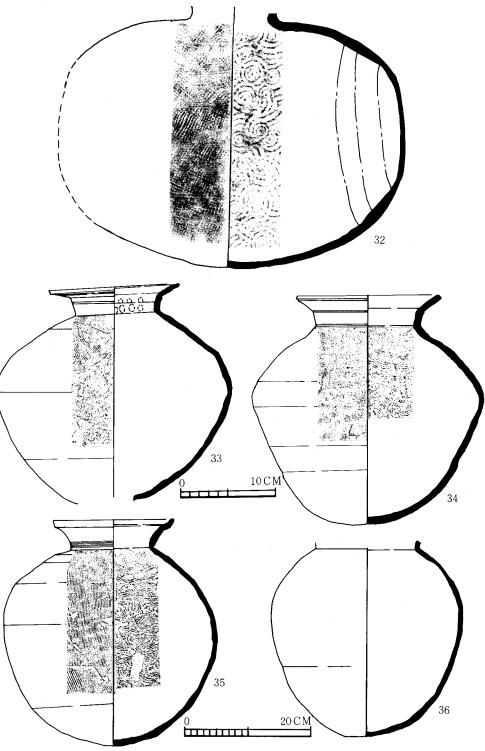


Fig.64 土器実測図-3 (縮尺1/4, 1/6)

omである。31のカメは体部から内 弯してきた器形は頸部から外反し て口端部に達し、丸くおさめる。 外面はナデと刷毛目、内面は頸部 までナデ、体部は刷毛目調整であ る。

(2) 鉄器・玉 (Fig.66・67)

鉄鏃(1~13, 15・16)鉄鏃は
30本以上を越えるものが出土したが、いずれも銹化、細分がひどく
図示できるものは15本である。出
土状態は床面敷石の隙間より検出、破片となって全形を知るものはないが、鏃身の形態から広根なと尖根式に分れる。1~13は鏃身は 若干の差異をみせるが、剣先に似た形態で尖根式に属し、篦被部から張り出した小さな関をもつ。6は 茎端を失うだけで比較的全体を知ることができる。15・16は広根式に属し、篦被部から張り出した関をもつ。

石突(14) 木部を挿入する袋部をもち端部は比較的丸みをもち, 突部は両側に鎬をつけて断面を菱形に仕上げている。木質が残存する。

鉄斧(15)銹化が著しく、刃部を欠失する。木柄挿入の袋部のみ 残存し、大きさ、形態などは明ら かではない。

馬具 (16・17・18) 鉸具が 3 点 出土した。16は刺金を丁字形にし

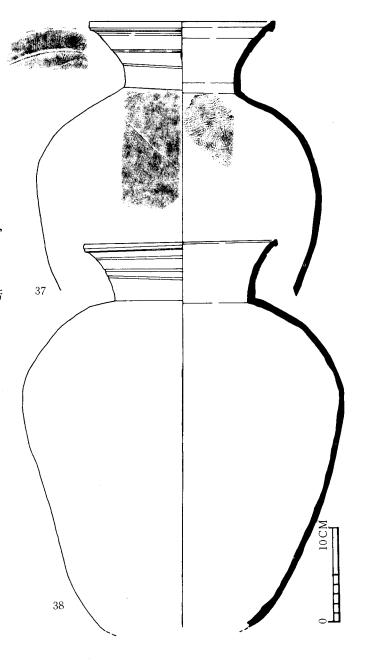
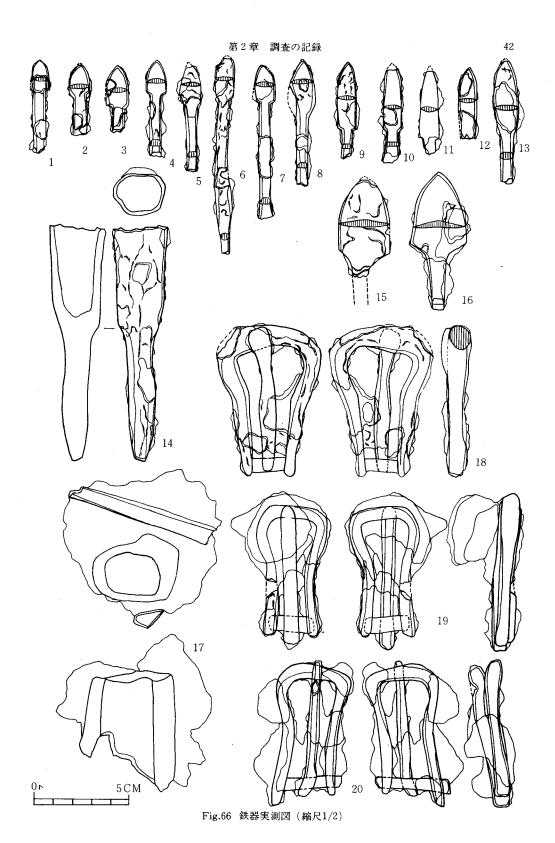


Fig.65 土器実測図-4 (縮尺1/8)



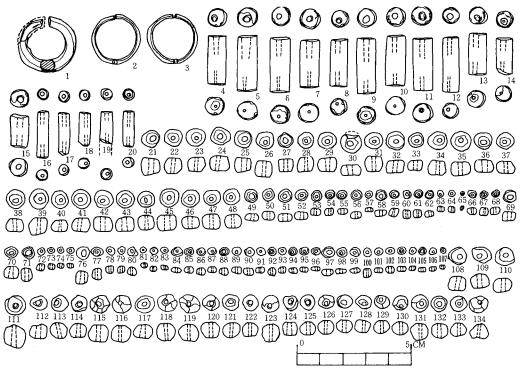


Fig.67 玉実測図 (縮尺3/5)

て基部の間にはめこんだもので、17・18は刺金は基部の横棒に巻いたもので、3点ともΩ形を呈する。17・18は銹化が著しいが、16は比較的残りがよい。いずれも鞍金具と考えられる。

(**3**) 装身具類(Fig67)

耳環(1~3) 1は周溝からのもので銅芯銀張で断面は円形をなす。突き合せ部は、やや広めである。2・3は1対になる細めのもの。銅芯金張で円形に仕上げられ、突き合せ部は狭い。遺存状況が悪く図示しなかったが、金張がほとんど剝落した同様の銅芯が出ている。

管玉 (4~20) 1~11までは碧玉,12はひすい,13~17は硬質粘板岩製である。孔は両面からと片面穿孔にわけられる。碧玉製のものは、研磨も丁寧である。12は材質が悪く、全体的に研磨がゆきとどかず面にはかなりの凹凸がみられる。13~17、細身で一般的には碧玉製のものより古い型と考えられるが、現況の出土状態では明確にしがたい。

丸玉・小玉 (21~107)) すべてガラス製である。丸玉類は両端が平たく,胴部が球形に張り出し全体的に断面は方形を呈し扁平である。小玉類は,両端が平たいものと一方に丸みをもつものに分けられ,胴部が球形に張り出すものと直線的なものがある。これらの穿孔は大体において片面からである。

土製練玉 (108~134) 形は一定ではないが、ほとんど胴部が球形に張り出している。両端部は、かなりの凹凸がみられる。

第 8 号 墳

1. 墳丘 (Fig.69~70: PL.17)

8号墳の現況は、水田の畦の部分に石材が10数個点在していた程度で墳丘は削平されていると考えられた。また右側辺部は約1.5 mの地高差のある農道となっていることで石室自体も大部分破壊されているものと考えられた。実際には右側辺部の周溝等は破壊されていたが、石室左側辺部は現存しており、石室の側壁自体も腰石より4段目までと予想された以上に残りが良く、墳丘自体も約1/3程度残存していた。

墳丘は、他の古墳と同様に赤褐色粘質土を基底面としている。平坦面を基本的に基底としてこの基底面を掘り下げて石室を形成している。墳丘の規模・形状は不明であるが、他の古墳と同様に周溝附近まで墳丘があったものと考えられる。現存する盛土から考えて墳丘形成過程を考えてみると、ほぼ第3段階に区別することができる。この第3段階は他の古墳の墳丘形成と同様で第2段階でも石室の石材が他の古墳より多少大型化するが基本的には同様であろう。

周溝は右側辺の周溝部分は削平されているが基本的に2・4・5・7号墳と同様に「い」の字に形成されたと考えられる。Fig.68の周溝内に2ヶ所多量に土器を検出するところがある。墓道附近の周溝からは、蓋杯・高杯等の小型の土器群が、中央部には、大型の甕(Fig.76, 54・55)が検出されている。

2. 石室 (Fig.72: PL.18·19)

8号墳の石室主軸は、S-15°-Wにとりほぼ南側に開口する羨道部の長い横穴式石室である。玄室は、奥幅20 m、前幅1.8 m、左壁長2.9 m、右壁長3.10 mを計り、羨道部は、奥巾0.72 m、前巾0.75 m、左壁長4.0 m、右壁長3.0 m、全長約6.9 mを計る。玄室内部の石積方法を見るとまだレンガ積技法が認められるがしだいに石室の石材が大型化しつつある点が注目される。ただ1号・3号墳よりはまだ古い形式をとどめており、側壁部に関しては、依然レンガ積の技法が認められる点、過程的な段階かもしれない。

羨道部の閉塞は破壊を受けておらず、このことから羨道部床面には敷石を敷いていないことが判明した。また、玄室に近い羨道部分に閉塞がないことから副室的要素も考えられる。また羨道部は基底面におかれた状態か、もしくは浮いた状態を示すことから7号墳でふれたごとく形態的、石室構造上、注目されるものであろう。特に8号墳は羨道部が3~4 m もあるのにかかわらず同様な技法が持ち入られたことは注目されることろである。

3. 遺物 (Fig. 73~77)

上記に記したごとく遺物としては周溝内から多量の土器が出土している。特にここで注目せ ねばならないのは、2点の陶質土器であろう。両方とも新羅系土器であるが、多量の蓋・杯・ 高杯とともに検出されている点追葬時にかき出されたものと考えられる。

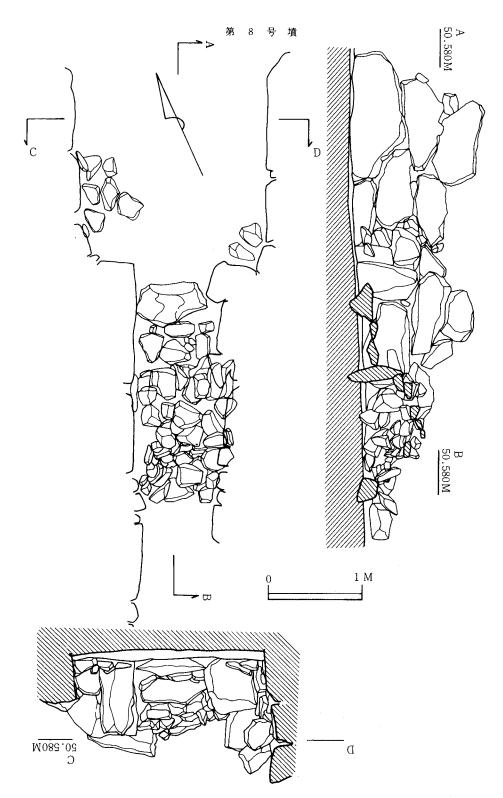
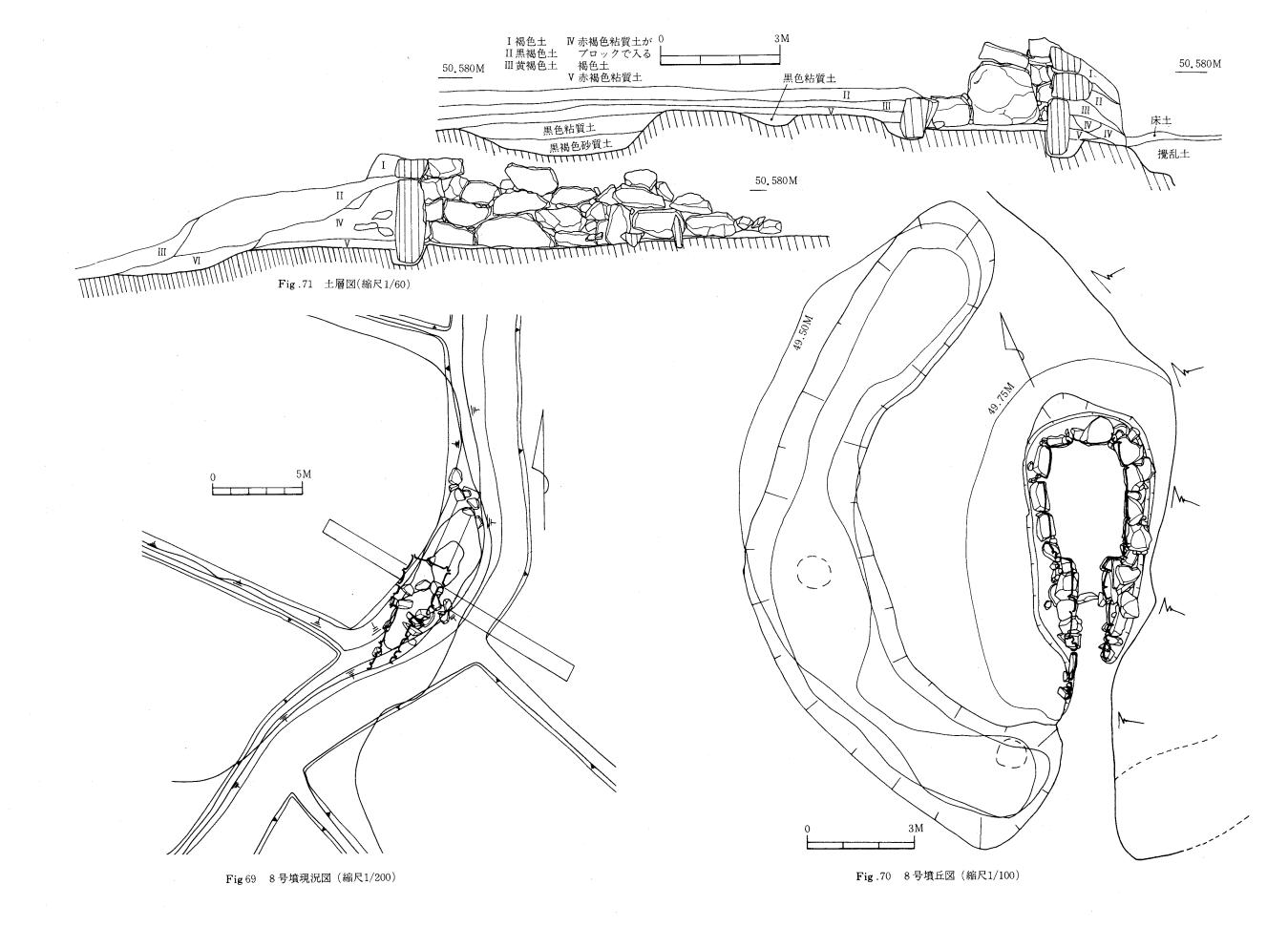
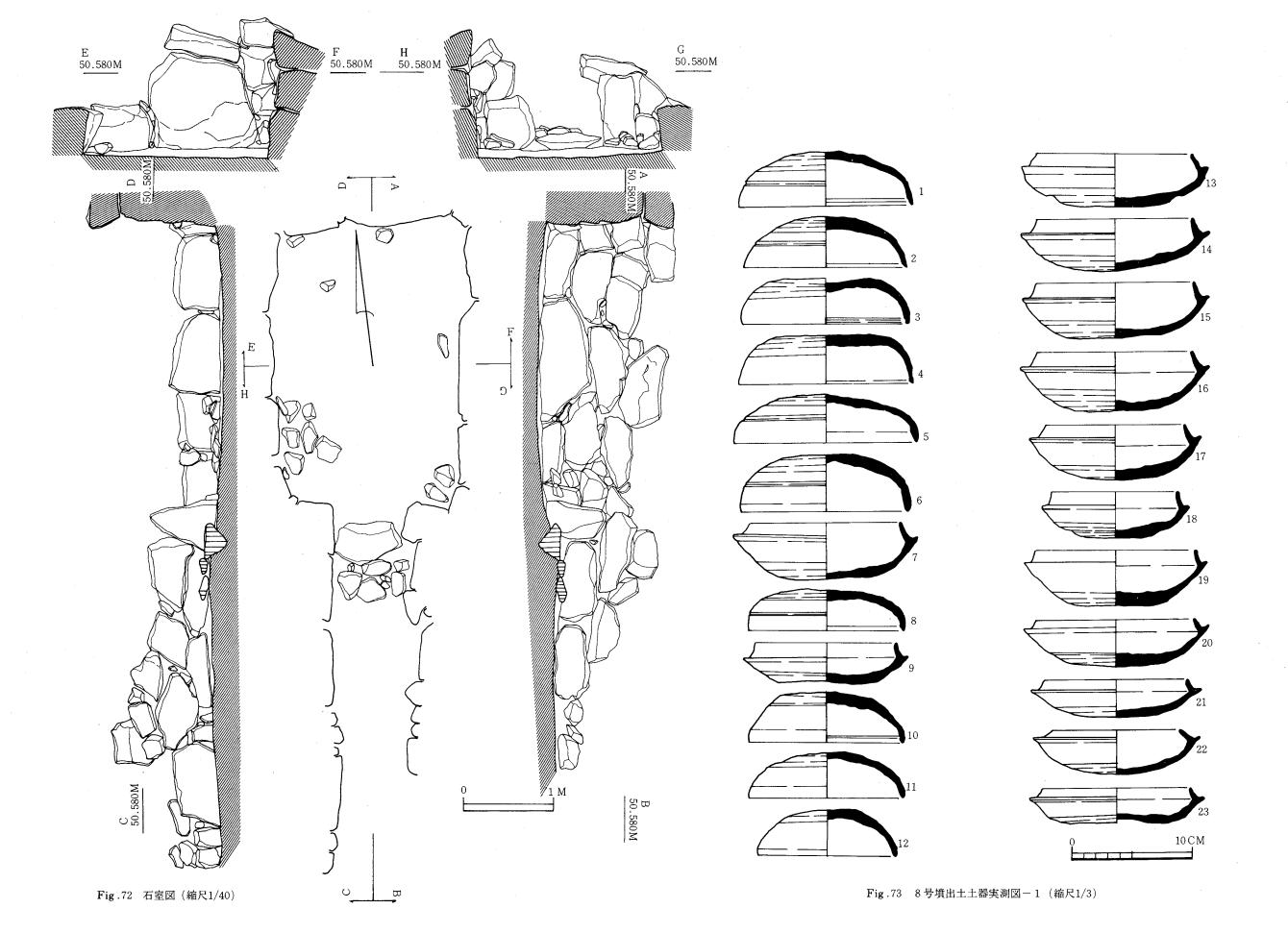


Fig.68 8号墳羨道部閉塞状態図(縮尺1/40)



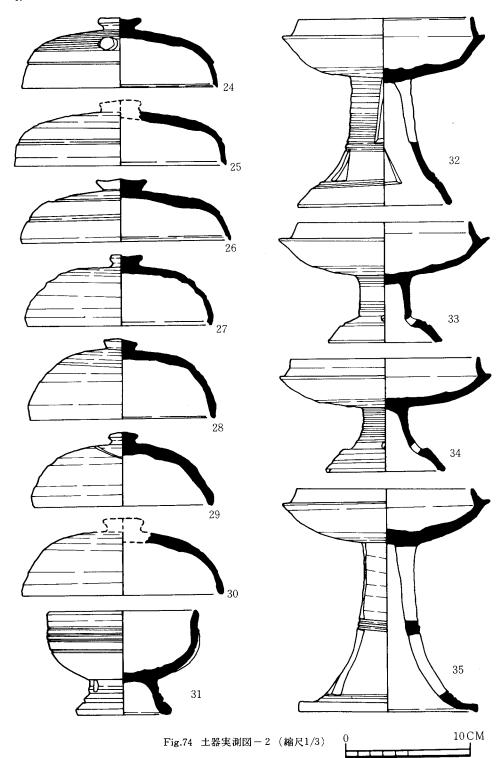


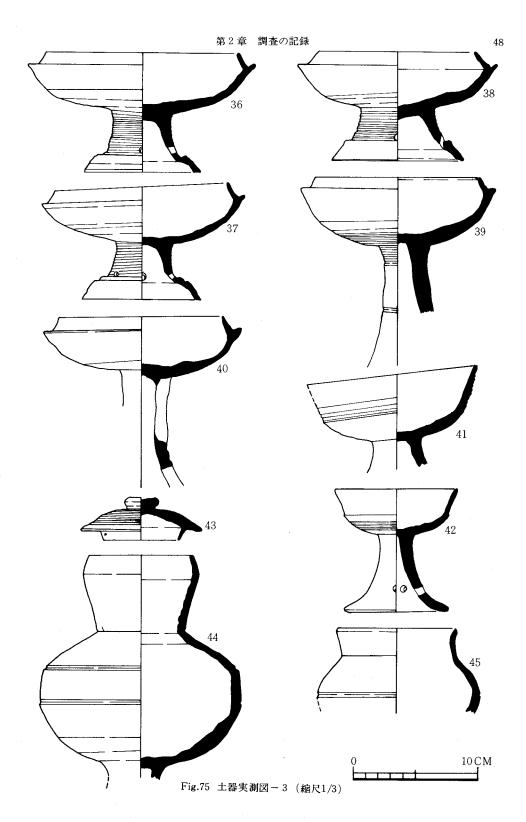
(1)須恵器 (Fig. 73~76)

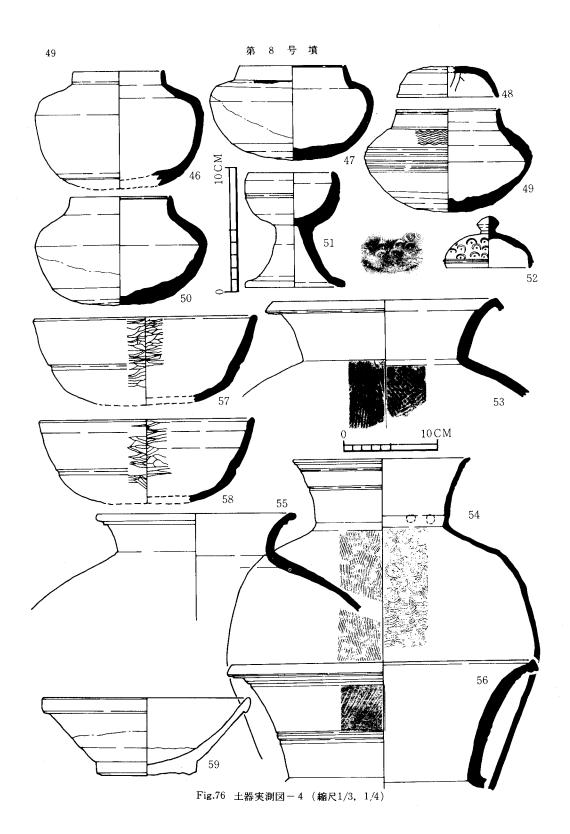
杯にはⅠ類からⅢ類に分類できる。蓋は1・2のⅠ類、3~6、10のⅡ類、11・12のⅢ類となる。Ⅰ類でも新しい方に区分できる形態である。8・9はセットで扁平である。Ⅱ類は口径の大小、器高の大小がある。6・7はセットである。6は口唇部が丸みを持つ。内面に稜を持つことからⅡ類に分類した。Ⅲ類は口径も小さくなり天井部と体部との境、口縁内面の段、凹線が消える。杯身は13~19のⅠ類、20~21のⅡ類、22~23のⅢ類となる。Ⅰ類には18の様な小型の杯身もある。これは生やけの須恵器で4号墳の39・40(Fig. 33)と同じで口縁部が内弯しながら端部で外反、直立するタイプである。Ⅱ類は立上りがⅠ類より低くなりやや内傾する形態である。Ⅲ類はⅡ類よりも立上りが一層低く、また内傾し扁平な感じが強くなる。

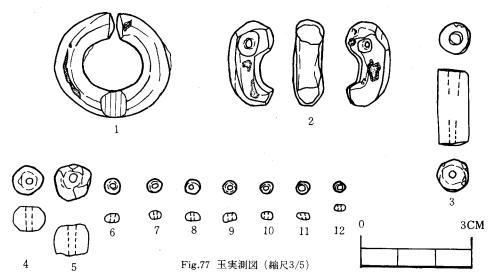
有蓋高杯は24~30が蓋,32~40が高杯である。蓋は I ~Ⅳ 類に分類でき,高杯も I ~Ⅲ 類に 分類できる。蓋は24のⅠ類, 25・26のⅡ類, 27・28のⅢ類, 29・30のⅣ類に区分できる。24は 天井部と体部との境に稜を持ち,口端内面に段を配す。II類の25・26は,天井部と体部との境 に浅い沈線に,口端内面も沈線と変化する。Ⅲ類の27・28では天井部と体部との境が消え,内 面にかろうじて沈線がのこる。口径もⅡ類より小型となり, つまみも鈍くなる。 V類になると さらに内面の沈線が消え端部も丸みを持つ。高杯は32のⅠ類、33のⅡ類、34~40までのⅢ類に 区分できる。 I 類の32は杯部の立上り,底部と体部との張り具合,へう削りが2/3程度の特徴を 持つ。Ⅱ類の33は杯部がⅠ類より大きくなり立上りも多少小さくなる。Ⅲ類は杯部がⅠ・Ⅱ類 より大きくなり,逆に立上りは小さくなる。42・51は**無蓋高杯**で,42はⅡ類,51はⅣ類に分類 した。45~47,49・50は短頸壺で,49がⅠ類,45がⅡ類,50がⅢ類,46・47がⅣ類に分類した。 48は49とセットではなく短頸壺の蓋である。43は長頸壺の蓋であるが44の脚付長頸壺とセット ではない。44の脚付長頸壺は脚部が欠損している。壺部は体部中央下に一条の沈線,上部に2 条の沈線を配し,内傾しながら頸部に達する。頸部からやや外反して口端部付近で急に内弯し て端は丸くおさめる。52は長頸壺の蓋と考えられる。宝珠形のつまみを持ち,天井部と体部と の境に鋭い稜を持ち、端部も鋭い。天井部には半円圏文並列帯をめぐらしている。表面には自 然釉が剝落した形態である。31は把手付無蓋高杯である。把手は退化し装飾の意味しか持たな い。体部中央に一条の沈線,上部に3条の沈線を配する。この2点は陶質土器(特に新羅系と 呼ばれている)である。53から65は**大型糖**である。53は頸部から外反しながら口端部に急激に 屈曲しておさめる。54は胴部上位で肩が張り下位に多少張りながら底部とつづく。口縁部は2 条の沈線を施し,その中間に櫛描波状文を加える。55は頸部から外反しながら口端部で段を端 部を丸くおさめる。56も55と同様に口縁が外反し,中位に2条,上位に3条の沈線を入れその 間に文を配す。53~56の外面は平行叩き,内面は同心円文叩きである。

土師器(Fig. 76-57·58)41は杯部中位から7~8条の沈線を配す。脚部は欠損する。57・58は体部から外反しながら口端部に達し丸くおさめる。中位に沈線が一条配す。内面ともヘラ削り。









(2) **装身具** (Fig.77)

4 は羨道部、閉塞下の埋土より検出。他はすべて玄室攪乱土よりの出土で、プライマリーな 状態ではない。

- **耳環** (1) 身が太い銀環である。銅芯に銀泊を置いたもので、部分的に剝落、腐蝕がみられる。突き合せは近く、断面は楕円形を呈する。対になるものは検出できなかった。
- **勾玉** (2) 橙色を呈するめのう製で、長径2.2cm、短径1.1cm、厚さ0.7cm。頭部の穿孔は一方向よりなされ、他の一方より強くむかえ孔を行っている。研磨調整は丁寧ではなく、部分的に稜があり、角ばった様相を呈する。
- 管玉(3)碧玉製のもので濃緑色を呈し、長径2.0cm、短径0.8cmを計る。孔は一方より穿孔され、仕上げは粗雑で面取りの状況を明確に残している。
- **丸玉**(4・5) 4 は濃監色を呈するガラス製で、両端の磨きは粗雑だが平坦面をなし胴部は球形に張り出している。風化のためか光沢はない。 5 はめのう製で橙色を呈する。研磨は粗雑でかなりの凹凸がみられる。ともに穿孔は一方向からである。
- 小玉 $(6 \sim 12)$ すべてガラス製である。 7 は淡監色で、他は黄緑色を呈する。ほとんどが、両端部は平坦で扁平な球形をなし、両端の角は丸く仕上げられている。穿孔はすべて一方向。

8号墳出土玉計測表

| | | | | | | | | 単位*** | |
|-----|-----|-----|-----|----|-----------|-----|-----|-------|---|
| No. | 種類 | 長 径 | 短 径 | 高さ | 孔径 | 色調 | 材質 | 備 | 考 |
| 1 | 匂 玉 | 2.3 | 7.5 | | | 淡橙色 | めのう | | |
| 2 | 小 玉 | 2 | 3 | | 1 · 1 | 黄緑色 | ガラス | | |
| 3 | " | 2 | 4 | | 1.2-1 | " | " | | |
| 4 | , | 2 | 4 | | 1.5-1 | ,, | ,, | | |
| 5 | , | 2 | 3.5 | | 1.1.5 | " | ,, | | |
| 6 | " | 2 | 4 | 1 | 1.2.1 | " | " | | |
| 7 | " | 2.7 | 4 | | 1.2.1 | " | * | | |
| 8 | " | 2.3 | 4 | | 1.5 · 1.5 | , | , | | |
| 9 | 丸玉 | 8.5 | 10 | | 2 · 2 | , | めのう | | |
| 10 | 管玉 | 8.5 | 8.5 | 20 | 2.8 · 1.8 | 濃緑色 | 碧玉 | | |
| 11 | 丸玉 | 6.8 | 7.8 | | 1.7 · 1.5 | 淡監色 | ガラス | | |

第3章 結 語 に か え て

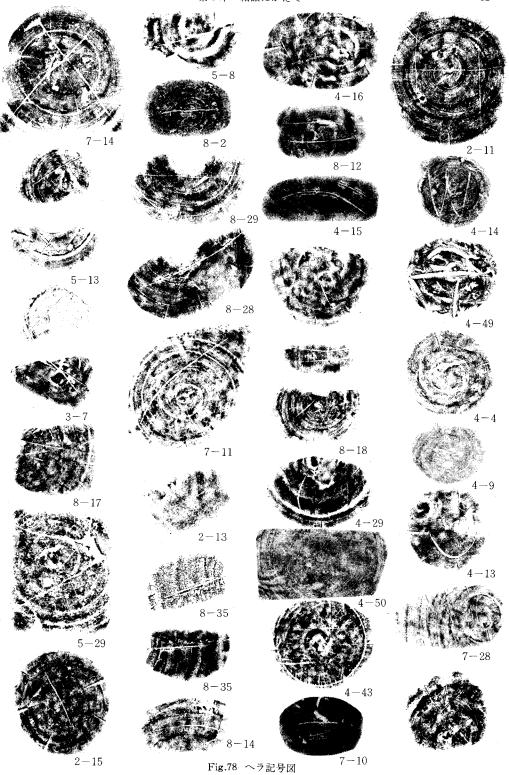
吉武塚原古墳群は、金武古墳群吉武上群の名称を分布調査時に名付けた。この金武古墳群の支群には乙石支群と吉武支群の2つがあり、その中の1支群である吉武支群には16の小支群がある。吉武塚原古墳群は8基から成る古墳群であり、標高49m~53mの中に位置する。ゆるやかな傾斜を持つ平坦面に古墳群が形成されているのは、吉武地区で樋渡古墳と吉武支群J群Q群の3ヶ所である。このような平担地に古墳群を形成する時期の基礎材料を提出できる様に思う。この古墳群で解明しなければならない問題は数多い。特に吉武支群の1群を破壊される必要上調査記録を作成したが、これで吉武支群の解明する1ページになりえることを目的として記録を中心に記載した。今年度報告される中で吉武・乙石地区では3つの古墳群を調査・報告する。乙石・長石古墳と乙石夫婦塚1・2号墳と本古墳群で、長石古墳群は山の斜面に位置する6基の古墳群、夫婦塚1・2号は、東に傾斜を持つ台地上に近接した巨石墳である。詳細は、各報告書に記載してあるので参照されたい。つまり吉武支群の中で時期の異なる3つの古墳群を調査したこととなり、今後吉武支群の参考になれば幸いである。

吉武塚原古墳群の問題点ならびに古墳群のあり方について簡単に記し、結語にかえたい。 まずへラ記号(Fig.78)は紙面の都合上、ここに集成したが、このへラ記号及び土器の分類に ついて、第2に鉄器・装身具について、第3に石室構成等の問題について、第4に築造年代に ついての問題点を提示したい。

土器について

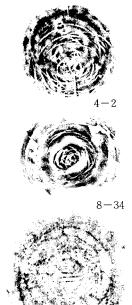
へ**ラ記号** Fig.78に図示したヘラ記号は約11種に分類できる。線の入れ方,形からもう少し細分できる。特に多いのは「×」「一」「二」の3種で,他は1~3点どまりである。個体数は500点以上の須恵器が出土しているが,ヘラ記号を有するものは約50点である。その中で杯蓋の割合が多く, 聴,長頸壺,平瓶である。出土土器量が類似している広石古墳群のヘラ記号の割合は4割もの高率を示すが,本古墳ではごく少量の1割弱である。従って本古墳群でのヘラ記号については資料を提示するのみで,広石のように区分・形態を研究するに至らなかった。

次に杯蓋・杯身・有蓋高杯の内面に認められる同心円文叩きは Fig. 79の 2・3 の様に内面に同心円文が数多くの杯に認められる。この同心円文叩きについて陶邑 I で、ロクロ調整後に中心部に残る粘土の高まりを調整するためのものと考えている。また陶邑古窯址群 I で、田辺昭三氏は、いわゆる II 期の段階で杯・蓋に同心円文叩きが出現すること等から量産化の進展によるものと考えられている。本古墳からも同様の同心円文叩きが出現するが、この時期を幾内編年との接点として認められる可能性が高い。また Fig. 79の1も同様に杯蓋部の天井に認められた平



行叩きの痕跡である。

陶質土器と考えられるものに1号墳から脚付広口壺、8号から蓋・把手付無蓋高杯が検出されている。これら3点の土器は、焼成・胎土色調・形態ともに普遍的に見られる日本の須恵器とは異なりを示す。いわゆる新羅系陶質土器と呼ばれているもので、1号墳出土の土器は韓国慶州・忠孝里古墳群第9号墳出土、西岳里古墳出土の広口壺との類似点が多いが胴部中位より上が欠損しているため、広口壺か長頸壺になるかは不明である。8号の蓋は、上部半円圏文を施す点とその形態から長頸壺の蓋で、福岡県・大善寺町伝御塚古墳の出土土器の杯蓋と類似点が多い。把手付無蓋高杯は、慶州・西岳里古墳出土の土器とほぼ同形態を示し、透孔の数が異なる程度である。以上3点は、韓国出土の土器と多くの類似点を指摘できる。次にこれらの共伴遺物が問題となろう。1号墳出土の土器は同溝内出土で共伴遺物としては同周溝内出土の土器と考えられる。8号の2点も同溝内出土で、古くてI類の時期と共伴する。



o-20 Fig.79 土器内面叩き

鉄器については、玄室内部が攪乱されているにもかかわらず多くの出土をみた。これらのうち2・4号墳は特に注目される。2号墳のU字形鋤先は福岡市内出土の10例目であり、さらに4号墳のバラエティな形態の鉄斧・手鎌の一括出土も市内では類例をきかない。鉄斧は鋳造品が3(本調査での出土は2であるが分布調査の際、4号墳丘上で1表採されている。)4号墳に

おいては鉄斧・刀子等の農工具類の出土数に対して直刀等の武器類の僅少は、やはり被葬者の性格の一端を物語るのであろうか。馬具類は轡の一部、兵庫鎖があり、セットとしては鞍・鐙が欠けているが、前述したごとく玄室内の攪乱もあり、その意義は大きい。1・2・5・7号墳出土の鉸具、飾金具等の出土はこれらの古墳において、馬具の埋納を想定される。当地区には22支群の古墳群があり、それら支群単位による鉄器等の比較検討は今後の課題であろう。

7号墳出土の**装身具類**について,攪乱は他の玄室に比較して少いものと思われる。耳環は4個の出土をみたが2個で1対と考えても2対分にしかならないが,これらで被葬者数の規定はさけたい。出土状態をみると,奥壁に近いところに細身金環が検出され玄門近くの攪乱土より太身型が出土している。ゆえに太身型→細身型といった時期的特色が考えられなくもない。管玉の出土状態は最上段の床面より検出されたのは碧玉製のもので下段にしたがい碧玉製は少く粘板岩の細身型が多くなり,これらから碧玉製→細身型という時期的特色を想定する。当古墳群における玉類出土は2~7号墳にあり玉類は普遍的な副葬品であったことを窺わせる。

石室構成、羨道部形態、周構の形態について問題点を上げてみる。まず**周溝**は各古墳に作られ、その形態は5つに区別できる。2・4・7・8号に見られる石室の上部と墓道部にブリッジをもつ形態、5号に見られる右側辺部にブリッジを持つ形態、3号のように全周に持つ形態、5・6号のように墓道部にブリッジを持つ形態、1号のように3ヶ所にブリッジを持つ形態がある。この周溝のあり方等は今後の検討としたい。

石室構成について見ると4 ・7号墳の羨道部がハの字に開く竪穴系横口式石室と考えられ, 石積みも小ぶりの転石をレンガ積にするタイプで形の整った長方形のプランを呈する石室であ る。6号墳は大部分破壊を受けているが、おそらく竪穴式石室と思われる。腰石の部分しかな いが、おそらく扁平な花崗岩を利用して作られたと思われる。2号墳はこれも小ぶりの転石を 利用しレンガ積みにするタイプで,石室内は羨道部より一段下る。奥壁の部が広がる長方形の プランを呈するタイプで,玄室の左壁が一部張り出した形をとる。 5 号墳は右壁が破壊されて いるが,左壁には小ぶりの扁平な石材を利用したレンガ積み技法を用いており,2号と同様に 羨道部より低く石室を作る長方形のプランを持つタイプである。 8 号墳の石室は,奥壁の石材 が多少大きくなるが他の石はまだ小ぶりである。石積みはレンガ積みで,ほぼ同様の大きさの 石材を利用して長方形に作られたプランを持つ。3号墳は,今まで説明してきた形態とは異な り巨石を使用しはじめる時期であろう。奥壁・両側壁にその形跡をみることができる。この3 号墳の石積みは重箱積み技法と呼ばれている技法で、石室も長軸と短軸との比が小さくなり、 正方形にやや近づいた長方形のプランを呈する。1号墳も3号墳同様に大きな石材を使用する 時期で、石積みも重箱積み技法である。1号・3号を除いて他の古墳は小ぶりな転石を利用し たレンガ積みであるが、この1・3号墳は、大きな割石を利用した重箱積み技法を使用してお り、石室も1・3号墳以外は長軸と短軸との長さの比が大きい長方形プランを呈するが、この 手の石室は長軸と短軸との比が小さい長方形プランを呈する。

羨道部について特記する形態がある。2号・4号・5号・7号墳と8号墳の羨道部形態が、基底面より浮いた状態と基底面に接した状態で検出されていることである。特に2号・5号墳は、石材の下に土を積め込んだ状態である。掘り方は羨道部まで形成されている。この意味は羨道形成・形態が本来このように作られたのか、もしくは追葬時に羨道だけをつけ加えたものなのかの2つの問題を考えなければならない。また羨道部と玄室の段差を持つタイプの2・5号の類似例が滋賀県竜石山古墳群、大阪府一須賀古墳群、奈良県大和二塚古墳、天理市タキハラ5号墳、奈良県ムネサカ3号墳が確認されている。また中谷雅谷氏は「階段状石積のある横穴式石室について」の中で、これらは、北九州地方の竪穴系横口式石室に系譜を求め、原流を韓国に求められている。この指摘から2・5号墳は竪穴系横口式石室の次の段階にくる石室構成となる。上記に上げた問題点も同様に、この段階で使用される羨道構成の可能性が高い。

築造年代について

石室形態・出土遺物の推定年代から築造の年代を推定してみると、まず4号墳・7号墳の石室形態(竪穴系横口式石室)と出土遺物(杯等)から須恵器編年のII期(6世紀の前半)、次に6・2・5号墳のIIIA期、8号墳がIIIB期で、1・3号のIV期の6世紀末までに築造されたと考えられる。次に出土遺物の中で、須恵器編年を手がかりにどこまでの時期の遺物が出土しているかを考え合せてみる。1号墳は高台付境のVII期までと考えられる。2号墳は1号と同じVII期までの遺物が出土。3号墳はIVB期の単独、4号はV期までの遺物が認められる。5号墳も4号と同様にV期の遺物が認められる。6号墳はVII期の遺物が含まれている。7号墳は床面が二面検出されているところから明らかに追葬が考えられる。一番新しい遺物はV期である。8号墳はVIB期~V期に比定できる。

- 註1 亀井明徳「古墳時代の早良平野」 1971
- " 2 福岡市教育委員会「福岡市埋蔵文化財分布調査」西部 I 1979
- # 3 筑前国続風土記附録中金武村
- # 4 県道・大野二丈線関係埋蔵文化財調査報告書 I 1980
- ″ 5 大阪府文化財調査報告書 第28輯 1976
- ″6 田辺昭三編「陶邑古窯址群I」 1966
- "7 この編年は、小田氏の編年と中村浩氏の編年を参考にして行なった。ただ杯Ⅰ類の中でIa·bの時期を決定しかねた。つまり大型化する時期はIIIA期からであるがタイプ的にはIIBの系統を維持していることがあげられる。及び高杯等の編年等は再考する必要性がある。
- # 8 片江8号墳, 倉瀬戸7号墳, 大牟田2号墳, 高崎2号墳, 見花尾1号墳, 七隈8号墳, 宝満尾古墳, 吉武E群3号墳
- 〃9 柳沢一男氏より御教示。
- 〃10 水野正好、田代克己他、「東海道新幹線増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 1965
- #11 大阪府教育委員会「一須古墳群の発掘調査」 1972
- 〃12 伊達宗泰他「大和二塚」奈良県報告22 1962
- #13 河上邦彦調査「石上・豊田 II」 1976
- #14 奈良県古墳発掘調査集報 I 1976
- #15 「水と土の考古学」 1973
- 〃16 『古文化談叢』「対馬・北九州発見の新羅系陶質土器」小田富士雄 1978

土器計測表

(単位cm)

| | | | | | | | | | | 単位c | A11) |
|----------|--|---------------------|---|-----------------------------|------------|------------------|-----------|-----------|-------------------------|---------------|----------|
| No. | 種類 | 法量cm | 形態・手法の特徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色調 | ロクロ 回転 | 出土地点 | 備考 | 分類 | Fig |
| 1-1 | 蓋短頸壺 | 口径 器高 9.6 4.1 | へうは天井部にわずか、内面はナデル | 砂粒を含む | 良 好 | 青灰色 | 左 | 1 号周溝 | 立上り 1.2 | | 8 |
| 2 | 杯 蓋 皿 | 12.1 3.1 | へラ削りが1/3以下,内面に指ナデあり。 | 細砂を含む | n | ,, | 右 | 11 | 受部 立上り | | ┌╇┤ |
| 3 | 無蓋高杯IV | | 脚部が長く杯部外面にカキ目を、脚部にナデ | 砂粒 | п | 黒 褐 色 | | " | 13.9 0.8 | | H |
| 4 | 長 頸 壺 | | 陶質土器内面はタタキ、精巧な作り | 細砂をわずかに | " | 青灰色 | | " | 底径 脚部 | - | \vdash |
| 5 | カメ | 22.5 | 肩の張る形態、頸部が短かく、口縁が外反 | 砂粒多し | н | 黑背灰色 | | <u>"</u> | 18.2 3.25 | +- | + |
| 6 | 高台付椀V | 22.5 | 体部と底部との境に高台をつける。 | " まじり | " | 灰色 | | | 鄭高 | - | . |
| 2-1 | 杯蓋I類 | | 天井部と体部の境に稜を持ち内面に明確 | 砂粒 | | | 左 | 1号玄室 2号玄室 | 0.75 立上り | | 8 |
| 2 | " " | 15.4 4.6 | な段を持つ。ヘラ削りは約2/3~1/2程度 | 砂粒を含む | 普 通 良 好 | | | | 2.3 | Ib類 | 15 |
| 3 | " " | 14.7 4.85 | 天井部と体部との境が凹線にかわる。内 | 粗砂を含む | IR ST | 灰 色 黒色・青灰色 | 右上 | " | 1.85 | Ib # | |
| 4 | " " | 14.1 4.9 | 面も、洗線に変化する。ヘラ削りは約1/2 | が地方 | " | | 左 | " | 2.1 | Id # | - |
| 5 | п п | 15.4 3.9 | 程度である。 | 11 | " | 黒灰色 | " | " | 1.5 | Id # | + |
| 6 | " II | 14.4 4.5 | 体部と天井部との境の沈線が退化してく | 3 mmの石英 | | 青灰色 | 右 | " | 2.0 | Id " | -11 |
| 7 | " " | 12.6 4 | | 僅かに混る | あまい | 赤褐色 | | " | 立上り | - | Ш |
| 8 | " " | 13.6 3.25 | る。内面は沈線がのこる。ヘラは約1/2 程度。この類で大型化の最終段階となる | 砂粒 | 良 好 | 黒 色 | 右 | 2号羡道 | 1.8 | | Ш |
| 9 | " " | 13.8 3.9 | | 細砂 | " | 青灰色 | " | 2号玄室 | | | |
| 10 | " " | 14.7 4.1 | 天井部上端がふくらむ形態。 | " | " | 黄灰色·黑灰色 | 左 | | | | Щ |
| 10 | # # | 14.2 4.6 | 超高小油的大型 2.7 2000年12.10 | 砂粒を含む | " | 灰 色 | 右 | ,, | | \sqcup | Щ |
| 12 | n n | 13.1 4.0 12.3 | 外面の沈線が消えるが内面にはまた沈線 | 細粒を含む 細粒をわずかに | я | 青 灰 色 | Ħ | 2号玄室・周溝 | | | Ш |
| _ | | (12) 3.9 | が残る。ヘラ削りは約1/3程度 | 含む | " | 赤褐色 | " | 2 号羡道 | | | \perp |
| 13 | . 11 11 | 12.5 4.3 | | 砂粒を含む | や良 | 黒 灰 色 | " | 2号玄室 | | | Ш |
| 14 15 | " III | 12.9 4.3 | 内外面に沈線が消え、小型化してくる。 | 細砂・砂粒 | 良 好 | 黒 褐 色 | - 左 | · n | | | Ш |
| 16 | | 12.2 4.15 | へら削りも天井部のみとなる。 | 砂粒を含む | " | 淡茶褐色 | 右 | · n | · · | 11 | |
| | | 11.1 | 口縁先端部も鈍くなる。 | 砂粒 | п | 黒 褐 色 | н | n | | | \perp |
| 17 | " " | 11.2 3.85 | *** | 小石を含む | " | 赤褐色 | " | n | | | |
| 18 | | 10.5 3.35 | 一層小型となり、ヘラ削りはない。口端部が小さくなる。 | 砂粒を多く含む | n | 黒 楊 色 | 左 | 2 号羡道 | | | \perp |
| 19 | | 9.8 1.9 | 宝珠状のつまみがつき、内面がかえりが | 細砂 | " | チョコレート色 (赤褐色) | 右 | n | 11 day | | Ш |
| 20 | " V | 7.7 2.6 | 内側に入る。 | <i>n</i> | n | 青灰色 | | 2号玄室 | 受部 立上り 9.8 0.1 | | Щ |
| 22 | " VI | 16.3 | 内面かえりがなくなり、扁平が一段と進 | 細砂まじり | や、不良 | 灰 色 | 左 | " | | | _ |
| 23 | ″ VI 杯身Ⅰ類 | 15.3 3.4 | む。大型である。内外ともナデ | 砂粒 | 普 通 | 黒 灰 色 | 右 | | 受部 立上り | | 15 |
| 24 | // // // // // // // // // // // // // | 13.3 4.4 | 立上りが1cm以上で体部で張り、内面端 | 細砂を含む | 良 好 | かっている | " | " | 受部 立上り 15.75 1.3 | IЬ | 16 |
| 25 | " " | 12.2 4.75 | 部は鋭利, ヘラ削りは約1/2~1/3程度 | 砂粒少 | 普 通 | 黄白色・黒灰色 | " | n | 14.9 1.15 | ΙЪ | Ш |
| 26 | " " | 13.4 4.4 | 立上りは1cm以上であるが大型化してく | 砂粒を含む | 良 好 | 黒 灰 色 | 左 | " | 15.4 1.1 | Id | |
| 27 | и и | 12.6 4.5 | る。この段階で底部にふくらみがある。 | 9 | 11 | 青 灰 色 | n | | 15.4 1.1 | Id | \bot |
| 28 | " " | 11.8 3.7 | 内面はナデ | わずかに砂粒 | " | " | 右 | n | 14.6 1.2 | I d | \perp |
| 29 | " I | 12.8 4 | 体部の肩が張らず立上りも内弯する。 | 砂粒 | " | # | " | н | 15.45 1.05 | - | 41 |
| 30 | " 1 | 10.5 4.6 | 立上りが内弯しながら、口端部で強く外 | 細砂粒 わずかに砂粒を含 | あまい | 赤褐色 | " | | 1.1 | I c | \perp |
| 31 | " " | 11.2 4.3 | 反する。小型でヘラ削りは2/3程度,内面 | t . | 不良 | <i>"</i> | " | " | 13.25 1.2 | I c | \dashv |
| 32 | " <u>m</u> | 10.8 4.1 | はナデ、生やけの土器である。 | 砂粒 | # 12 | 暗赤褐色 | " | " | 13.5 1.2 | Іс | 44 |
| 2-33 | 杯身 III | 10.1 3.3 | 小型となり、立上りも1cm内となる。ヘラ削は1/3程度 | II | 普通 | 黑 色 | " | " | 12.5 0.75 | | 41 |
| 34 | " IV | 11.0 | 蓋の可能性あり、立上りかわずかで、蓋のV類と同様 | 砂粒まじり | や、良 | 裾 色 | 左 | 2号羨道 | | | \perp |
| 35 | " " | 10.4 3.6 | 受部がなくなり、口縁部は外反しなから 口縁部まで達する。 つき削りけむ ノナデトなる | # 4mZd. | や、良好 | 青灰色 | 右 | 2号玄室 | | | +1 |
| 36 | - *** | 8.9 3.3 | 口縁部まで達する。ヘラ削りはなくナデとなる。 小型の丸底の壺。外側はナデ内面はヘラ | 細砂 " | 良 | 灰 色 | <i>n</i> | " | 1 47.00 | | 4 |
| 37 | ER IV \$6 | | 体部にカキ目類部がしまり口縁部が立かる。 | | 不良良好 | 黄褐色 | - | 2号墳丘 | 土師器 | \vdash | 44 |
| 38 | 脚附長頸毒 | | 口縁部を欠損底部から体部にかけて張る。 | かねまじり | 良 好 | 黑褐色 | 右 | 2 号羨道 | 自然釉脚高7.65脚 | \vdash | \dashv |
| 39 | 白 磁 | | 体部下はかき目 底部のみであるが高台でほぼ4種で区別 | ログ作によしり | | 淡黄灰色 | | 2号周溝 | 自然釉脚高7.65脚 握径15.75cm | | \dashv |
| 40 | " " | | できる釉は底部にはかからずその上部で | | " | 白灰色 | | 2号羨道 | | \vdash | +I |
| 41 | ,, | | 終わる。 | | " | 淡白灰色 | - | 2 日 林 仁 | | | + |
| 42 | ,, | | | - | " " | 緑灰色 | _ | 2号墳丘 | | | 븏 |
| 43 | カメ | 22.4 | 中型のカメで口縁が玉縁状をなす。口頸 | 砂粒多し | 良 好 | 自然抽(灰 | _ | 2号羨道 | | \rightarrow | 16 |
| 44 | カメ | 20.4 — | 部は短かい。外面平行、内面同心円叩き | 砂粒 | R 97 | 色) 黒灰色 黒 灰 色 | | 2号周溝 | | - | 17 |
| 45 | 横叛 | 20.2 — 12.4 23+L | 両方の張りは同じ、口縁は外反しながら端 部で内容 | 僅かに1~3mmの石 英が混る | や、あまい | 灰褐色 | 右 — | 2 号玄室 | | - | 17 |
| 3-1 | 杯蓋Ⅱ類 | 15.1 3.7 | 部で内質 内・外面に沈線がわずかに残り大型であ | 英が混る 砂粒 | 良 好 | 青灰色 | 右 | 3 号玄室 | | - | 17 |
| 2 | 11 11 | 14.8 4.15 | る。ヘラ削りは1/2以下 | 細砂を含む | " | H // E | 13 | 3万以至 | | - | 24 |
| 3 | 11 11 | 14.1 3.2 | 大型と小型の2種類あり。へラ削りは天 | 砂粒まじり | や、良好 | 灰 色 | " | " | | | + |
| 4 | " ПІ | 11.0 3.75 | 井部のみ静止時の指ナデ | 砂粒 | 良好 | 黒褐色・黒色 | " | | | \dashv | + |
| | 杯身II類 | 13.4 | 立上りが1cm以内で内弯が強い | 1940 2~3mmの石英多量 にみられる | | 濃 灰 色 | | " | 受部径 立上り 15.5 1.1 | - | + |
| | | 13.4 | | にみられる | | 使水巴 | - | " | 15.5 1.1 | | |

| No. | | | | | | , | | | | 1 | |
|--|---|--|--|---|--|---|---|---|--|--|----------|
| NU. | 種類 | 法 量 | 形態・手法の特徴 | 胎 土 | 焼 成 | 色調 | ロクロ [回転 | 出土地点 | 備考 | 分類 | Fig |
| 6 | 杯身II類 | 12.6 | 器形も大きくへラ削りは1/3以下 | 2~3mmの石英儀か に含む | や、あまい | 背灰色 | | 3 号玄皇 | 受部径 立上り 14.8 0.7 | | Г |
| 7 | n n | | 内面はナデ、Ⅱ類の中でも2種類 | " | 不 良 | 裾 色 | - | 3 号幕道 | 14.8 0.41 | | |
| 8 | n n | 12.9 3.75 12 3.8 | に区別できるかもしれない。 | 細砂粒 | あまい | + | 左 | 3 号玄宝 | " " 14.0 0.8 | | _ |
| 9 | и и | | Eggin Ce an action. | Ř | " | " | | 3号玄室 | n n | | - |
| | | 12.6 | 立上り1cm以上で内穴)体部が張る。 | 細砂 | 良 好 | (\$1 A) 18 C6 | 41 | " | 14.8 0.5 | <u> </u> | - |
| 10 | " 1類 | 10.5 4.4 | 立上り1cm以上で内内し体部が張る。 ヘラ削り1/2 最大径が胴部中位、口端部が直立する内 | 3~7mmの孔(英僅か) | | | 31 | | 12.3 1.12 | | |
| 11 | 短頭壺皿類 | 8.0 | 部ナデ | にはいる | 普 通 | | | 3 号閉塞 | 最大径 | - | - |
| 12 | KR V 類 | 3.5 7.3 + \alpha + \alpha | 類部がしまり口練部に向って広がる小型 | 細砂粒を含む | やいあまい | 機灰色・茶褐色 内〃外・精がか | - | 3 号周溝 | 9.6+a | 1 | 1 |
| 13 | n n | 5.3 10.5 + a + a | の職である。内面ナデ底部にヘラ削り有り | 砂粒混る | Ŕ | かり縁褐色 | | " | 8.8 | ļ | H |
| 14 | 広口 臺 | | 自然動か会前にかかる。腸部が球形をなす。内面はナデ | Ą. | " | 灰色 | - | 3号玄室 | | <u> </u> | H |
| 15 | 货 | 6 24.4 +α | 肩の張る16と材がなでた感じの17, 15が | 3mm粒の石英多 し | や、あまい | 淡灰色 | | 3 号周溝 | | | Н |
| 16 | n | 2.0 | ある。15は口端部か強く外反。16は十歳状17は | 砂粒 | 普 道 | 青灰色 | - | n n | | ļ | H |
| 17 | n | 19 | 端部の内内外面は平行、内面、同心円文叩き | 11 少 | n | 11 | | n | | ļ | Ш |
| 18 | 椭 | 15.7 4.5 | 口径の大きな形態で、内面ナデ、外面ヘラナデ | ″ まじり | 不 点 | 赤褐色 | | 3号玄室 | 立上り 土師器 2.4 | | |
| 19 | " | 15.9 3.8 | 一見須恵器と思われる。内外面ナデ、内面底部にヘラ記号 | # を含む | 11 | 淡白色 | ŧï | 3 号周溝 | 1.0 " | | |
| 20 | n | 16.6 | 内外面ともヘラ磨き、大型椀である。 | 細砂粒わずかに含む | 良 好 | 淡褐色 | - | n | n n | | 24 |
| 21 | 獎 | 37.5 | 最大径が胴部中位, 内面同心円文, 外面平行叩き | 細砂粒 | あまし | | 左 | " | 最大順 41+α | I | 25 |
| 22 | よいご羽口 | +a | 羽口の中央上部に位置する。 | 石英粒を僅かに 含む | や・あまぃ | 内褐色 外淡褐色 | _ | 3 号墳丘 | | | 25 |
| 4-1 | 杯畫I類 | 10.4.5. | 天井部と体部との境に稜鋭い凹線を持ち | 粗粒まじり | 良 好 | | 左 内右 | 4号玄室 | 立上り 7.45 | Ia類 | 32 |
| 2 | 11° TRI I AR | 12.4 5.0 | 内面の端部との段をもつ。ヘラ削りは2/3 | 砂粒を含む | 不良 | rb III de | #i | n | 2.75 | I a類 | |
| 3 | n n | 14.0 4.9 | 程度。器高も高い。内面のナデ。 | 小石を含む | 良如 | DO DE 44 | 左 | " 墳 | " | Ia類 | †† |
| 4-4 | ″″ 杯蓋・I類 | 12.8 5.2 | | 砂粒まじり | や、良妇 | | 左 | 4 号玄室 | 2.0 立.トリ _{2.15} | Ib類 | †† |
| \rightarrow | | 14.25 5.5 | 天井部と体部との境が鋭く、内面端部も 鋭くほぼ1~3に類似する。むしろ Ia の類 | 砂粒をわずかに含 | 良好 | | fi fi | · サム生 | 3."1 | 11 | + |
| 5 | ,, | 13.8 5.5 | の中に入れるべきと考えられる。 | む。小石を含む。 | | | | " | 1.78 | " | ++ |
| 6 | " | 14.2 5.1 | ヘラ削りは2/3程度 | 細砂まじり | 不 良 | | 左 | " | 1.77 | I d類 | 11 |
| 7 | # | 13.9 4.4 | 天井部と体部との境の内面の沈線が鈍く | 砂粒を含む 砂粒をわずかに含 | 半なま | | 村 | | 2.15 | 1 (1-50 | - |
| 8 | 11 | 14.4 5.0 | なる。ヘラ削りは約1/2程度。内面ナデ | tr | 良ケ | _ | - | 4 号周溝 | 2.15 | " | ┼ |
| 9 | " II類 | 14.1 4.4 | 内外の凹線が段と鈍くなり大型と小型 | 小石を含む | | 褐 色 | 右 | # 玄室 | | - | ├ |
| 10 | # | 14.8 4.6 | の二種がある。ヘラ削りも1/2以下とな | 組砂まじり | 17 | 灰 色 | 左 | ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,, | | ļ | ├- |
| 11 | " | 12.7 4.3 | り粗雑である。 | 小石まじり | 11 | " | " | " | 立上り2.15 | - | 1_ |
| 12 | п | 12.4 4.8 | 内面はナデ | 砂粒を含む | " | 青灰色 | 右 | n | | ļ | <u> </u> |
| 13 | " | 4.1 12.4 | | 細砂を少量含む | 良 好 | . 内灰色 外黄褐色 | n | " | | | _ |
| 14 | " III | 12.4 4.0 | 小型となる。内外とも凹線が消え、ヘラ | 砂粒を含む | | 青灰色 | n | " | 身面に無ちによる何ら かあらわれ自然権がか かっている。 | | 1 |
| 15 | ' " | 11 4 | 削りも天井部のみとなり、雑である。 | 細砂まじり | n | 灰 色 | 左 | # 墳・玄室 | | | Ц, |
| 16 | n | 11.9 3.9 | 内面はナデ | 砂粒を含む | n | 青 灰 色 | ħ | # 玄室 | | | |
| 17 | " | | 天井部に平担面が認められ、部分的にへ | 小石を含む | " | " | " | n | | | |
| | | 11.4 3.7 | | | | | | | | | |
| 18 | п | 11.4 3.7 | ラ削りが認められるがほとんどナデ内面 | 砂粒まじり | や、1 | 暗黑灰色 | 左 | В | | 1 | |
| 18 19 | n n | 11.0 2.9 | ラ削りが認められるがほとんどナデ内面 はナデ、小型化する。 | 砂粒まじり | や、自あまり | | | " 周 | | 1 | |
| | | 11.0 2.9 12.0 4 | | | | , 青 灰 色 | | | 受部 立上り 11.3 0.6 | | 3: |
| 19 | n n [V | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つ、つまみはつかない。内面ナデ | 砂粒 | あまし | , 青 灰 色 子 " | 右 | " 周 | 11.3 0.6 | Ia類 | + |
| 19 20 21 | п | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つ、つまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 | 砂粒 " まじり | あまり良好 | 、 青 灰 色 子 " 、 内褐色 外灰色 部果 | 右 - | # 周 | 11.3 0.6 " " 16.3 1.7 | I a 類 | 3: |
| 19 20 21 22 | " " [V 杯身 I 類 | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 50+a 13.9 (\$\frac{4}{5}(5)\$) | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つ、つまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm ー 1.7cm 内外で 内面端部に段 を持つ。立上りはや、内弯する程度である | 砂粒 n まじり 若干1~2mmの石を 混る 細砂 | あまし 良 女 あまし | · 青 灰 色 子 " · 内褐色 外灰色 部果 子 青 灰 色 | . 右 右 | "周 " 4号? | 11.3 0.6 " " 16.3 1.7 " " 16.6 1.7 | I a | 3 |
| 19 20 21 22 23 | n n IV 杯身I類 n | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 50+a 13.9(\$\\$\\$\\$\\$\\$59) 12.5 4.8 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内鳴する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度があ | 砂粒 n まじり 若干1-2nmの石を 混る 細砂 n を含む | あまし 良 女 あまし 良 女 | 、 青 灰 色 子 " 、 内褐色 外灰色 部果 | 右 - 右 - 右 " | # 周 # 4号? | 11.3 0.6 " " 16.3 1.7 " " 16.6 1.7 " " 15.1 1.8 | | 3 |
| 19 20 21 22 23 24 | n IV 杯身I類 n | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 50+a 13.9 (\$\delta\de | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内鳴する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度があ る。 へう前りは2/3程度で内面に同心円文 | 砂粒 n まじり 若干1-2nmの石を 混る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む | あまし 良 女 あまし 良 女 | 、 青 灰 色 / / / / / / / / / / / / / / / / / / | 右 - 右 - 右 " 左 | # 周 # 4 号 ? # 玄 | 11.3 0.6 " " 16.3 1.7 " " 16.6 1.7 " " 15.1 1.8 " " 13.7 1.5 | I a類 I b類 | 3 |
| 19 20 21 22 23 24 25 | n IV 杯身I類 n | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 50+c 13.9 (4)599 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内鳴する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度があ | 砂粒 n まじり 若干1-2mmの石を 混砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む | あまし 良 女 あまし 良 女 " | 、 青 灰 色 | 右 - - 右 " 左 | n 周 n 4号? n 玄 n | 11.3 0.6 """ 16.3 1.7 """ 16.6 1.7 """ "" 15.1 1.8 """ 13.7 1.5 """ 13.1 1.2 | I a類 I b類 " | i 3 |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 | n N N N N N N N N N N N N N N N N N N N | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 50+a 13.9 (\$\frac{4}{2}\$) 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 | はナデ、小型化する。 内面はかよりを持つつまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内鳴する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。 へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 | 砂粒 n まじり 若干1~2mmの石を 建る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む | あまし 良 女 良 女 " " 不 ほ | ・ 青 灰 色 ・ 内域色 が無 ・ 内域色 が無 ・ 青 灰 色 ・ 灰 色 ・ ア 色 ・ ア の の の の の の の の の の の の の の の の の の | 右 一 右 n 左 | n 周 n 4 号 ? n 玄 n n | 11.3 0.6 1 n n 16.3 1.7 16.6 1.7 17.1 18.1 19.1 | I a類 I b類 | i 3 |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 | n N N N N N N N N N N N N N N N N N N N | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 50+c 13.9 (4)599 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 | はナデ、小型化する。 内面はかよりを持つつまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内鳴する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し欄平である。へう削りは1 | 砂粒 n まじり 新干1-2mmの石を 建る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む パイで含む。 | あまし 良 女 かまし パ パ 不 自 良 女 | ・ 青 灰 色 子 | 右 - - 右 " 左 " 内外左 | n 周 n 4号? n x n n n n n n n n n n n n n n n n n | 11.3 0.6 1 | I a類 I b類 " | i 3 |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 | n N N N N N N N N N N N N N N N N N N N | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 50+a 13.9 (\$\frac{4}{9}\$) 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 | はナデ、小型化する。 内面はかよりを持つつまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内弯する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度があ る。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し扁平である。へう削りは1/2程度で内面に同心口文即き有り。 | 砂粒 n まじり 新干1-2mmの石を 建る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む パイでを含む が数粒を含む が数数を含む が数数を含む が数数を含む が数数を含む が数数を含む が数数を含む が数数を含む が数数を含む が数数を含む が数数を含む が数数 | あまし 良 女 カ まし 良 女 " " 不 ほ 良 女 | ・ 青 灰 色 ・ 内 板 色 部 | 右 - 右 " 左 " 内外右 右 | n 周 n 4 号 ? n x n n n n n n n n n n n n n n n | 111.3 0.6 1 | I a類 I b類 " | i 3 |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 | n N N N N N N N N N N N N N N N N N N N | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 50+α 13.9 (\$\psi_{95}\$) 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 13 3.9 | はナデ、小型化する。 内面はかよりを持つつまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内舎する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度があ る。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し層平である。へう削りは1/2程度で内面に同心円文即き有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが | 砂粒 n まじり 若干1-2mmの石を 複数 相砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む り がなるさ 砂粒を含む の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の がなる。 の の の の の の の の の の の の の | あまり良 女りみまりパ パバ たた 良 女りパ パパ パ パパ パ パ パ にれ の パ パ パ の の の の の の の の の の の の の の の | 、 青 | 右 一 一 右 " 左 " 内外右 " | n 周 n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 111.3 0.6 16.3 1.7 1.6 1.7 15.6 1.7 15.1 1.8 13.7 1.5 13.1 1.2 13.1 1.2 15.1 1.4 15.1 1.4 15.4 0.8 14.4 1.4 1.9 1.0 1.0 | I a類 I b類 " | 1 |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 | n IV | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 13.9 (*955) 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 13 3.9 12.0 4.6 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つ。けるはつかか、内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm内外で内面端部に段を持つ。立上りはや・内肉する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へう前りは2/3程度で内面に同心円文即キのあるものも含まれる。 一段と大型化し扁平である。へう前りは1/2程度で内面に同心円文叩き有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが ラ削りは1/2以下である。 | 砂粒 n まじり 若干1-2nmの石を 混る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む n 小石を含む 砂粒 の 砂粒 の 砂粒 の 砂粒 の の の の の の の の の の の の の | あまり 良 女 あまり た な | | 右 - - 右 " 左 " 内外右左 右 " | " 問 問 " " " " " " " " " " " " " " " " " | 11.3 0.6 11.3 0.6 11.3 0.7 11.0 1.7 11.0 1.7 11.1 1.8 11.7 1.5 11.1 1.2 11.1 1.4 11.1 1 | I a類 I b類 " " I b類 | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 | n IV | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 50+c 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 13 3.9 12.0 4.6 11.2 4.1 | はナデ、小型化する。 内面はかよりを持つつまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内鳴する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し層平である。へう削りは1/2程度で内面に同心円文叩き有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが う削りは1/2以下であるが う削りは1/2以下であるが | 砂粒 n まじり 若干1-2mmの石を 混る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む の を含む 砂粒 の を含む 砂粒 の を含む 砂粒 の を含む 砂粒 の を含む 砂粒 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の | あまり 良 女 あまり た な | 、 青 灰 色 | 右 右 " 左 " 内外左 右 " " " " " " " " " " " " " " " " " " | n | 11.3 0.6 11.3 0.6 11.3 1.7 11.0 1.7 11.0 1.7 11.1 1.8 11.7 1.5 11.1 1.8 11.7 1.5 11.1 1.2 11.1 1.4 11.1 1 | I a類 I b類 n n I b類 | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 | n N | $\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$ | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかない。内面サデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段を持つ。立上りはや小内肉する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。ヘラ削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し属平である。ヘラ削りは1/2程度で内面に同心円文即き有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが ラ削りは1/2以下である。 31から40まではセット関係である。1 a類のセットが31~38までで1 c類が39,40で | 砂粒 n まじり 若干1-2nmの石を 混る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む n 小石を含む 砂粒 の 砂粒 の 砂粒 の 砂粒 の の の の の の の の の の の の の | あまり 良 女 あまり た な | | 右 右 " 左 " 内外左 右 " " " " " " " " " " " " " " " " " " | n | 11.3 0.6 11.3 0.6 11.3 1.7 11.0 1.7 11.0 1.7 11.1 1.8 11.7 1.5 11.1 1.8 11.7 1.5 11.1 1.2 11.1 1.4 11.1 1 | I a類 I b類 II b類 II a II a II a II a II a | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 | n N N N N N N N N N N N N N N N N N N N | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 13.9 (\$959) 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 13. 3.9 12.0 4.6 11.2 4.1 10.0 4.5 10.0 4.5 10.0 5.0 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つ。まるはつかか、内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段を持つ。立上りはや・内肉する程度である 大型10cm程度のものと小型10cm程度がある。ヘラ前りは2/3程度で内面に同心円文叩きのあるものも含まれる。 一段と大型化し扁平である。ヘラ前りは1/2程度で内面に同心円文叩き有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが ラ前りは1/2以下である。 31から40まではセット関係である。1 a類のセットが31~38までで1 c類が39,40で | 砂粒 n まじり 若干1-2mmの石を 混る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む の を含む 砂粒 の を含む 砂粒 の を含む 砂粒 の を含む 砂粒 の を含む 砂粒 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の | あまり 良 女 丸 まり れ 不 良 女 れ 不 良 女 | 、 青 灰 色 | 右 - - 右 " 左 " 内外左 右 " " れ の れ カ カ カ カ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | # 日 | 111.3 0.6 16.3 1.7 18.6 1.7 18.6 1.7 15.1 1.8 13.7 1.5 13.1 1.2 13.1 1.2 13.1 1.4 15.1 1.4 17 15.4 0.8 18 19 11.4 1.4 19 11.2 19 11.3 1.4 19 11.3 1.4 19 11.3 1.4 19 11.4 1.4 19 11.5 1.5 1.8 11.8 11.8 11.8 11.8 11.8 11.8 11.8 | I a類 I b類 I b I a I a I a I a | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 | n N N N N N N N N N N N N N N N N N N N | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 5.1 13.9 (\$\frac{4}{7}\$)59.6 13.9 (\$\frac{4}{7}\$)59.6 10.2 4.7 12.7 5.8 13. 3.9 12.0 4.6 11.2 4.1 10.0 4.5 16.0 5.0 14.0 5.9 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかかい。内面サデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内肉する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し層平である。へう削りは1/2程度で内面に同心円文叩き有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが ラ削りは1/2以下である。 31から40まではセット関係である。1 a類のセットが31~38までで「型が39,40である。その中でも31から34のセットが31~38までで「型が39,40である。その中でも31から34のセットは他の | 砂粒 n まじり 若干1-2mmの行を 混る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む り粒を含む・ 砂粒 n を含む・ 砂粒 の を含む・ 砂粒 の が で 含む・ 砂粒 の が で 含む・ 砂粒 の が な 含む・ の が れ の が れ の の の の の の の の の の の の の の | あました 良 女 あました の n 不 f f f f f f f f f f f f f f f f f f f | 青 | 右 - 右 " 左 " の外左 右 " " の外左 「 " | n | 111.3 0.6 16.3 1.7 16.6 1.7 15.1 1.8 17.1 1.5 18.7 1.5 18.7 1.5 18.1 1.2 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 19.1 19.1 19.1 19.1 19.1 19.1 19.1 19.1 | I a類 I b類 II b類 II a II a II a II a II a | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 | ## 1 1 類 ## 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 5.1 13.9 (\$\frac{4}{7}\$)59.5 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 13. 3.9 12.0 4.6 11.2 4.1 10.0 4.5 16.0 5.0 14.0 5.9 14.0 5.9 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかかい。内面サデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内肉する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し層平である。へう削りは1/2程度で内面に同心円文叩き有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが ラ削りは1/2以下である。 31から40まではセット関係である。1 a類のセットが31~38までで「型が39,40である。その中でも31から34のセットが31~38までで「型が39,40である。その中でも31から34のセットは他の | 砂粒 n まじり 若干1-2mmの行を起る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む が石を含む 砂粒 の を含む が松 の を含む 細砂 の を含む 細砂 の を含む 細砂 の を含む 細砂 | あました 良 女 あました の の の の の の の の の の の の の | 一方 F F F F F F F F F | 右 - - 右 - - - 右 - - - - - - - - - - - - - | # 日 | 11.3 0.6 16.3 1.7 16.8 1.7 17 18.6 1.7 18.1 1.8 18.7 1.5 18.1 1.2 18.1 1.2 18.1 1.4 | I a類 I b類 I b I a I a I a I a | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 | ## 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 5.1 13.9 (\$\frac{1}{2}\$) 2.5 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 13 3.9 12.0 4.6 11.2 4.1 10.0 4.5 16.0 5.0 14.0 5.9 14.0 4.7 12.6 4.9 12.6 4.9 12.8 4.6 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかない。内面サデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内肉する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し扁平である。へう削りは1/2程度で内面に同心円文叩き有り。 小型化する。立上りは1cm 内外であるが ラ削りは1/2以下である。 31から40まではセット関係である。1 a類のセットが31~38までで1 c 類が39,40である。その中でも31から34のセットは他の セットより口端部が鋭利であり大型である。 | 砂粒 n まじり 若干1-2mmの行を 混る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む 小石を含む 砂粒 n を含む 細砂 n を含む 細砂 n を含む 細砂 n を含む m砂 砂粒を含む n を含む m砂 砂粒を含む n を含む | あました。 良 女 女 | 、 青 灰 色 パート | 右 - - 右 - - 左 - - - - - - - - - - - - - | " 閲 " U U U U U U U U U U U U U U U U U | 11.3 0.6 11.3 0.6 11.3 1.7 11.6 6 1.7 11.1 1.8 11.1 1.8 11.1 1.2 11.1 1.2 11.1 1.4 | I a類 I b類 II b類 II a II a II a II a II a | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 | ## 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 13.9 5.+c 13.9 4.75 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 13 3.9 12.0 4.6 11.2 4.1 10.0 4.5 16.0 5.0 14.0 5.9 14.0 4.7 12.6 4.9 12.8 4.6 10.9 4.95 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかない。内面サデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内肉する程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し扁平である。へう削りは1/2程度で内面に同心円文叩き有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが ラ削りは1/2以下である。 31から40まではセット関係である。1 a類のセットが31~38までで「c類が39,40である。その中でも31から34のセットは他のセットより口端部が鋭利であり大型である。5~38までの数は大井部と体部とを区別する境が円線となる。 | 砂粒 n まじり | あました。 良 女 女 | 、 青 灰 色 パート | 右 - - - 右 - - - - - - - - - - - - - | " 閲 " U U U U U U U U U U U U U U U U U | 11.3 0.6 16.3 1.7 16.6 1.7 15.1 1.8 17.1 1.5 18.7 1.5 18.7 1.5 18.1 1.2 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 19 | I assume the state of the state | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 | ## N N N N N N N N N N N N N N N N N N | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 13.9 (**)50+a 13.9 (**)50*) 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 13 3.9 12.0 4.6 11.2 4.1 10.0 4.5 16.0 5.0 14.0 5.9 14.0 4.7 12.6 4.9 12.8 4.6 10.9 4.95 14.0 5.2 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかない。内面ナデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段を持つ。立上りはや・内内でする程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へラ前りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し扁平である。へラ前りは1/2程度で内面に同心円文中き有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが ラ前りは1/2以下である。 31から40まではセット関係である。1a類のセットが31~38までで1c類が39,40である。その中でも31から34のセットは他のセットより口端部が鋭利であり大型である。35~38までの憲は大井部と体部とを区別する境が四線となる。 39、40は生やけの編平な土器、検を域とし | 砂粒 n まじり 若干1-2mmの石を混る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む n を含む 砂粒を含む が粒を含む が粒を含む 砂粒を含む 相砂 砂粒を含む は砂粒を含む は砂粒を含む は砂球を含む は砂球を含む | あました。 良 女 女 の の の の の の の の の の の の の の の の の | 、 青 灰 色 パート | 右 - - - 右 - - - - - - - - - - - - - | " | 11.3 0.6 16.3 1.7 16.6 1.7 15.1 1.8 17.1 1.8 18.7 1.5 18.1 1.2 18.1 1.2 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 19.1 19.1 19.1 19.1 19.1 19.1 19.1 19.1 | I a類 I b期 I b期 I b期 I b期 I a i i a i a i i a a i a a i a i a a i a a i a a i a a i | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 | ## 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 (*)*59.1 12.5 4.8 11.2 5.1 12.7 5.4 13.9 (*)*59.1 12.6 4.7 12.0 4.6 11.2 4.1 10.0 4.5 16.0 5.0 14.0 5.9 12.6 4.9 12.8 4.6 10.9 4.95 14.0 5.2 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかない。内面サデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内内でする程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し扁平である。へう削りは1/2程度で内面に同心円文中を有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが ラ削りは1/2程下である。 31から40まではセット関係である。1 a類のセットが31~38までで1 c類が39,40である。その中でも31から34のセットは他のセットより口端部が鋭利であり大型である。5~38までの数は大井部と体部とを区別する境が凹線となる。 39、40は生やけの扁平な土器、検を境としている点、立上りが内膚するところからして、1 ************************************ | 砂粒 n まじり 若干1~2mmの石を 建る 細砂 n を含む 小石・砂粒を含む 砂粒を含む がを含む がを含む が粒を含む が数を含む が数を含む の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 | あました。 良数また。 良数また。 良数ののでは、 のでは、 ので | | 右 - - - - - - - - - - - - - | " | 11.3 0.6 16.3 1.7 16.6 1.7 15.1 1.8 17.1 1.8 18.7 1.5 18.1 1.2 18.1 1.2 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 18.1 1.4 19.1 1.8 19.1 1.4 19.1 1.8 10.2 1.8 11.4 1.4 11 | I assistantial in the state of | |
| 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 | ## 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 11.0 2.9 12.0 4 9.7 3.1 13.9 6.1 13.9 (**)50+a 13.9 (**)50*) 12.5 4.8 11.2 5.1 10.2 4.7 12.7 5.8 13 3.9 12.0 4.6 11.2 4.1 10.0 4.5 16.0 5.0 14.0 5.9 14.0 4.7 12.6 4.9 12.8 4.6 10.9 4.95 14.0 5.2 | はナデ、小型化する。 内面はかえりを持つつまみはつかない。内面サデ 立上り1.4cm~1.7cm 内外で内面端部に段 を持つ。立上りはや・内内でする程度である 大型16cm程度のものと小型10cm程度がある。へう削りは2/3程度で内面に同心円文 叩キのあるものも含まれる。 一段と大型化し扁平である。へう削りは1/2程度で内面に同心円文中を有り。 小型化する。立上りは1cm内外であるが ラ削りは1/2程下である。 31から40まではセット関係である。1 a類のセットが31~38までで1 c類が39,40である。その中でも31から34のセットは他のセットより口端部が鋭利であり大型である。5~38までの数は大井部と体部とを区別する境が凹線となる。 39、40は生やけの扁平な土器、検を境としている点、立上りが内膚するところからして、1 ************************************ | 砂粒 n まじり 若干1-2mmの可を 混る 細砂 n を含む 小石砂粒を含む 砂粒を含む n を含む 砂粒を含む n を含む m砂 砂粒を含む n 軽砂 n を含む m砂 砂粒を含む n 軽砂 n 砂粒を含む n 軽砂 n 砂粒を含む n 軽砂 n 砂粒を含む | あまし 良 女 あまし れ れ れ た 良 女 れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ | 、 青 灰 色 | 右 - - - - - - - - - - - - - | " | 11.3 0.6 16.3 1.7 16.6 1.7 15.1 1.8 13.7 1.5 13.1 1.2 13.1 1.2 15.1 1.4 17.1 1.4 18.1 1.4 19.1 1.8 19.1 1.4 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 19.1 1.8 | I assistantial in the state of | |

| No. | 種類 | 法 量 | 形態・手法の特徴 | 胎 土 | 焼成 | 色 調 | ロクロ | 出土地点 | 備考 | 分類 | Fig |
|------|------------|---------------------|--|--------------------|---|----------------|-----|-------|------------------------------|--------------|-----------|
| 4-42 | 短頸壺N類 | 口径 器 8.8 7. | | 小石を含む | や、良 | 黒 灰 色 | 右 | 4 号 玄 | | | 34 |
| 43 | " 蓋 | 9.9 4. | トではない。43は1/3程度のヘラ削り、姿 | 砂粒まじり | 良 好 | 灰 色 | ,, | n | | | 4 |
| 44 | " II類(| 6.7 3. | ラリがつく難た皮形である。 島はわずか | # を含む | " | " | 左 | 周 | | | 1 |
| 45 | 杯 蓋 V | 8.9 2 | With the Till I have a till a share the till I | 鉄分を含む 砂粒をわずかに # | " | 灰色黑灰色 黄褐色 | - | 玄 | 受部 立上り 10.1 0.95 | | Ļ |
| 46 | "身 V | 9.5 4. | せんにゅ お削りお頭はとれて | 11 | ,, | PL 160 C. | 右 | я | 10.1 0.95 | | |
| 47 | 提斯II | 7.2 20. | William / 2 / HINTING CA / NAU 2 | 砂粒 | (4.3) | 暗褐色 | | n n | | | t |
| 48 | 直口壺 | 5.2 16. | Signist + Product Mari Williams 7 | 石英粒多く混る | (かたい) 普 通 | 渡 灰 色 | 左 | ,, | 体部最大径11.2 | | 34 |
| 49 | 提叛Ⅳ | | 1 #0 mm + 0.4 mm + 0.4 mm + 0.4 mm + 1 mm | 小石を含む | 不良 | 灰褐色 | 布 | " 墳 | # 厚 0.6 最大径 | | 35 |
| 50 | 壺 | 5.0 13. 10.0 13. | Maria I Maria I September 1 Se | 砂粒多し | 普通 | 青灰色 | 左 | 玄 | 胴部13.6 | - | -00 |
| 51 | カメ3点 | 33.6 | 格子目文の叩きのある(外面)内面は同心円 | 細砂粒 | " | 濃 灰 色 | - | 周 | | - | 1 |
| 52 | 長泉Ⅰ類 | | FOUR THESE - DEAD AND AND ASSESSMENT OF A STATE OF ACCOUNT. | 砂粒多し | ,, | 黒 灰 色 | _ | 11 | | | Ť |
| 53 | " 111 " | | 体部の1部にヘラ削り、53は底部 | " | # | 暗黒・灰色 | 右 | 玄 | | | 1 |
| 54 | " II " | 13.0 15. | 6 にヘラ削り有。54は口頸部が直立するタイプで装飾はない。55は頸部が | 11 · 1/2 | 良 好 | 青灰色 | 11 | 周 | | | 35 |
| 55 | . " IV " | | | " " | 不良 | 灰色 | 左 | n n | | | 36 |
| 56 | 蓋 | 12.9 15. | THE FA EAR A. A. A. MARCON A REAL STATE OF THE WAY OF THE WAY OF | " ヶ | 良 好 | 内灰色 | 右 | 墳 · 玄 | | | 30 |
| | | 13.2 5. | a and a second and a second | - | | | | | 受部 立上り | | - |
| 57 | 期 付 壺 | 10.6 24. | With a like the second of the second | # # # A.T. Disht. | " | 黄灰色灰色 | " | n | 13.18 1.69 | 7 80 | 1 |
| . 58 | 有蓋高杯 | 15.7 5. | 計劃 本 高部II) は0/05 (南) ★47/4 → | 小石、砂粒を含む | " | (灰色) | 左 | 玄 | 2.25 受部径 " 胸高 | I類 | - |
| 59 | , n | 13.6 8. | 1 | # わずかに砂粒を | ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,, | " " | " | n n | 15.5 1.4 3.65 | " | |
| 60 | " | 16.2 5. | - 1 | 3t | " | 灰 色 | n | ,, | | " | _ |
| 61 | " | 12.7 8. | 7 | 小石を含む | " | " | n | 墳・玄 | | В | <u> </u> |
| 62 | " | 17.5 7. | 9 にカキ目を呈す。 | 細砂多し わずかに | あまい | 赤褐色 | 右 | 玄 | | 15 | <u>_</u> |
| 63 | ,, | 15.4 18. | | 石英粒を含む | " | 茶褐色 | | " | code states of the | # | _ |
| 64 | " | 14.8 6. | 一 两体は体的の体部が張らないへフ削り | 石英粒1~5mmを 多く含む | 普通 | | 右 | 4号? | つまみ高0.9立上り "2.4 1.4 | Ŋ | |
| 65 | " | $12.6 + \epsilon$ | 3 1/3 | 砂粒少 | 良 好 | 灰 色 | " | 玄 | 受部径 立上り 脚高 14.85 0.95 2.9 | " | |
| 66 | 無蓋Ⅰ類 | 7. 13.2 + a | ○ 体部と口縁部との境に稜をもち、口縁は 外反、67は境をなすものがなくなりへラ | 細砂 | n | 黒 灰 色 | n | 膃 | | | |
| 67 | 高杯V類 | 13.2 11. | 7 削りも雑。68は2条の沈線を施す。透孔 | 砂粒多し | 背 通 | 淡灰色 | n | 玄 一 括 | 脚部径 9.4 脚高 8 | | 1 |
| 68 | " Ⅲ類 | 10.2 11. | 9 は三角形。 | " | n | 黑青灰色 | - | 11 | " 7.3 | | 36 |
| 69 | 横叛 | | 大型である胴部は3つに分割され接合 | 小石を多く含む | 良 好 (かたい) | 青灰色 | _ | 玄 一 括 | | | 37 |
| 70 | 広 口 壺 | 14 (15.1)22. | 3 小型で口縁は玉縁状をなす。外面平行、内面同じ円文叩き | 細砂 | あまい | 暗灰色 | - | 玄 | 最大径 19.3 | | |
| 71 | " | 23.0 33. | 口頸部に波状文, 胴部外面平行, 内面同 5 心円 | 砂粒少 | 良 好 | 暗灰色 | 右 | n | | | |
| 72 | h 1 | 24.4 — | 72は口縁部が外皮しくの字になる。内面 に指圧のあとあり、73は桐が張り口縁部 | 細砂粒 | 良 | 黒 灰 色 | _ | 玄 | | | |
| 73 | カメ | 22.3 + d | 1 が知かい、74(+ r) 輪部が始終部で端く外形 | 2~3mmの石英粒 を含む | や、あまい | 淡灰色 | - | 周 | | | 37 |
| 74 | h 1 | 18.5 30. | 1 & | 砂粒多 | 良 好 | 青灰色 | _ | 玄 | 最大径 28.3 | | 38 |
| 75 | 椀 | 13.4 5. | | 細砂 | 良好 | 赤褐色 | _ | 周 | 土師器 | | |
| 76 | " | 13.6 + d | 6 へラ磨き有。縁部は外反して端部で内弯 | 砂粒少 | # | n | - | 11 | н | | 1 |
| 77 | " | 14.4 4 | する。77は口縁部が内弯しながら端部で | 砂粒 | あまい | 黄褐色赤褐 色の付着物 | - | " | | | |
| 78 | " | 11.2 4. | 2 直立する。79、80は小型である。ヘラ磨 | 細砂 | п | 赤褐色 | - | 玄 | n | | |
| 79 | n | 9.1 + c | | 細砂粒 | " | 赤褐色 | _ | 周 | n n | | |
| 80 | 椀 | 8.8 39(|) 口縁部はやや外反しながら丸くおさめる | 細砂 | や、良 | 褐色 | - | 4 号 周 | 土師器 | | |
| 81 | 髙 杯 | 13.1 + d | 01 02/447 の形飾より十 7 1:04の間部間よく | 砂粒の石英含む | あまい | 暗黑褐色 | - | n | n | | |
| 82 | " | 14.9 10. | 3 接合するものと思われる。口縁部は外反 | 細砂 | " | 赤褐色 | - | " 玄 | n | | |
| 83 | n | 14.2 | しながら端部をさらに外反する。82は内 | 砂粒まじり | や、良 | 褪 色 | - | "周 | 脚部径 " 12.3 " | | Г |
| 84 | n | 14.7 10. | 1 面に放射状暗文、外面はヘラ磨きがあり | わずかに砂粒を 含む | 不 良 | 内福色 外黒褐色 | - | " | 野高 " 5.9 " | | _ |
| 85 | " | | 脚部の裾部で広がる。85, 86は84と同様 | 砂粒 | あまい | 黒 褐 色 | | " | 脚那径 9.5 "高 6.4 | | П |
| 86 | " | | な杯が接合する。 | 砂粒多し 雲母まじる | ,, | 淡褐色 | - | " | " 10.2 " 6.9 | | H |
| 87 | <i>h</i> , | 14 9.7 | 5 87は小型, 88, 91は中型, 90は大型に入 | 砂粒・雲母を含 | " | 黄 " | - | 玄 | " 0.5 | | \dagger |
| 88 | , ,, | 13.1 — | - - - る。87,91の口縁部は胴部から内傾し。 | 砂粒を多く含む | п | 淡 " | - | 周 | п | | Ħ |
| 89 | " | 16.2 7+ | - g 類部で強く外反し端部は鋭くおさめる。 | 細砂 | 不 良 | 黄白色 | - | " | " | | 38 |
| 90 | " | 15.7 25. | 00114 2 1 2 1 2 2 00 00 00 00 00 00 | 砂粒 | 不 良 | 黄褐色 | 右 | 玄 | ,, | | 39 |
| 91 | " | 16 18. | | 砂粒多し | あまい | 暗 " | - | " | " | | 39 |
| 5- 1 | 杯蓋 I類 | 15.4 4.7 | 1.40 1.4 40 47 2 20 46 40 1.44 40 1.46 40 | 2~3mmの石英が 混る | n | 淡 // | 左 | 5号周・玄 | 立上 ⁷ 2.1 Ib | d 1 | 46 |
| 2 | ,, | 16.2 3. | Lighten Lat. 1. Photograph 2 - 1. 14 co. | 砂粒 | や、良好 | 青灰色 | " | 周 | # T1 | I b | -3 |
| 3 | " | 14.2 4. | * ** | 小石・砂粒を含む | 良好 | " | ,,, | /// | 1.5 I b | Iь | H |
| 4 | ,, | | | 砂粒まじり | 普通 | 淡青灰色 | ,, | 玄 | I b | Id | H |
| 5 | 杯 身 | 13.2 4. | - + 1 n + / + 4 + 7 + | 2~3 mmの石英 粒を含む | 11 /01 | 内淡灰色 外淡一部黑 | ,,, | 周 | 受部径立上り | 1 a | H |
| 6 | " | 11.4 4. | the 2 Market Court Is also a second to the court in the | 粒を含む 砂粒まじり | <u>"</u> | 外淡一部黑 青 灰 色 | - " | /III | 15.0 0.95 | " | + |
| 7 | " | 12.8 4. | 2.四本四支左升 《五部五八441/989年 | 砂粒を含む | 良好 | H M E | 右 | " | 14.6 1.5 | I b | - |
| 8 | ,, | 11.6 4. | * | 1~2 mmの石英 | あまい | 福 色 | 113 | " 玄 | 14.0 1.5 | 1 d | ├- |
| | | 12.8 4. | Olman / with stone on The last touch the | 粒を含む | a) 2 4' | ~~ = | Ι ″ | i X | 15.0 0.97 | ıα | 1 |

| | | | and the second of the second | | 14: -25 | // -9a4 | 070 | the Leader de | /# .¥. | 八重石 | P:- |
|-------------|-------------|--|---|------------------------------|------------|-----------------|----------------|---------------|-----------------------------|----------|----------|
| No. | 種類 | 法量cm | 形態・手法の特徴 | 胎 :t: | 焼成 | 色調 | [u] 🗱 | 出土地点 | | 分類 | Fig |
| 5.9 | 林身工加 | 11径 器高 | 11径も大きくなる。ヘラ削りは1/2程度 | 2~5mmの石英粒 を含む | あまい | 内淡灰色 外灰色(一部) | | 15 | 受部径立上リ 15.8 0.9 | Id | _ |
| 10 | # V 類(| 11.5 3.75 | 口縁部は外反しながら端でさらに外反し丸くおさめる。 | 砂粒 | 不 良 | 黑灰色(**) 黄褐色 | - G | п | | ļ | |
| 11 | ž II | 16.6 7.8 | 天井部と体部の境に稜を持ち、内面には | # 小石 | や、不良 | 暗青灰色 | μ | 11 | 37.11.0 2.7 | <u> </u> | ļ |
| 12 | 0 0 | 16.5 6.5 | 沈線がある。ヘラ削りは1/2程度11, 12 | 組砂 | 19 好 | 背灰色 | " | n | 2,21 | | <u> </u> |
| 13 | 11 11 | 15.8 6.5 | の日端部に烈点文有 | 砂粒 | 州 通 | " | 11 | " | 2.35 | | |
| 14 | 脚 付 | 11.6 4.8 | 44の蓋であろう。体部との境に沈線,内 | 細砂 | 良好 | 11 | 花 | n | 1.9 | <u> </u> | |
| 15 | 六連杯蓋 | 11.4 4.5 | 廊は段を持つ。ヘラ削1/2程度,14はカキ[] | n . | " | 黒褐色 茶褐色 | n | n | 2.0 | <u> </u> | |
| 16 | Æ | | 特異な形態 天井和は平川でこの部分からカキ 目と波状文がある。 | 細砂わずかに残る | 11 | 赤褐色 | | n | | L | |
| 17 | " | 5.4 4.7 | 内面かえりの高い小型のつまみ付蓋 | 粗粒まじり | п | 暗 灰 色 | lri. | 墳 | 受部径立上り 10.0 1.17 | | 1 |
| 18 | 無蓋Ⅰ類 | | 18は付部と口練部との境に段を持つ。へ | 2-3mmの有英粒 を含む | 不 良 | 淡灰色 | " | M | 1.9 | | |
| 19 | 高杯Ⅱ類 | | ラ削りは1/2程度、19は体部中央に沈線を 持ち口縁部も外反しながら立上る形態。 | 3 months 11 | や、あまい | 灰 色 | | Iń. | 脚高 7.4 | l | |
| 20 | · n III Mi | 10.9 | 20は2~3条の沈線を入れへラは1/3 | н | 善 項 | 内型色 外灰色: 部里色 | - | 幺 | | L | 46 |
| 21 | 有器Ⅱ | 2010 | 21、22は脚部のみで、脚部の形態から小 | 砂粒 | " | 暗青灰色 | 左: | RH | 胸部11後脚高 9.6 4.7 | | 47 |
| 22 | 高杯Ⅱ | | 型のⅡ類とした。23~25までは立上りか | " | " | 背灰色 | 4i | # | 10.3 3.9 | | |
| 23 | " II | 13.6 17.9 | やや内傾し、立上り高が1cm以上である | 細砂 | 良好 | ,, | 左 | 11 | 立 1:0 # 1.3 13.5 | 1 | |
| 24 | " II | | ヘラ削りは1/2程度である。26は杯部が広 | " | н | 灰色+黒褐色 | 4ï | n | 受部径脚部 立上 16.9 14.5 1.0 |) | 1 |
| 25 | " [] | 14.4 19.2 | いが、脚部が大型化し、脚部にカキ目と | 砂塊 | n | 灰色+黒灰色 +アメ色 | J _E | 11 | 立上り脚高 「1.3 13.0 | | 1 |
| 26 | " II | 15.4 18.1 | 波状文を施す。杯部内面に同心円文99箱 | 砂粒を多量に含む | n | 灰色+黒灰色 | łi | 墳 | " " 受部 1.5 16.9 18.9 | Г | \sqcap |
| 27 | 有蓋高杯 | 16.8 22.15 21.5 | 27は脚部は波状文を施す。杯部の立上り | 小石を含む 砂粒をわずかに含 | 良好 | レンガ色 | 左 | 5 号周 3 区 | 受部 立上り 脚高 18.45 1.5 16.1 | \vdash | 47 |
| 28 | 養 | 15.9 4.5 | はやや内向する。 短頸壺の蓋であろう。ヘラ削りは1/3程度 | 砂粒まじり | 9 | 灰褐色 | ŧ | RA . | 18.43 1.3 10.1 | | 48 |
| 29 | 類遊Ⅲ | 9.8 3.35 | 最大後が胴部中央に位置し口練が直立 | 2~3mmの石 英粒 | や、計り | 内淡灰色 | | n | | t | 1 |
| 30 | n I | | 最大径が肺部上部に位置し口縁が重点し鋭い | がみえる。 " | n | 外灰色 | - | 女 | 立 : ウ | T | Ť |
| | FOR II | 7.5 | 口練部が直立する。預部が広い。預部が | 砂粒まじり | 良好 | 灰色 | 左 | 周 | 器径 最大泽 立上 | 9 | t |
| 31 | , V | 9.5 | しまり脳部中位に烈点文を施す。 | 11 | Ř. | 青灰色 | - | <i>n</i> | 14.5 10.8 6.2 | | † |
| 32 | | | management of the state of the | 砂粒少 | 普 通 | 暗黑灰色 | # i | , ,, | 数大径 | + | + |
| 33 | | 5.5 19.5 | 小型で頸部がしまる。外面はナデ内面ナ | 砂料 | 11 /10 | 青 灰 色 | 9.7 | ,, | 15.5 | \vdash | + |
| 34 | | | デ耳が乳頭状を施す。偏平な形態。 | # 多L | 不良 | 赤褐色 | <u> </u> | 11 | 1:602 | 4 | + |
| 35 | カメ | | 口練部は強く外反する。内面はヘラナデ | | T R | 明用用 | - | " | 11,000 | - | + |
| 36 | " | 13.4 12.6 | 外面は刷毛目調整 | 細砂 | " " | | ±: | <i>y</i> : | 商台高 " | + | + |
| 37 | 高台付梳V | 15.2 6.8 | 底部と体部との境に高台がつく。口縁部 | " | | 赤 " | ?_ | | 0,7 | + | + |
| 38 | " V | | は少し外反しながら口縁にいたる。内外 | 細砂わずかに含む | 40 · // | | _ | , | 0.9 | + | +- |
| 39 | " V | | 面ともへラ磨き。 | 砂粒 | 普 通 | 暗黄灰色 | - | · 女 | 1.0 10.5 | | + |
| 40 | 12 | 21.2 2.6 | 内面に放射状暗文、外面はヘラ磨き | 細砂わずかに含む | や、不良 | 赤褐色 | | 5号周溝 | 底部 商台 | + | 48 |
| 41 | [1] 磁 | | 底部のみであるがおそらく 玉縁口縁のつく 形態 | # 4 mmをごの行英粒が | | 白色 | | 5号玄宝 | 7.7 | + | + |
| 42 | カメ | 40 | 口縁部に波状文を入れる。 | 混る。 | 良 | 淡灰色 | - | 5号周溝 | | + | 49 |
| 43 | 器台 | + a | 大型で内面はナデ、外面は2条の波状文 | 細砂粒 | 普 通 | 71 20 | - | п | | + | +- |
| 44 | 脚付連杯 | 開作器 1,29 5 F23 4 単元17 0 F (株) 1 株 10 3 乗業務 (株) 3 0 万 1 | 杯部の接合面およびその下端に粘土張り付け | 細砂をわずかに含 | " " | 灰 色 | - | # D. D. 28 | 立.E.0 | +, | 49 |
| 6-1 | 杯蓋I | 2.9器高 4.7 | 1 | 砂粒を含む | 良好 | 内波斯氏 | + | 6 号周溝 | 2.0 | Іь | 55 |
| 2 | " I | 14.5 + α_ | に役を施す。ヘラ削りは1/2程度 | 細砂粒 | やいあまい | 外"一部黑色 | | , , , , , , , | | Іь | - |
| 3 | " II | 13.4 3.9 | 外面の機が消え内面に沈線有へラ1/3程度 | | 良 好 | 濃 青 灰 色 | †i | 6 号玄室 | | + | 1 |
| 4 | " [V | 11.0 3.4 | 天井部かやや平中部を形成へラ削りなしナデ | 小石まじり砂粒 | " | 色(淡褐色) | " | 6 号周溝 | | - | + |
| 5 | " V | 13.9 2.5 | 内面にかえりを持つ大型と小型があまり | わずかに2-3mm の石英粒を含む | や、あまい | 茶褐色 | " | n | | + | +- |
| 6 | | 12.6 1.9 | またつまみをもつ形態とない形態がある | 細砂 | 良 好 | 青灰色 | | " - | - | - | + |
| 7 | " | 10.8 2.1 | へラ削りほわずか天井部の一部に認めら | н | " | " | 有 | " | | + | + |
| 8 | n n | | れるが、ナデである。 | Ti 英2~5mm多し | や・あまい | 淡茶褐色 | " | n | 受部径 立上り | + | + |
| 9 | 杯身 I | 13.2 4.3 | 立上りが高いが10などひずみによるかも | 2~5mmの石英粒 混る | あまい | 灰褐色 | + | 6号玄室 | 15.2 1.4 | I b | - |
| 10 | " | 10.5 4.5 | しれない。ほぼ 1.4cm内外である。 | 1~3mmの石英粒 多し | 普 通 | 濃 灰 色 | ti | 6号周清 | 13.8 1.5 | I b | 4 |
| 11 | п | 11.6 4.1 | | 2~5mmの石英粒多 く含む | | 外灰色 | " | " | 13.8 1.4 | I b | 4- |
| 12 | 杯身 V | 3.8 10.9 + a | 戯かもしれない。口稼節は且又する。 | 2~5mmの石英粒を 含む | n | 赤褐色 | - | п | | | <u></u> |
| 13 | カーメ | 1.6 13.2 + a | 3点とも外面は刷毛目調整で内面は3点 | 砂粒を多く含む、0.5cm程 度の石英と雲母を含む | " | 裾 色 | <u> </u> | " | 土 師 器 | 1 | ₩ |
| 14 | " | 16.1 1.5 | しょっニーデガカス 口繰けり占しまが | | | " | | 6号墳丘 | | _ | _ |
| 15 | n | 26.5 | 反するが特に15は強く外反する。 | 砂粒多し | あまい | 暗黑褐色 | | 6 号周溝 | | | 55 |
| 16 | カメ | 4.5 2.5 + α | 大型で口縁は外反する。内面は同心円外面平行即き | 僅かに石英粒が混 る | ,, | 灰褐色 | | n | 最大径 42 | | 56 |
| 17 | ふいご初口 | | 大型のふいご羽口の破片である。17は底 | 5~6㎜の石英粒 | 軟 質 | | | 6号丘 | | | |
| 18 | " | | 面、18、19は中間部、20は口縁部である | て まかた 体 かけっ 今 | | 内赤褐色外 〃一部灰色 | - | n | | | 1 |
| 19 | " | 1 | 特に26は強く火を受けた形跡有。 | 石英多し | 軟 質 | | | В | | | |
| 20 | И | | 1 | 石英粒とスナ入り | " | 内白っぽい 外茶褐色 | | п | | | 56 |
| 7- 1 | 杯蓋I類 | 16.0 5.5 | 天井部との境に稜を持ち、内面端部に段 | (m = 1 + 1 + N 1 + 1 + N | 良 好 | 7 / 4 1 1 | 右 | 7 号墳 lī | 立上り | I a | 62 |
| 2 | n n | 10.0 0.0 | 1 | 砂粒を含む | В | 青灰色 | | 7号 玄 | | Ιa | 1 " |
| <u> </u> | L | 15.8 4.75 | 1 | | L | 1 | -1 | | | | |

| No. | 種 類 | 法量cm | 形態・手法の特徴 | 胎 土 | 焼成 | 色調 | ロクロ | 出土地点 | 備考 | 分類 | Fig |
|------------|---------------------------------------|-----------------------|---|---------------------------------|----------------|---|----------|----------|-----------------------|-----------|--------------|
| 7-3 | 杯 蓋 I 類 | 口径 器高 | 内面はナデ。 | 砂粒を含む | 良 好 | 青 灰 色 | 右 | 7号玄室 | 立上: 9 | I a | 62 |
| 4 | # # # # # # # # # # # # # # # # # # # | 15.8 4.9 15.2 4.9 | 境が稜、沈線の二種。内面は段を施す。 | 小石を含む | " | " " | " | " | 2.1 | Iь | |
| 5 | jı | 15.2 4.9 14.0 5.1 | 端部は鈍い。ヘラ削りは1/2~2/3。内面 | 砂粒を含む | " | ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,, | ,,, | , n EE | 2.5 | Гь | 1 |
| 6 | | 14.4 5.2 | はナデと同心円文叩き。 | 砂粒まじり | n | " | " | 7号墳丘 | 2.55 | I b | Ì |
| 7 | " | 14.2 4.7 | 境が沈線に変化。内面も段から沈線に変 | . " | 不 良 | 灰白色 | " | 7号羡道 | 2.8 | I d | |
| 8 | ,, | 13.8 4.6 | 化する。ヘラ削りは1/2。内面に同心円 | 粗砂を含む | 良 好 | 黒 灰 色 | " | 11 | 2.5 | I d | |
| 9 | ,, | 13.5 4.8 | 文叩きとナデ有り。 | 砂粒を多く含む | · n | ねずみ色 | " | 7号玄室 | " | I d | |
| 10 | 杯蓋II類 | 12.4 3.8 | 内面の沈線だけとなり小型化する。 | 砂粒を含む | n | 灰緑色 | 1) | " | 2.1 | | |
| 11 | 杯身I類 | 13.3 5.2 | 立上りがやや内容。立上り高は 1.6cm | n | n | 青灰色 | 左 | n | 受部径 立上り 15.95 1.85 | Ιa | |
| 12 | " | 13.0 5.1 | 程度。大型で器高も高い。へラ削りは | 砂粒少量 | や、良 | 白灰色 | 右 | 7号周溝 | " 立上り 15.7 1.6 | I a | |
| 13 | ,, | 13.2 5.3 | 2/3。内面ナデ。17も同様 | 〃 を含む | 良 好 | 青 灰 色 | tt | 7号玄室 | 15.6 1.6 | Ιa | \Box |
| 14 | " | 12.4 4.65 | 18とともに立上り高が 1.5cm内。ヘラ削 | | | " | " | n | " " 14.87 1.4 | IЬ | |
| 15 | II . | 12.0 4.6 | nu1/2~2/3。 | 砂粒を多く含む | 不 良 | 白灰色 | 左 | " | " " 14.45 1.1 | I d | |
| 16 | " | 13.2 5.2 | 15・16は大型であるが立上り高は 1.1cm | н | や、良 | 底部白色 口縁緑灰色 | " | n | " " 15.4 1.15 | I d | |
| 17 | " | 12.0 5.3 | 前後で低くなる。ヘラ削りは1/2。内面 | 砂粒を含む | " | 灰白色 | 右 | 7号墳丘 | 14.7 1.6 | Ia | 1 |
| 18 | " | 11.4 5.2 | に同心円文の叩き有。 | n | や、不良 | 黒 灰 色 | " | 7号玄室 | 14.4 1.4 | I d | |
| 19 | 盖 V | 9.5 4.1 | 内面かえりの高い蓋で疑宝珠状のつまみ | 多くの砂粒(3~5mm) のものが混る | や、あまい | 背灰色 | _ | " fi. | " 立上" 11.3 0.8 | Ĺ | 62 |
| 20 | 無蓋高杯II | 10.1 13.3 | 20は2条の沈線を入れ、口端部はやや外 | 2~3mmの 石英粒多し。 | 普 通 | 黒 灰 色 | - | 7 号周溝 | | | 63 |
| 21 | " IV | 8.2 7.2 | 反。21は稜もなくなる。ナデ。 | 良 | 普通よりや やおちる | 灰 色 | - | n | 立上り 1.0 | | |
| 22 | 無蓋壺Ⅱ | 8.9 — | 肩が張り、口端部が内傾する。内外ともナデ | 1mm程度の石英粒 が僅かに混る。 | 一部普通部 分的にあま | " | _ | п | | | |
| 23 | 横 瓶 | | 接合部が2ヶ所。全体にナデで仕上げ | 砂粒を含む | 良 好 | 無色+ 黒灰色 | 右 | 7号墳丘・玄室 | | | 1 |
| 24 | 広口 壺 | 11.4 14.9 | 体部下位に平行叩き、上部はナデ。内面ナデ。 | 砂粒 | 普 通 | 青灰色 | 左 | 7 号周溝 | | <u> </u> | |
| 25 | 長頸壺口 | 9.1 | 口縁部のみ。端部は内傾する。ナデ | 細砂 | " | n | 右 | 7号墳丘・玄室 | | 1 | |
| 26 | FOR II | | 26・27は頸部がしまらず口頸部がやや | 2~3 mm。 石英粒がまじる。 | " | 灰 色 | | 7号图溝 | | | |
| 27 | n II | | 外反して直立する。底部にヘラ削は頸部 | 1mm程度の石英粒 が僅かにまじる。 | " | 1) | _ | " | | | |
| 28 | n IV | | がしまる。カキ目を加える。 | 砂粒多 | 良 好 | 青灰色 | 右 | n | | 1 | |
| 29 | 提叛I | 10.4 | 耳が接しない扁平である。 | 石英粒 2 ~ 3 mm めだつ | やいあまい | 内灰色外黒っぽい灰色 | _ | n | | 1 | 1 |
| 30 | 無蓋高杯 | | 脚部のみであるがおそらくII類であろう。 | 砂粒 | あまい | 赤褐色 | - | " 玄 | 脚部径 脚高 ±前器 | 4 | <u> </u> |
| 31 | カメ | 11.9 | 内外とも刷毛目調整で端部は丸い。 | 砂粒多し 3 - 4 mmの石英粒 | n | 暗褐色 | _ | 7号周溝 | | 4 | 63 |
| 32 | 横 瓶 | 9.5 27 +α +α 45 | 大型で外面は平行、内面は同心円文の叩き。 | を含む | 良 | 黒 灰 色 内濃灰色外 | - | n | <u> </u> | - | 64 |
| 33 | カメ | 28 + a | 33~36は中型, 37・38は大型のカメ。 | 僅かに石英粒が混 る | や、あまい | 一部灰色黑灰 | - | н | <u> </u> | | " |
| 34 | | 30.2 48.8 | 33は指圧の痕跡がある。最大径が胴部中 | 細砂粒 僅かに砂粒を混 | " | 外黑灰色 淡黑灰色 | | 7号墳丘 | 最大径 | - | " |
| 35 | . " | 19.5 36 30 | 位にある。口縁部は大きく外反する。38 | る 僅かに3 mm粒の | " | 内外灰色 内や 淡製灰色 外黒灰色 | - | 7号周溝 | 34 | + | н |
| 36 | " | + a 78 | は肩の張った形態を示す。外面は平行・ | 石英を含む 細砂粒 | 普通とや、 | 外黑灰色 淡 黒 灰 色 | <u>-</u> | 7号玄室 | 30.7 | + | 64 |
| 37 | " | 39.5 +α 81 | 内面は同心円文叩キである。 | **ロログモ!! | あまい所有 | 到灰色. | - | 7号周溝 | 60.5 | + | 65 |
| 38 8- 1 | 杯蓋Ⅰ類 | 41 + α | 工井加し仕前しの接に済命よ(1.2 | | あまい良 好 | 内淡赤褐色 | 右 | 7号? | 67.6 立上り I b類i | I ЬЖ | 73 |
| 2 | 作 登 1 規 | 14.4 4.5 | 天井部と体部との境に沈線が入る。 へラ削りは約1/2以上, 内面は鋭い | 地まじり | IR ST | チョレート色 | 111 | " 玄 | 11 | 1 0 990 | 13 |
| 3 | " II | 13.5 4.3 | 天井部と体部との境がなく内面に沈線が | 砂粒を含む # まじり | ,, | 黑灰色 | 左 | " 五 | 2.2 " | | - |
| 4 | " " | 14.0 3.8 | 入方のと体部といえがは、73国に元禄の 入る。大型化しヘラ削りは1/2程度である | l | ,, | 灰色 | 右 | " " | | + | + |
| 5 | n n | 14.5 4.1 | 7 - 5 5 7 - 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 2 1 2 1 | 砂粒を含む | n | 青灰色 | " | " | 立上り 2.25 | +- | Ť |
| 6 | " " | 15.2 4.1 13.75 4.7 | | 1~3 mmの石英 | あまい | 乳灰色 | - | n, | 4.60 | \dagger | \vdash |
| 7 | 杯身 " | 12.7 4.7 | | " | n | " | - | " | 受部径 立上り 15.3 0.9 | | \vdash |
| 8 | 杯蓋I | 13.7 3.5 | 小型であるが、内外ともに沈線が入る。 | 砂粒を多量 | 良 好 | 青灰色 | 左 | " | 1,45 | Ιь | |
| 9 | 杯身 " | 11.8 3.4 | ヘラ削りは約1/2~2/3程度 | n n | η | 暗黑灰色 | " | " | 13.8 1.3 | n | Г |
| 10 | 杯 蓋 II | 12.8 4.1 | 内面のみに沈線が入る。天井部が平担に近くなる | n | " | " | 右 | 玄 | | | |
| 11 | " III | 13.0 3.8 | 小型となり内外とも沈線がきえる。 | 砂粒を含む | n | 黑 灰 色 | " | <i>n</i> | | | |
| 12 | n n | 11.6 3.9 | ヘラ削りも1/3以下 | 細砂のみ | や・不良 | 灰白色 青灰色 | " | 周 | | | |
| 13 | 杯身I | 12.8 4.4 | 体部の肩の張る。立上りは内傾し、ヘラ | 1~2mmの石英 僅かにまじる | や・あまい | 内灰色外淡 灰色 部灰色 | " | n | 立上り | I d | |
| 14 | 9 11 | 12.9 4.4 | 削りは1/2程度,立上り高は1.2cm | 砂粒まじり | 良 好 | 青灰色 | 11 | Ħ | 受部径 立上り 15.75 1.2 | " | |
| 15 | 11 11 | 13 4.6 | 立上りは高くないがヘラ削りが2/3程度 | 細粒まじり | п | " | 11 | " | 15.6 1.2 | Ιb | oxdot |
| 16 | n n | 12.8 5.0 | 器高が高く内面に同心円文叩き有 | 細粒のみ | " | " | " | п | 15.7 1.2 | " | _ |
| 17 | 11 11 | 11.6 4.6 | 18は立上りが1度内傾し端部で直立する | 砂粒少 | n | 灰 色 | " | n | 14.4 1.0 | I d | - |
| 18 | 11 11 | 10.6 3.9 | ヘラ削りは2/3, 17・18は立上りが内傾す | 2~5 mmの石英 多量に含む | 普 通 | "(やや青珠) | " | . # | 12.3 1.11 | Іс | |
| 19 | п п | 13.4 4.6 | るものとやや内傾するものがある。 | 砂粒を含む | 良 好 | 青灰色 | 左 | " | 15.3 1.0 | I d | 1 |
| 20 | " II | 13.2 3.9 | 立上りは低いが口径は広い。ヘラ削りは | 3~1 mmの石英 粒がまじる 2~3 mmの石英 | 普 通 | 灰 色 内淡灰色 | · - | " | 15.3 0.8 | - | |
| 21 | " II | 12 3.1 | 1/3以下となる。内面ナデ | 粒がまじる | " | 外黑灰色 | - | " | 14.2 0.8 | - | - |
| 22 | " III | 10.6 3.7 | 立上りが低く内傾し器高も小さくなる。 | 粒が含まれる | やいあまい | 黒 灰 色 | | 玄 | 13.85 0.8 | | 73 |

| N. | 種 類 | 法量cm | 形態・手法の特徴 | 胎士 | 焼成 | 色調 | ロクロ | 出土地点 | 備考 | 分類 | Fig |
|------|------------|---------------------|---|---------------------------------|-------|------------------|-------------|---------------|-------------------|-----------------|--------------|
| No. | | 広重CⅢ □径 器高 | 7 22 17 22 | ガロ 2 ~ 3 mmの石英 | | | [0] 162 | | ₹ (-1) | <i>1) 1</i> (1) | |
| 8-23 | 杯身皿 | 12.5 2.9 | ヘラ削りは1/3以下 | を含む わずかに砂粒を含 | あまい | 灰色 | | <u>玄</u> 周 | 14.6 0.7 | | 73 74 |
| 24 | 有蓋高杯養工 | 15.6 5.5 4.3 | 境は稜をなし天井部にはカキ目、内面に段あり | む 1 ~ 3 mmの石英 | 良好 | 青灰色 | <i>F</i> r. | | 1.9 | | 14 |
| 25 | " II | 17.0 + a | 境が沈線となる。内面には段を持つ。 | 粒が混る 2~6 mmの石英 | 不良 | 淡灰色 | | " " | | | - |
| 26 | " II | 16.7 5.0 | 口径は大きい。ヘラ削りは1/2程度 | 粒が混り不良 混りは少ないが5 | やいあまい | 淡灰黑色 | | | つまみ高0.9立上り | | i - |
| 27 | " III | 14.5 5.6 | 内面のみに段を持つ。器高が高くなり | mm程度のもの 2~4 mmの石英 | あまい | 淡灰色 | - | 玄 | # 径 2.6 1.8立上り | | - |
| 28 | " III | 14.7 6.4 | ヘラ削りは1/2程度 | 粒が混る | や、あまい | 濃 灰 色 | 右 | 周 | 2.6 1.2 | <u> </u> | |
| 29 | " N | 14.0 5.9 5 | 内面の沈線も消え、端部は丸みを持つ。 | 細砂粒 | 普 通 | " | 左 | " | | | |
| 30 | " " 把手付 | 16 + α | 器高は高い。ヘラ削りは1/3 | リ わずかに石英粒を | n | 灰色(部分 | | <i>"</i> | | | |
| 31 | 無蓋高杯 | 11.0 8.25 | 新羅系土器、内外面とも精巧な作り。 | 含む | " | 的に黒) | | " | 受部 立上り 脚高 | | |
| 32 | 有蓋高杯【類 | 14.0 19.5 | 体部の肩が張る。立上りはやや内傾する。 | 粒値かに含む 2~3 mmの石英 | | 内や、連めの灰 色外黒灰色 | | " | 16.15 1.3 10.4 | _ | |
| 33 | " II | 13.7 9.6 | 杯部が多少大きくなる。立上りは内傾 る | 粒僅かに含む 3~5mmの石英 | n | 灰 色 内灰色外灰 | | " | 15.9 1.26 5.35 | | 1 |
| 34 | " III | 15.1 9 | 杯部が大型化する。立上りからすれば I | 粒僅かに含む わずかに石英粒を | やいあまい | 色及び無灰色 | | | 16.8 1.9 5.1 | _ | - |
| 35 | н п | 14.0 17.8 | 類に近いが、杯部の大型化で田類とした | 含む 2~3mmの石英 | " | 濃 灰 色 内灰色,外 | | <i>n</i> | 16.6 1.1 13.5 | | 74 |
| 36 | " " | 15.4 9.5 | 脚部には短脚と長脚がある。 | 粒僅かに含む | 普 通 | 黑灰色 灰色, 表面自 | - | | 18.1 0.95 5.0 | | 75 |
| 37 | 11 11 | 16.5 9.4 | 透孔は円形と長方形である。 | 砂粒まじり | 良 好 | 然釉 灰色部黑 | - | "墳 | 16.35 1.0 4.65 | | |
| 38 | 11 11 | 12.5 8.7 15.3 | 短脚にはカキ目を施す。 | 3~5 mmの石英 粒が混る 1~5 mmの石英粒 | や、不良 | 灰色 | | 周 | 16.0 1.0 4.2 | - | + |
| 39 | 有菱高杯Ⅲ類 | 13.3 + a 13.5 | 立上りが1 cm内外で体部が張る形態 | を含む | あまい | 赤褐色 | - | 8 号周溝 | 0.9 土師 | | ļ |
| 40 | " | 13.2 + a | 39に一部カキ目、内面はナデ 杯部中位から口端部まで沈線を連続的に | n n | | 青 灰 色 | 左 | " 玄 | 1.0 | | |
| 41 | 無蓋高杯 | 13.7 7.5 + a + a | 入れる。 | " | あまい | 外赤 # | | 8号玄 | 6.2 土師器 | ļ | _ |
| 42 | II . | 9.8 9.75 | 杯部中位下に稜を持つ小型,内面ナデ | 細砂+小石 | 普 通 | 淡青灰色 | 右 | " | 立上9 | | ļ., |
| 43 | 蓋 | 9.8 6.2 3.4 | 内面かえりの高いつまみを持ち外面にカキ目 | 砂粒を含む | 良 好 | 青 灰 色 灰色一部赤 | 11 | n n | 0.8 | | 1 |
| 44 | 脚付長頸壺 | 8.1 | 脚部欠損, 頸部から外反しながら口端部で内弯 | 僅かに混る | 普 通 | 楊色 | - | " | | ļ | |
| 45 | 短頸壺II | 6.7 8.6 + α | 45は口縁部が長く立ち嗣部も張らない。 46は最大径が上位にあり層が張る。47も | 3~5 mmの石英 粒多し | " | 灰色 | | 8 号 周 | | | 75 |
| 46 | " IV | 7.4 + a | 同様、ヘラ削りは底部の部分にある。 | 1~3 mmの石英値 かに含む | " | 育灰色+淡 | 右 | | 立上り | <u> </u> | 76 |
| 47 | " IV | 8.5 7.6 | 内面はナデ | 砂粒 | 良 好 | 白灰色 | 左 | 11 | 1.1 | ļ | <u> </u> |
| 48 | 蓋 | 2.5 8.2 + a | 49の畫ではない。おそらく短頭臺の蓋で あろう。 | 細砂粒多し | や・あまい | 濃 灰 色 | 左 | п | 立上り | _ | 1 |
| 49 | 短頭壺I類 | 8.4 8.2 | 49は最大径が下位にあり、口端部は内弯 しながら鋭利におさめる。50は最大径が | 砂粒少 | 良 好 | 淡青灰色 | 右 | " | 立上り | ļ | <u></u> |
| 50 | 〃 II類 | 8.2 8.7 | 中位。 | 砂粒 | 良し | 背灰色 | 右 | " | 1.4 | | \vdash |
| 51 | 無蓋自杯VI類 | 6.8 9.2 | 小型で杯部の口端部が内弯する。 | 2~3 mmの石英粒 多し | 普 通 | 淡あづき色 | | ji ji | | <u> </u> | <u> </u> |
| 52 | 蓋 | 6.7 4.1 | 新羅系土器,半円鷹文を施し、精巧な作り。 | 細粒砂 | 良 | 内灰色外灰 色自然釉 | - | ,,, | | <u> </u> | <u> </u> |
| 53 | 甕 | 23.8 | 53は口端部がくの字に外反し肩が張らな | | | | | 8 周号 | | _ | \vdash |
| 54 | n | 69 38 + α | い。54は口縁部がわずかに外反する。 - 55は口端部が外反して丸みを持つ。 | 精良 | 普 通 | 黒 灰 色 | _ | 8 号 周 | | | \perp |
| 55 | " | 21.4 | 56は外反しくの字に入る。胴部外面は平 | 砂粒を含む | 良 好 | 暗赤褐色 | - | " | | | 1 |
| 56 | " | 32 | 行,内面间心円文 | 11少 | "(堅微) | 淡灰色 | _ | 8号羡道 | | ļ | <u> </u> |
| 57 | 椀 | 6.7 18 + a | 大型で内外面ともヘラ磨きを施す。 | 良 | 普 適 | 赤褐色 | _ | 8号玄 | | | <u> </u> |
| 58 | n | 6.6 17.2 + a | 体部中位に沈線を入れる。 | " | n | 赤褐色 | | 8 号 玄 | | <u> </u> | |
| 59 | 白 磁 椀 | 16.6 6.3 | 王縁付口縁で釉が外面中位までしかかからない | _ | 良 好 | 白 色 | _ | 8号墳丘 | | | 76 |

7号墳出土玉類計測表

(単位:mm)

| No. | 種 | 類 | 長 | 径 | 短 | 径 | 高 | ž. | 孔 | 径 | 色 | | 調 | 材 | | 質 | 備 | | | 考 |
|-----|---|-----|-----------------|-----|---|------------|-----|-----|---|----------------|---|----|---|---|----|------------|----------|-----|---|----|
| 1 | 管 | 玉 | (<u> </u> 8 | -) | | (下) 7.9 | 22 | | | 上 3 下 1.2 | 禄 | 禯 | 色 | 碧 | | 3 i | 谪 | 面 | 穿 | ₹L |
| 2 | | п | 9 | | | 9 | 24. | .3 | - | ት 4 F 1 | | n | | | n | | 片 | 面 | 穿 | ₹L |
| 3 | | " | 9 | | | 8 | 24. | .5 | : | 上 2 下 1 | | n | | | п | | | ,11 | | |
| 4 | | и . | 9 | | | 9 | 21 | | - | 上 3 下 1 | | n, | | | п | | | n | | |
| 5 | | " | 7 | .5 | | 7 | 20 | | | 上 2 下 1 | | н | | ļ | n. | | | " | | |
| 6 | | n | 8 | .5 | | 8 | 25 | | | 上 2.2 下 1 | | н | | | " | | L | " | | |
| 7 | | 11 | 8 | .5 | | 9 | 22 | | | E 2 F 1 | | " | | | н | | | 11 | | |
| 8 | | n | 9 | | | 9 | 23 | | - | E 2 F 1 | | " | | | n | | 両 | 面 | 穿 | 扎 |
| 9 | | n | 7 | | | 7 | 24 | | | 上 2 下 1 | | | | | η | | | 11 | | |
| 10 | | " | 8 | | | 8.5 | 18 | | : | F 1 | | 11 | | | 11 | | | n | | |
| 11 | | " | 7 | .5 | | 7 | 16 | | | 上 2.3 下 1 | | н | | | n | | 片 | 面 | 穿 | 7L |
| 12 | | 11 | | 8 | | 8.5 | 15 | | - | 上 2.5 下 2.2 | 淡 | 燈 | 色 | め | の | う | | H | | |
| 13 | | " | | 5 | | 5 | 21 | | : | 上 1.8 下 1.5 | 淡 | 練 | 色 | 粘 | 板 | 岩 | | " | | |
| 14 | | # . | | 5 | | 5 | 18 | . 5 | | 上 1.5 下 1.5 | | " | | | n | | 顶的 | 面 | 穿 | 孔 |
| 15 | | # | | 5 | | 5 | 15 | | | 上 1.8 下 1.5 | | " | | | n | | <u> </u> | " | | |
| 16 | | n | | 5.5 | | 5 | 14+ | - 6 | | 上 1.8 下 1.2 | | " | | | п | | | n | | |
| 17 | | " | | 5 | | 5 | 15 | | | 上 1 下 1 | | n | | | " | | 1 | n | | |

| No. | 種 類 | 長 径 | 短 径 | 高さ | 孔 径 | 色 調 | 材 質 | 備考 |
|-----|-------------|----------|----------|----------|-----------------|-------------------|---|--|
| 18 | 丸 玉 | (上) 8 | (下) 8 | | 2.2 2.5 | 濃 監 色 | ガ ラ ス | 片面穿孔 |
| 19 | " | . 7 | 8 | | 1.5 | n n | " | 両 面 穿 孔 |
| 20 | 11 | 6.2 | 8.5 | | 1.8 1.5 | n n | п | н |
| 21 | н | 7 | 8.5 | | 2 2 | ぐんじょう色 | n | 片面穿孔 |
| 22 | " | 6.8 | 7.5 | | 2 2.5 | 漫 監 色 | n | н |
| 23 | n. | 7 | 8 | | 1.5 1.5 | n n | II . | ħ |
| 24 | " | 6 | 7 | | 1.5 1.8 | " | п | |
| 25 | <i>U</i> . | 7 | 6.8 | | 1.2 1.5 | " | " | 尚 面 穿 孔 |
| 26 | 11 | 6.5 | 8 | | 2 1.5 | . 11 | | |
| 27 | n | 5 | 9 | | 2.5 2.2 | " | и | 片面穿孔 |
| 28 | п | 7 | 8 | | 2 1.8 | " | n | 両 面 穿 孔 |
| 29 | . # | 5.5 | 8 | | 2 2 | 11 | | |
| 30 | n | 4.5 | 7 | | 2 2 | II . | n | |
| 31 | п | 7 | 8 | | 1.5 | n | B . | 片面穿孔 |
| 32 | " | 6.5 | 1.0 | | 2 1.5 | | n | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · |
| 33 | n | 5.5 | 8 | | 2.5 | п | ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, | 両 面 穿 孔 |
| 34 | n n | 5.5 | 8 | | 1.6 | n n | H | ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,, |
| 35 | ,,,, | 5.7 | 8.2 | | 2 1.5 | n n | | " |
| 36 | " | 8 | 8 | | 1.5 1.2 | " | " | 片面穿孔 |
| 37 | n | 5 | 7.5 | | 1 1.5 | . п | " | n |
| 38 | " | 6 | 8.5 | | 1.7 | И | " | y |
| 39 | н | 6.2 | 8 | | 2 2 | や、淡紺色 | и | 片面穿孔 |
| 40 | " | 6 | 8 | | 2 2.5 | 耕 色 | H | 両面穿孔 |
| 41 | 11 | 6.5 | 7.5 | | 1 1.5 | 漫 監 色 | n . | 片面穿孔 |
| 42 | " | 8 | 8 | | 2.2 2.5 | n n | ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,, | 両面穿孔 |
| 43 | n | 5.8 | 8 | | 2 2 | " | " | |
| 44 | " | 6 | 7.5 | | 1.5 1.5 | n n | " | N |
| 45 | н | 6 | 7.5 | | 1 1.5 | n . | | 片面穿孔 |
| 46 | 小 玉 | 3 | 5.5 | | 1.5 | n n | " | n |
| 47 | n | 4.2 | 5.2 | | 1 1 | " | n | " |
| 48 | n n | 3.5 | 6 | ļ | 2 2.5 | н | n n | " |
| 49 | n n | 3.5 | 5.8 | | 1.5 | " | n n | ,, |
| 50 | h h | 3 | 4.8 | ļ | 1.5 1.5 | " | " | 両面穿孔 |
| 51 | " | 3 | 4 | | 1 1.5 | " | " | 片面穿孔 |
| 52 | я | 2.5 | 4.5 | | 1.2 1.5 | " | " | " |
| 53 | " | 3.2 | 5 | | 1 1.5 1.5 | . " | n n | п |
| 54 | " | 1.8 | 3.8 | <u> </u> | 1.5 | 淡紺色 | η | " |
| 55 | " | 3 | 5.5 | | 1.6 1.2 1 | 濃 監 色 | " | " |
| 56 | " | 4 | 4.5 | | i 1 | " | " | " |
| 57 | " | 4 | 4 | | 1 1 | 淡粗色 | " | n |
| 58 | " | 3.5 | 4 | | 1 1.2 | 濃 監 色 | " | n |
| 59 | , n | 3 | 4 | - | 1.2 | II | <i>n</i> . | n |
| 60 | " | 2.5 | 3 | | 1.2 | 淡粗色 | n n | н |
| 61 | " | 3 | 3 | | 1.2 |)) (x & 44 44 | n | " |
| 62 | " | 2 | 2 | | 0.8 | 淡 緑 色 | " | " |
| 63 | n | 3 | 4 | | 0.8 | | " " | " |
| 64 | | 3.5 | 4 | | 1 1.2 | 淡 紺 色 | " " " | " |
| 65 | | 3.5 | 4 | ļ | 1.2 2 2 | プルー | " | " |
| 66 | + | 4 | 6 | + | 1.5 | " | ,, | n |
| 67 | + | 5.5 | 6 | | 2 2.2 | 淡 ブ ル ー | 14 | " " |
| 68 | | 6 | 5.5 | - | 2 | (灰 / ル ー リ | " | " |
| 69 | | 3.5 | | - | 1.2 1 1.2 | n | " " | " |
| 70 | + | 3 | 3.5 | - | 1.2 | " " | " | п |
| 71 | + | 2 | 3 | - | 1 1.5 1 | " " | n | " |
| 72 | | 2 | 3.5 6 | 1 | 1.8 | や、緑がかった淡いブルー | " | " |
| 73 | | 6 | | | 1.2 | ヤ・森かかった狭いブルー | n n | " " |
| 74 | | 5.2 | 5.2 | - | 1.2 | | " | " |
| 75 | " | 3.3 | 4 | 1 | 1.2 | 黄色 | | |

| No. | 種 類 | 長 径 | 短 径 | 高さ | 孔 径 | 色 調 | 材質 | 備考 |
|--|---|---|--|----|---|---------------------------------------|---------------------------------------|--|
| 76 | 小 玉 | (,J:.) 3 | (下) 3.7 | | 1 | 黄 色 | ガラス | 片面 穿孔 |
| 77 | " | 3.7 | 4.5 | | 1 | n | n | " |
| 78 | " | 2.5 | 3 | | 0.5 1 | п | п | n |
| 79 | " | 2.4 | 3.5 | | 0.5 1 | " | " | n |
| 80 | п | 2 | 3 | | 1 1 | " | n | n n |
| 81 | " | 2.2 | 5 | | 1 1 | 黄 紋 色 | Н | п |
| 82 | n | 2.8 | 4.2 | | 0,8 0,8 | " | п | n |
| 83 | n | 3.2 | 4.2 | | 1 | " | и | n n |
| 84 | n | 2.8 | 4 | | 0.8 1 | n | n | n |
| 85 | n | 3.5 | 4.5 | | 1 1 | " | п | В |
| 86 | n | 3 | 4.5 | | 1.2 | п | " | п |
| 87 | " | 3.5 | 4.5 | | 1.2 1.2 | п | н | п |
| 88 | " | 2.7 | 4 | | 0.8 0.8 | н | n | ŋ |
| 89 | " | 4 | 4 | | 1 | п | n . | ıı |
| 90 | н | 3 | 4 | | 1 | В | | ij |
| 91 | п | 3 | 4 | | 0.8 | н | В | ŋ |
| 92 | H . | 2 | 4 | | 0.8 | 淡い黄緑色 | n | н |
| 93 | " | 1.8 | 4.3 | | 1 1.2 | 黄絲色 | н | н |
| 94 | " | 3 | 5.5 | | 2 2.2 | ブ ル ー | " | # |
| 95 | ħ | 2.2 | 5 | | 1 1.2 | " | н | η |
| 96 | н | 2.3 | 5 | | 1 1.5 | " | n | II . |
| 97 | " | 4 | 4 | | 1.2 | ", | н | H |
| 98 | 11 | 2.2 | 4 | | 1 | n | п | В |
| 99 | IJ | 3 | 4.5 | | 1.5 1.5 | н | И | В |
| 100 | 11 | 2.2 | 4 | | 1 | n | п | n |
| 101 | n | 2 | 3 | | 1 1 | n | " | n n |
| 102 | 11 | 2 | 3.8 | | 1 1.2 | 11 | n | n |
| 103 | 11 | 2 | 3.5 | | 1.2 1.2 | n | п | п |
| 104 | n | 2 | 2.5 | | 0.7 0.7 | " | n | п |
| 105 | 練 玉 | 6 | 8 | | 2 2 | 黒 色 | ±. | II II |
| 106 | n . | 6.5 | 9 | | 2.2 2.2 | " | n | II . |
| 107 | " | 7 | 9 | | 2 2.2 | п | n . | n n |
| 108 | " | 10 | 9.5 | | 2 2.8 | " | п | n |
| 109 | п | 6.5 | 7.7 | | 2 2.5 | " | п | 11 |
| 110 | ,, | | | | 1.2 | " | n | |
| 111 | | 7 | 7 | | 1.8 | | | н |
| | , n | 7 | 7 | | 1.5 2 | " | n | 11 |
| 112 | n n | 6 7.5 | 7 8.5 | | 1.5 2 2 1.8 | n n | п | И |
| 113 | n n n | 7.5 7 | 7 8.5 8 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 | n n | n n | н н |
| 113 114 | n n n | 6 7.5 7 6 | 7 8.5 8 8.5 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 | n n n | n n n | и и п |
| 113 114 115 | | 6 7.5 7 6 8 | 7 8.5 8 8.5 8.5 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1 1.8 2.5 1.7 | n n n | n n n | и и и п |
| 113 114 115 116 | н н н н | 6 7.5 7 6 8 7 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 | | 1.5 2 2 2 1.8 0.8 1 1.8 2.5 1.7 1.2 | n n n n n | n n n n | и и и |
| 113 114 115 116 117 | | 6 7.5 7 6 8 7 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 | n n n n n n n n n n n n n n | n 11 11 11 11 11 11 11 11 11 | n n n n n n n |
| 113 114 115 116 117 118 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 1.5 | n n n n n n n n n n n n n | n n n n n n n n n n | и и и п п |
| 113 114 115 116 117 118 119 | , n H H H H H H H H H | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 7.5 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.6 1.5 1.5 1.5 | n n n n n n n n n n n n n n | n n n n n n n n n n | # # # # # # # # # # # # # # # # # # # |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 | , n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 7.5 7 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | n n n n n n n n n n n n n | # # # # # # # # # # # # # # # # # # # |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 6 8 8 6 6 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 7.5 7 8 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 2 2 2 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n | n n n n n n n n n n n n n | # # # # # # # # # # # # # # # # # # # |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 8 6 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 2 2 2 1.5 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | | 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 8 6 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | | # # # # # # # # # # # # # # # # # # # |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 5.8 6 | 7 8.5 8 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 7.5 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1.8 0.8 1.1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | | |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 5.8 6 | 7 8.5 8 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 7.5 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | | |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 5.8 6 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 7.5 7 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1 1.8 2.5 1.7 1.7 1 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | | | |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 5.8 6 6 5.5 6 | 7 8.5 8 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 7,5 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | | | |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 5.8 6 6 5.5 6 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 7,5 7 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1.1 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | | | |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 5.8 6 6 5.5 6 | 7 8.5 8 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 7,5 7 7 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1.1 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | | | |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 | | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 5.8 6 6 5.5 6 6 7.5 7 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | | | |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 | n n n n n n n n n n n n n n n n n n n | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 5.8 6 6 5.5 6 | 7 8.5 8 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 7,5 7 7 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | | | |
| 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 | | 6 7.5 7 6 8 7 7 7 6 8 6 5.8 6 6 5.5 6 6 7.5 7 | 7 8.5 8 8.5 8.5 9 7 7.5 7 8 6.5 6.5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 | | 1.5 2 2 1.8 0.8 1.8 2.5 1.7 1.2 1 1.6 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 | | | |

図 版





4 号玄室出土土器

図 版 目 次

- PL. 1 (1) 1号墳現況近景
- PL. 2 (1) 石室全景
- PL. 3 (1) 2 号墳現況近景
- PL. 4 (1) 3号墳現況近景
- PL. 5 (1) 石室内から羨道部をのぞむ
- PL. 6 (1) 側壁
- PL. 7 (1) 4号墳現況近景
- PL. 8 (1) 石室近景
- PL. 9 (1) 石室と出土土器
- PL. 10 (1) 5号墳現況近景
- PL. 11 (1) 5号石室全景
- PL. 12 (1) 6号墳現況近景
- PL. 13 (1) 6号墳石室
- PL. 14 (1) 7号墳現況近景
- PL. 15 (1) 石室全景
- PL. 16 (1) 羨道部側壁状態
- PL. 17 (1) 8号墳現況近景
- PL. 18 (1) 8号石室全景
- PL. 19 (1) 8号閉塞状態
- PL. 20 1・2号墳出土土器 (1/3)
- PL. 21 3·4号墳出土土器 (1/3)
- PL. 22 4号墳出土土器-1 (1/3)
- PL. 23 4号墳出土土器-2 (1/3)
- PL. 24 5号墳出土土器-1 (1/3)
- PL. 25 5号墳出土土器-2 (1/3)
- PL. 26 6号墳出土土器 (1/3·1/4)
- PL. 27 7号墳出土土器 (1/3·1/4)
- PL. 28 7 · 8 号墳出土土器 (1/3)
- PL. 29 8号墳出土土器 (1/3·1/4)
- PL. 30 1・2・3・4号墳出土土器 (1/3)
- PL. 31 4・5・6・7号墳出土鉄器 (1/3)
- PL. 32 7号墳出土鉄器と各古墳出土の玉類 (1/2·1/3)

- (2) 1号墳周溝と石室全景
- (2) 石室
- (2) 2号墳全景
- (2) 3号增全景
- (2) 羨道部床石状態
- (2) 羨道部側壁
- (2) 全景
- (2) 石室全景
- (2) 土器出土状態
- (2) 5 号墳全景
- (2) 側壁状態
- (2) 6 号墳全景
- (2) 周溝内土器出土状態
- (2) 7号墳全景
- (2) 石室近景
- (2) 石室内土器出土状態
- (2) 8号墳全景
- (2) 8号石室近景
- (2) 8号側壁状態







(2) 1号墳周溝と石室全景



(1) 石室全景 (西から)



(2) 石 室



(1) 2号墳現況近景



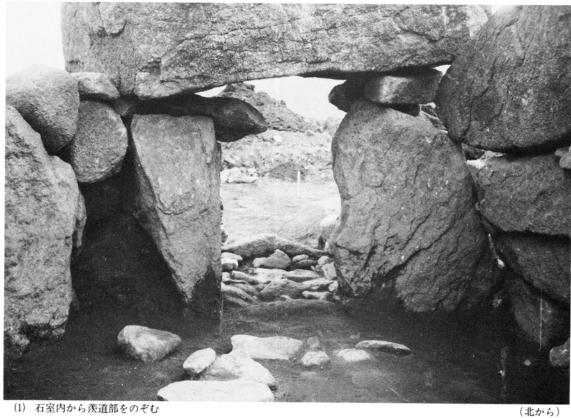
(2) 2号墳全景 (南から)



(1) 3号墳現況近景 (南から)



(2) 3号填全景 (南から)



(1) 石室内から羨道部をのぞむ



(2) 羨道部床石状態 (南から)



(1) 側 辟 (東から)



(2) 羨道部側壁



(1) 4号墳現況近景 (西から)



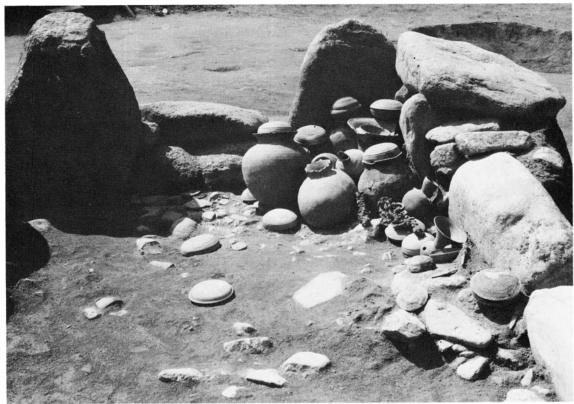
(2) 全 景



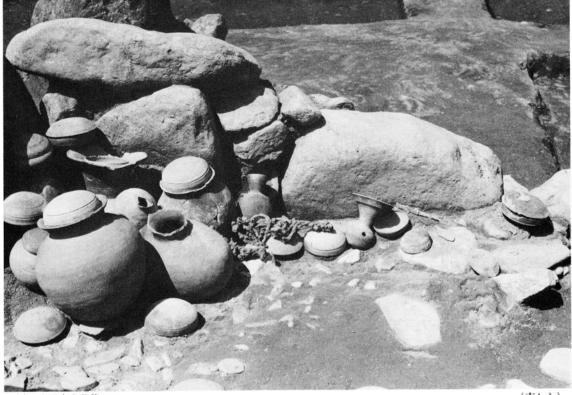


(2) 石室全景

(西から)



(1) 石室と出土土器 (東から)



(2) 土器出土状態



(1) 5号墳現況近景 (北から)



(2) 5 号 墳 全 景 (南から)



(1) 5 号石室全景 (南から)



(2) 側壁状態 (東から)



(1) 6号墳現況近景 (西から)



(2) 6 号墳全景

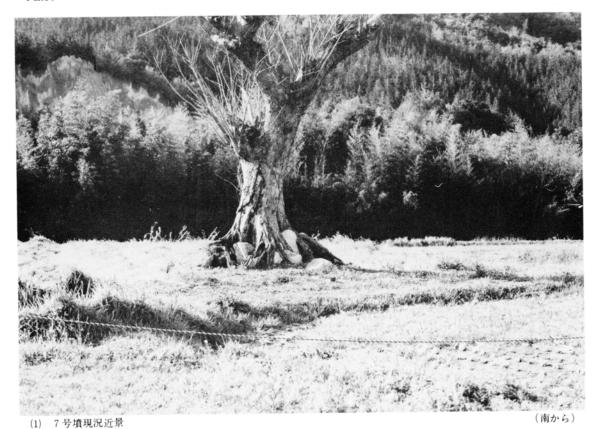
(南から)



(1) 6 号 墳 石 室 (北から)



(2) 周溝内土器出土状態





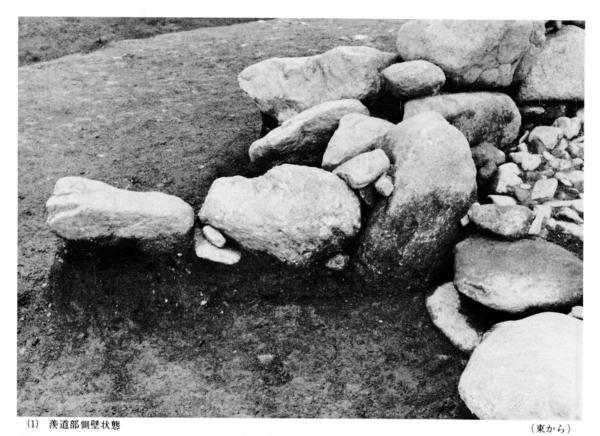
(2) 7号墳全景



(1) 石 室 全 景



(2) 石 室 近 景 (南から)





(2) 石室内土器出土状態



(北西から)



(2) 8 号墳全景

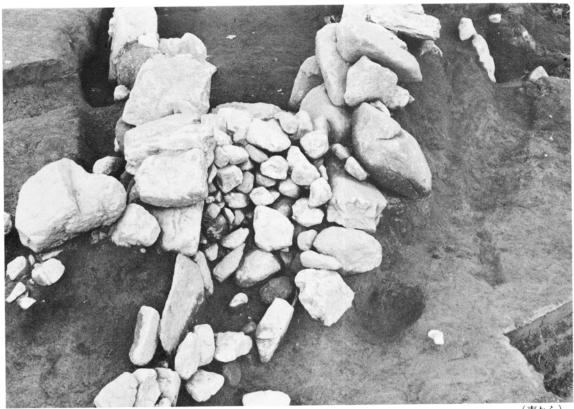


(1) 8 号 石 室 全 景



(2) 8号石室近景

(南から)

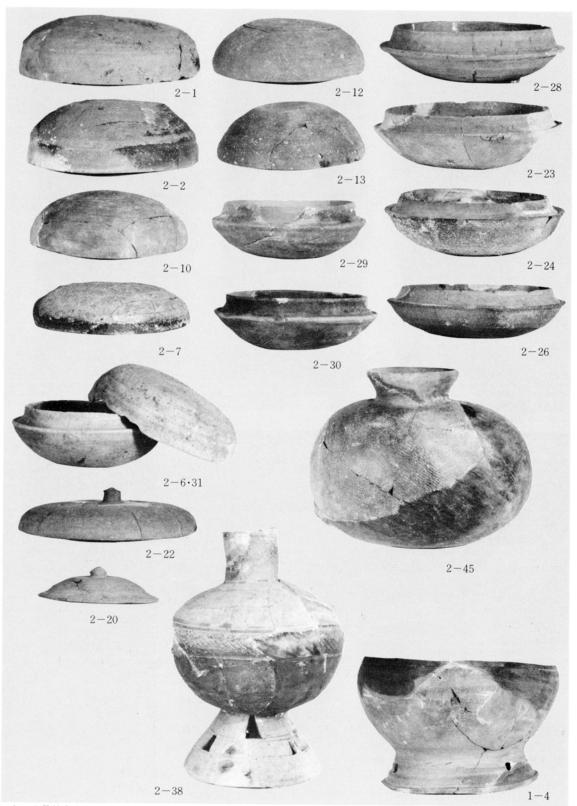


(1) 8 号 閉 塞 状 態 (南から)

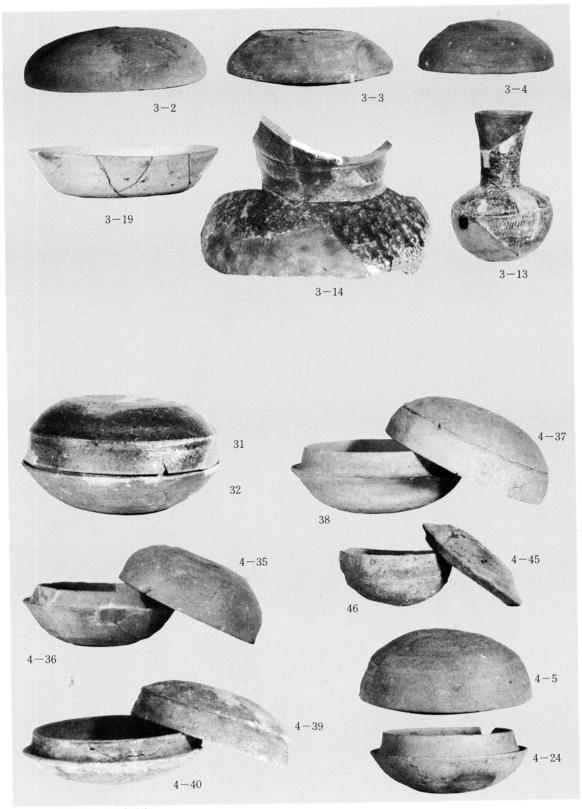


(2) 8 号 側 壁 状 態

(西から)



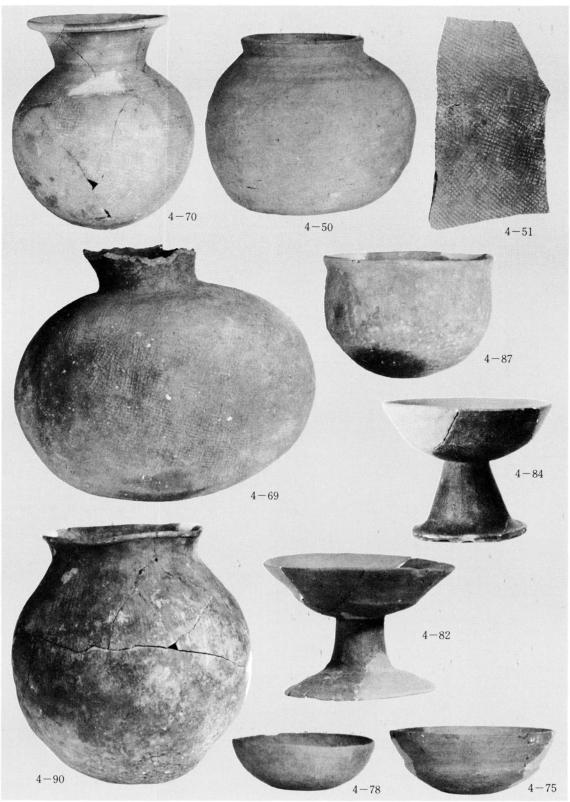
1 ・ 2 号墳出土土器 (1/3・1/4)



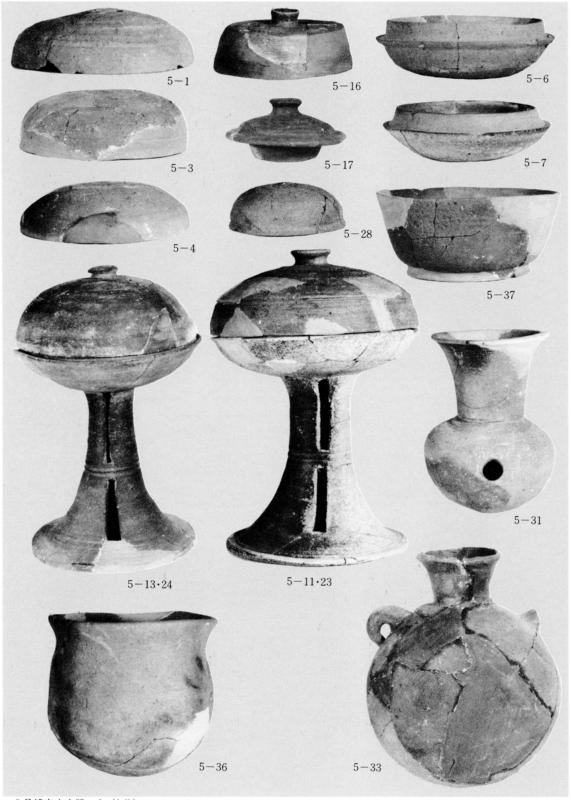
3 ・ 4 号墳出土土器 (1/3)



4 号墳出土土器-1 (1/3)



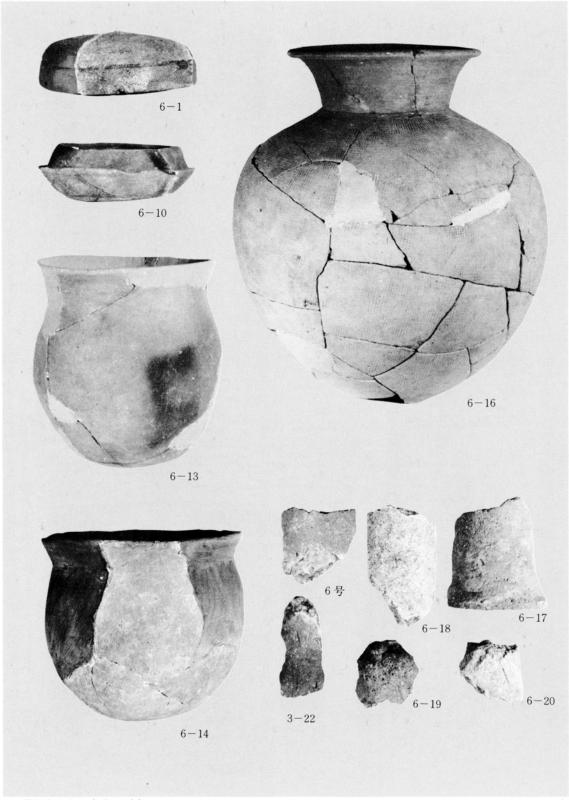
4 号墳出土土器-2 (1/3・1/4)



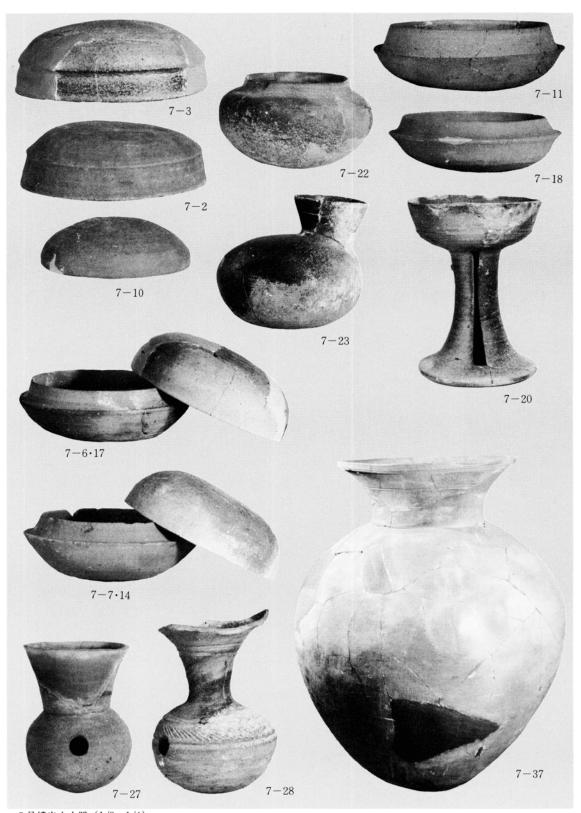
5 号墳出土土器-1 (1/3)



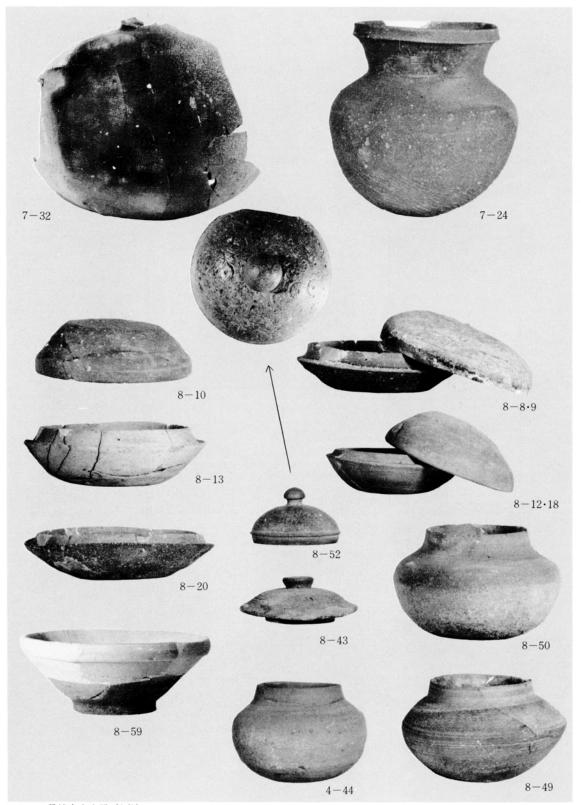
5 号墳出土土器-2 (1/3)



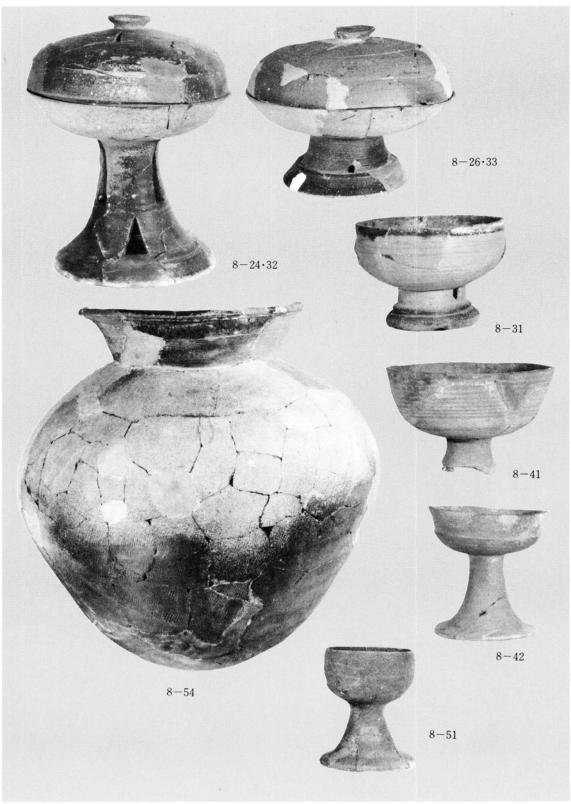
6 号墳出土土器(1/3・1/4)



7号墳出土土器 (1/3・1/4)



7 ・ 8 号墳出土土器 (1/3)



8 号墳出土土器 (1/3·1/4)



1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 号墳出土 鉄器 (1/3)



4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 号墳出土鉄器 (1/3)



7号墳出土鉄器と各古墳出土の玉類(1/2・1/3)

福岡市西区

吉武塚原古墳群

福岡市埋蔵文化財調査報告書第54集

1980年 (昭和55年3月31日)

発 行 福 岡 市 教 育 委 員 会 福岡市中央区天神1丁目7-23

印刷 (株)西日本新聞印刷

